

附錄皇室典範

法例

貴族院伯子男爵議員選舉規則

貴族院多額納稅者議員互選規則

貴族院令並伯子男爵及ヒ多額納稅者議員選舉規則施行ノ詔勅

貴族院多額納稅者議員互選規則取扱方

貴族院事務局官制

衆議院事務局官制

議會並議員保護

貴族院衆議院成立規則

帝國議會議長副議長議員歲費及旅費支給規則

大日本帝國憲法

第一章 天皇

第一條 大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス

第二條 皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之ヲ繼承ス

第三條 天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス

第四條 天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此ノ憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フ

第五條 天皇ハ帝國議會ノ協贊ヲ以テ立法權ヲ行フ

第六條 天皇ハ法律ヲ裁可シ其ノ公布及執行ヲ命ス

第七條 天皇ハ帝國議會ヲ召集シ其ノ開會閉會停會及衆議院ノ解散ヲ命ス

第八條 天皇ハ公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其ノ災厄ヲ避クル爲緊急ノ必要ニ由リ帝國議會閉會ノ場合ニ於テ法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發ス

此ノ勅令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出スヘシ若議會ニ於テ承諾セサルトキハ政府ハ將來ニ向テ其ノ効力ヲ失フコトヲ公布スヘシ

第九條 天皇ハ法律ヲ執行スル爲ニ又ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ増進スル爲ニ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシム但シ命令

ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ス

第十條 天皇ハ行政各郡ノ官制及文武官ノ俸給ヲ定メ及武官ヲ任免ス但シ此ノ憲法又ハ他ノ法律ニ特例ヲ掲ケタルモノハ各其ノ條項ニ依ル

第十一條 天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス

第十二條 天皇ハ陸海軍ノ編制及常備兵額ヲ定ム

第十三條 天皇ハ戰ヲ宣シ和ヲ講シ及諸般ノ條約ヲ締結ス

第十四條 天皇ハ戒嚴ヲ宣告ス

戒嚴ノ要件及効力ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 天皇ハ爵位勳章及其ノ他ノ榮典ヲ授與ス

第十六條 天皇ハ大赦特赦減刑及復權ヲ命ス

第十七條 攝政ヲ置クハ皇室典範ノ定ムル所ニ依ル

攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フ

第二章 臣民權利義務

第十八條 日本臣民タルノ要件ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

第十九條 日本臣民ハ法律命令ノ定ムル所ノ資格ニ應シ均ク文武官ニ任セラレ及其ノ他ノ公務ニ就クコトヲ得

第二十條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ兵役ノ義務ヲ有ス

第二十一條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ納稅ノ義務ヲ有ス

第二十二條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ居住及移轉ノ自由ヲ有ス

第二十三條 日本臣民ハ法律ニ依ルニ非スシテ逮捕監禁審問處罰ヲ受クルコトナシ

第二十四條 日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ奪ハルコトナシ

第二十五條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外其ノ許諾ナクシテ住所ニ侵入セラレ及搜索セラレコトナシ

第二十六條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外信書ノ秘密ヲ侵サルコトナシ

第二十七條 日本臣民ハ其ノ所有權ヲ侵サルコトナシ
公益ノ爲必要ナル處分ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

第二十八條 日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ケス及臣民タルノ義務ニ背カサル限ニ於テ信教ノ自由ヲ有ス

第二十九條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ言論著作印行集會及結社ノ自由ヲ有ス

第三十條 日本臣民ハ相當ノ敬禮ヲ守リ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ請願ヲ爲スコトヲ得

第三十一條 本章ニ掲ケタル條規ハ戰時又ハ國家事變ノ場合ニ於テ天皇大權ノ施行ヲ妨ケルコトナシ

第三十二條 本章ニ掲ケタル條規ハ陸海軍ノ法令又ハ紀律ニ牴觸セサルモノニ限リ軍人ニ準行ス

第三章 帝國議會

第三十三條 帝國議會ハ貴族院衆議院ノ兩院ヲ以テ成立ス

第三十四條 貴族院ハ貴族院令ノ定ムル所ニ依リ皇族華族及勅任セラレタル議員ヲ以テ組織ス

第三十五條 衆議院ハ選舉法ノ定ムル所ニ依リ公選セラレタル議員ヲ以テ組織ス

第三十六條 何人モ同時ニ兩議院ノ議員タルコトヲ得ス

第三十七條 凡テ法律ハ帝國議會ノ協賛ヲ經ルヲ要ス

第三十八條 兩議院ハ政府ノ提出スル法律案ヲ議決シ及各法律案ヲ提出スルコトヲ得

第三十九條 兩議院ノ一ニ於テ否決シタル法律案ハ同會期中ニ於テ再

ヒ提出スルコトヲ得ス

第四十條 兩議院ハ法律又ハ其ノ他ノ事件ニ付各其ノ意見ヲ政府ニ建議スルコトヲ得但シ其ノ採納ヲ得サルモノハ同會期中ニ於テ再ヒ建議スルコトヲ得ス

第四十一條 帝國議會ハ毎年之ヲ召集ス

第四十二條 帝國議會ハ三箇月ヲ以テ會期トス必要アル場合ニ於テハ勅命ヲ以テ之ヲ延長スルコトアルヘシ

第四十三條 臨時緊急ノ必要アル場合ニ於テ常會ノ外臨時會ヲ召集スヘシ

臨時會ノ會期ヲ定ムルハ勅命ニ依ル

第四十四條 帝國議會ノ開會閉會會期ノ延長及停會ハ兩院同時ニ之ヲ行フヘシ

衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ貴族院ハ同時ニ停會セララルヘシ

第四十五條 衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ勅命ヲ以テ新ニ議員ヲ選舉セシメ解散ノ日ヨリ五箇月以内ニ之ヲ召集スヘシ

第四十六條 兩議院ハ各其ノ總議員三分ノ一以上出席スルニ非サルハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第四十七條 兩議院ヲ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトモハ議長ノ決スル所ニ依ル

第四十八條 兩議院ノ會議ハ公開ス但シ政府ノ要求又ハ其ノ院ノ決議ニ依リ秘密會ト爲スコトヲ得

第四十九條 兩議院ハ各々天皇ニ上奏スルコトヲ得

第五十條 兩議院ハ臣民ヨリ呈出スル請願書ヲ受クルコトヲ得

第五十一條 兩議院ハ此ノ憲法及議院法ニ掲クルモノ、外内部ノ整理ニ必要ナル諸規則ヲ定ムルコトヲ得

第五十二條 兩議院ノ議員ハ議院ニ於テ發言シタル意見及表決ニ付院外ニ於テ責ヲ負フコトナシ但シ議員自ラ其ノ言論ヲ演說刊行筆記又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公布シタルトモ一般ノ法律ニ依リ處分セラレハシ

第五十三條 兩議院ノ議員ハ現行犯罪又ハ内亂外患ニ關ル罪ヲ除ク外會期中其ノ院ノ許諾ナクシテ逮捕セラレ、コトナシ

第五十四條 國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ各議院ニ出席シ及發言スルコトヲ得

第四章 國務大臣及樞密顧問

第五十五條 國務大臣ハ天皇ヲ輔弼シ其ノ責ニ任ス

凡テ法律勅令其ノ他國務ニ關ル詔勅ハ國務大臣ノ副署ヲ要ス

第五十六條 樞密顧問ハ樞密院官制ノ定ムル所ニ依リ天皇ノ諮詢ニ應ヘ重要ノ國務ヲ審議ス

第五章 司法

第五十七條 司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ裁判所構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五十八條 裁判官ハ法律ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス裁判官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルノ外其ノ職ヲ免ゼラル、コトナシ

懲戒ノ條規ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五十九條 裁判ノ對審判決ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトモキハ法律ニ依リ又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得

第六十條 特別裁判所ノ管轄ニ屬スヘキ者ハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム
第六十一條 行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスルノ訴訟ニシテ別ニ法律ヲ以テ定メタテ行政裁判所ノ裁判ニ屬スヘキ

モノ 司法裁判所ニ於テ受理スルノ限ニ在ラズ
第六章 會計

第六十二條 漸ニ租稅ヲ課シ及稅率ヲ變更スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ム
ヘシ

但シ報償ニ屬スル行政上ノ手数料及其ノ他ノ收納金ハ前項ノ限ニ在
ラス

國債ヲ起シ及豫算ニ定メタルモノヲ除ク外國庫ノ負擔トナルヘキ契
約ヲ爲スハ帝國議會ノ協賛ヲ經ヘシ

第六十三條 現行ノ租稅ハ更ニ法律ヲ以テ之ヲ改メサル限ハ舊ニ依リ
之ヲ徵收ス

第六十四條 國家ノ歲出歲入ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協賛ヲ經ヘ
シ

豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算ノ外ニ生シタル支出アルトキハ後日帝
國議會ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第六十五條 豫算ハ前ニ衆議院ニ提出スヘシ

第六十六條 皇室經費ハ現在ノ定額ニ依リ毎年國庫ヨリ之ヲ支出シ將
來増額ヲ要スル場合ヲ除ク外帝國議會ノ協賛ヲ要セス

第六十七條 憲法上ノ大權ニ基ツケル既定ノ歲出及法律ノ結果ニ由リ
又ハ法律上政府ノ義務ニ屬スル歲出ハ政府ノ同意ナクシテ帝國議會
之ヲ廢除シ又ハ削減スルコトヲ得ス

第六十八條 特別ノ須要ニ因リ政府ハ豫メ年限ヲ定メ繼續費トシテ帝
國議會ノ協賛ヲ求ムルコトヲ得

第六十九條 避クヘカヲササル豫算ノ不足ヲ補フ爲ニ又ハ豫算ノ外ニ生
シタル必要ノ費用ニ充ツル爲ニ豫備費ヲ設クヘシ

第七十條 公共ノ安全ヲ保持スル爲緊急ノ需用アル場合ニ於テ内外ノ
情形ニ因リ政府ハ帝國議會ヲ召集スルコト能ハサルトキハ勅令ニ依
リ財政上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求
ムルヲ要ス

第七十一條 帝國議會ニ於テ豫算ヲ議定セズ又ハ豫算成立ニ至ラサル
トキハ政府ハ前年度ノ豫算ヲ施行スヘシ

第七十二條 國家ノ歲出歲入ノ決算ハ會計検査院之ヲ検査確定シ政府
ハ其ノ検査報告ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

會計検査院ノ組織及職權ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第七章 補則

第七十三條 將來此ノ憲法ノ條項ヲ改正スルノ必要アルトキハ勅命ヲ以テ議案ヲ帝國議會ノ議ニ付スヘシ

此ノ場合ニ於テ兩議院ハ各其ノ總員三分ノ二以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開クコトヲ得ヌ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ得ルニ非サレハ改正ノ議決ヲ爲スコトヲ得ヌ

第七十四條 皇室典範ノ改正ハ帝國議會ノ議ヲ經ルヲ要セス

皇室典範ヲ以テ此ノ憲法ノ條規ヲ變更スルコトヲ得ヌ

第七十五條 憲法及皇室典範ハ攝政ヲ置クノ間之ヲ變更スルコトヲ得ヌ

第七十六條 法律規則命令又ハ何等ノ名稱ヲ用井タルニ拘ラス此ノ憲法ニ矛盾セサル現行ノ法令ハ總テ遵由ノ効力ヲ有ス

藏出上政府ノ義務ニ係ル現在ノ契約又ハ命令ハ總テ第六十七條ノ例ニ依ル

議院法

第一章 帝國議會ノ召集成立及開會

第一條 帝國議會召集ノ勅諭ハ期日ヲ定メ少クトモ四十日前ニ之ヲ發布スヘシ

第二條 議員ハ召集ノ勅諭ニ指定シタル期日ニ於テ各議院ノ會堂ニ集會スヘシ

第三條 衆議院ノ議長副議長ハ其ノ院ニ於テ各三名ノ候補者ヲ選舉セシメ其ノ中ヨリ之ヲ勅任スヘシ

議長副議長ノ勅任セラレハマテハ書記官長議長ノ職務ヲ行フヘシ

第四條 各議院ハ抽籤法ニ依リ總議員ヲ數部ニ分割シ每部々長一名ヲ部員中ニ於テ互選スヘシ

第五條 兩議院成立シタル後勅命ヲ以テ帝國議會開會ノ日ヲ定メ兩院議員ヲ貴族院ニ會合セシメ開院式ヲ行フヘシ

第六條 前條ノ場合ニ於テ貴族院議長ハ議長ノ職務ヲ行フヘシ

第二章 議長書記官及經費

第七條 各議院ノ議長副議長ハ各一員トス

第八條 衆議院ノ議長副議長ノ任期ハ議員ノ任期ニ依ル

第九條 衆議院ノ議長副議長辭職又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ闕位トナリ

タルトキハ繼任者ノ任期ハ仍前任者ノ任期ニ依ル

第十條 各議院ノ議長ハ其ノ議院ノ秩序ヲ保持シ議事ヲ整理シ院外ニ

對シ議院ヲ代表ス

第十一條 議長ハ議會閉會ノ間ニ於テ仍其ノ議院ノ事務ヲ指揮ス

第十二條 議長ハ常任委員會及特別委員會ニ臨席シ發言スルコトヲ得

但シ表決ノ數ニ預カラス

第十三條 各議院ニ於テ議長故障アルトキ副議長之ヲ代理ス

第十四條 各議院ニ於テ議長副議長俱ニ故障アルトキハ假議長ヲ選舉

シ議長ノ職務ヲ行ハシムヘシ

第十五條 各議院ノ議長副議長ハ任期滿限ニ達スルモ後任者ノ勅任セ

ラル、マテハ仍其ノ職務ヲ繼續スヘシ

第十六條 各議院ニ書記官長一人書記官數人ヲ置ク

書記官長ハ勅任トシ書記官ハ奏任トス

第十七條 書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ書記官ノ事務ヲ提理シ公文ニ

署名ス

書記官議ハ事錄及其ノ他ノ文書案ヲ作り事務ヲ掌理ス

書記官ノ外他ノ必要ナル職員ハ書記官長之ヲ任ス

第十八條 兩議院ノ經費ハ國庫ヨリ之ヲ支出ス

第三章 議長副議長及議員歳費

第十九條 各議院ノ議長ハ歳費トシテ四千圓副議長ハ二千圓貴族院ノ

被選及勅任議員及衆議院ノ議員ハ八百圓ヲ受ケ別ニ定ムル所ノ規則

ニ從ヒ旅費ヲ受ケ但シ召集ニ應セサル者ハ歳費ヲ受クルコトヲ得ス

議長副議長及議員ハ歳費ヲ解スルコトヲ得ス

官吏ニシテ議員タル者ハ歳費ヲ受クルコトヲ得ス

第二十五條 場合ニ於テハ第一項歳費ノ外議院ノ定ムル所ニ依リ一

日五圓ヨリ多カラサル手當ヲ受ク

第四章 委員

第二十條 各議院ノ委員ハ全院委員常任委員及特別委員ノ三類トス

全院委員ハ議院ノ全員ヲ以テ委員ト爲スモノトス

常任委員ハ事務ノ必要ニ依リ之ヲ數科ニ分割シ負擔ノ事件ヲ審査ス

ル爲ニ各部ニ於テ同數ノ委員ヲ總議員中ヨリ選舉シ一會期中其ノ任

ニ在ルモノトス

特別委員ハ一事件ヲ審査スル爲ニ議院ノ選舉ヲ以テ特ニ付託ヲ受ク

第二十一條 全院委員長ハ一會期コトニ開會ノ始ニ於テ之ヲ選舉ス

常任委員長及特別委員長ハ各委員會ニ於テ之ヲ互選ス

第二十二條 全院委員會ハ議院三分ノ一以上常任委員會及特別委員會
ハ其ノ委員半數以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコト
ヲ得ス

第二十三條 常任委員會及特別委員會ハ議員ノ外傍聽ヲ禁ス但シ委員
會ノ決議ニ由リ議員ノ傍聽ヲ禁スルコトヲ得

第二十四條 各委員長ハ委員會ノ經過及結果ヲ議院ニ報告スヘシ

第二十五條 各議院ハ政府ノ要求ニ依リ又ハ其ノ同意ヲ經テ議會閉會
ノ間委員ヲシテ議案ノ審査ヲ繼續セシムルコトヲ得

第五章 會議

第二十六條 各議院ノ議長ハ議事日程ヲ定メテ之ヲ議院ニ報告ス

議事日程ハ政府ヨリ提出シタル議案ヲ先ニスヘシ但シ他ノ議事緊急
ノ場合ニ於テ政府ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條 法律ノ議案ハ三讀會ヲ經テ之ヲ議決スヘシ但シ政府ノ要
求若シ議員十人以上ノ要求ニ由リ議院ニ於テ出席議員三分ノ二以上

ノ多數ヲ以テ可決シタルトキハ三讀會ノ順序ヲ省略スルコトヲ得

第二十八條 政府ヨリ提出シタル議案ハ委員ノ審査ヲ經スシテ之ヲ議
決スルコトヲ得ス但シ緊急ノ場合ニ於テ政府ノ要求ニ由ルモノハ此
ノ限ニ在ラス

第二十九條 凡テ議案ヲ發議シ及議院ノ會議ニ於テ議案ニ對シ修正ノ
動議ヲ發スルモノハ二十人以上ノ賛成アルニ非サレハ議題ト爲スコ
トヲ得ス

第三十條 政府ハ何時タリトモ既ニ提出シタル議案ヲ修正シ又ハ撤回
スルコトヲ得

第三十一條 凡テ議案ハ最後ニ議決シタル議院ノ議長ヨリ國務大臣ヲ
經由シテ之ヲ奏上スヘシ

但シ兩議院ノ一ニ於テ提出シタル議案ニシテ他ノ議院ニ於テ否決シ
タルトキハ第五十四條第二項ノ規定ニ依ル

第三十二條 兩議院ノ議決ヲ經テ奏上シタル議案ニシテ裁可セラル
モノハ次ノ會期マテニ公布セラルヘシ

第六章 停會閉會

第三十三條 政府ハ何時タリトモ十五日以内ニ於テ議院ノ停會ヲ命ス

議院停會ノ後再ヒ開會シタルトキハ前會ノ議事ヲ繼續スヘシ

第三十四條 衆議院ノ解散ニ依リ貴族院ニ停會ヲ命シタル場合ニ於テハ前條第二項ノ例ニ依ラズ

第三十五條 帝國議會閉會ノ場合ニ於テ議案建議請願ノ議決ニ至ラサルモノハ機會ニ繼續セズ但シ第二十五條ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十六條 閉會ハ勅命ニ由リ兩議院合會ニ於テ之ヲ舉行スヘシ

第七章 秘密會議

第三十七條 各議院ノ會議ハ左ノ場合ニ於テ公開ヲ停ムルコトヲ得

- 一 議長又ハ議員十人以上ノ發議ニ由リ議院之ヲ可決シタルトキ
- 二 政府ヨリ要求ヲ受ケタルトキ

第三十八條 議長又ハ議員十人以上ヨリ秘密會議ヲ發議シタルトキハ議長ハ直ニ傍聽人ヲ退去セシメ討論ヲ用井スシテ可否ノ決ヲ取ルヘシ

第三十九條 秘密會議ハ刊行スルコトヲ許サズ

第八章 豫算案ノ議定

第四十條 政府ヨリ豫算案ヲ衆議院ニ提出シタルトキハ豫算委員ハ其ノ院ニ於テ受取リタル日ヨリ十五日以内ニ審査ヲ終リ議院ニ報告スヘシ

第四十一條 豫算案ニ就キ議院ノ會議ニ於テ修正ノ動議ヲ發スルモノハ三十人以上ノ賛成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

第九章 國務大臣及政府委員

第四十二條 國務大臣及政府委員ノ發言ハ何時タリトモ之ヲ許スヘシ但シ之カ爲ニ議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第四十三條 議院ニ於テ議案ヲ委員ニ付シタルトキハ國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ委員會ニ出席シ意見ヲ述フルコトヲ得

第四十四條 委員會ハ議長ヲ經由シテ政府委員ノ説明ヲ求ムルコトヲ得

第四十五條 國務大臣及政府委員ハ議員タル者ニ除ク外議院ノ議會ニ於テ表決ノ數ニ預カラズ

第四十六條 常任委員會又ハ特別委員會ヲ開クトキハ每會委員長ヨリ其ノ主任ノ國務大臣及政府委員ニ報知スヘシ

第四十七條 議事日程及議事ニ關ル報告ハ議員ニ分配スルト同時ニ之

ヲ國務大臣及政府委員ニ送付スヘシ

第十章 質問

第四十八條 兩議院ノ議員政府ニ對シ質問ヲ爲サルトスルトキハ三十人以上ノ賛成者アルヲ要ス
質問ハ簡明ナル主意書ヲ作り賛成者ト共ニ連署シテ之ヲ議長ニ提出スヘシ

第四十九條 質問主意書ハ議長之ヲ政府ニ轉送シ國務大臣ハ直ニ答辯ヲ爲シ又ハ答辯スヘキ期日ヲ定メ若答辯ヲ爲サハルトキハ其ノ理由ヲ示明スヘシ

第五十條 國務大臣ノ答辯ヲ得又ハ答辯ヲ得サルトキハ質問ノ事件ニ付議員ハ建議ノ動議ヲ爲スコトヲ得

第十一章 上奏及建議

第五十一條 各議院上奏セムトスルトキハ文書ヲ奉呈シ又ハ議長ヲ以テ總代トシ謁見ヲ請ヒ之ヲ奉呈スルコトヲ得
各議院ノ建議ハ文書ヲ以テ政府ニ呈出スヘシ

第五十二條 各議院ニ於テ上奏又ハ建議ノ動議ハ三十人以上ノ賛成アルニ非ザレハ議題ト爲スコトヲ得ス

第十二章 兩議院關係

第十三條 豫算ヲ除ク外政府ノ議案ヲ付スルハ兩議院ノ内何レヲ先ニスルモ便宜ニ依ル

第五十四條 甲議院ニ於テ政府ノ議案ヲ可決シ又ハ修正シテ議決シタルトキハ乙議院ニ之ヲ移スヘシ乙議院ニ於テ甲議院ノ議決ニ同意シ又ハ否決シタルトキハ之ヲ奏上スルト同時ニ甲議院ニ通知スヘシ
乙議院ニ於テ甲議院ノ掲出シタル議案ヲ否決シタルトキハ之ヲ甲議院ニ通知スヘシ

第五十五條 乙議院ニ於テ甲議院ヨリ移シタル議案ニ對シ之ヲ修正シタルトキハ之ヲ甲議院ニ回付スヘシ甲議院ニ於テ乙議院ノ修正ニ同意シタルトキハ之ヲ奏上スルト同時ニ乙議院ニ通知スヘシ若之ニ同意セザルトキハ兩院協議會ヲ開クコトヲ求ムヘシ
甲議院ヨリ協議會ヲ開クコトヲ求ムルトキハ乙議院ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十六條 兩院協議會ハ兩議院ヨリ各十人以下同數ノ委員ヲ選舉シ會同セシム委員ノ協議案成立スルトキハ議案ヲ政府ヨリ受取り又ハ提出シタル甲議院ニ於テ先ツ之ヲ議シ次ニ乙議院ニ移スヘシ

協議會ニ於テ成立シタル成案ニ對シテハ更ニ修正ノ動議ヲ爲スコトヲ許サス

第五十七條 國務大臣政府委員及各議院ノ議長ハ何時タリトモ兩院協議會ニ出席シテ意見ヲ述フルコトヲ得

第五十八條 兩院協議會ハ傍聽ヲ許サス

第五十九條 兩院協議會ニ於テ可否ノ決ヲ取ルハ無名投票ヲ用非可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第六十條 兩院協議會ノ議長ハ兩議院協議委員ニ於テ各一員ヲ互選シ每會更代シテ席ニ當ラシムヘシ其ノ初會ニ於ケル議長ハ抽籤法ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條 本章ニ定ムル所ノ外兩議院交渉事務ノ規程ハ其ノ協議ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第十三章 請願

第六十二條 各議院ニ呈出スル人民ノ請願書ハ議員ノ紹介ニ依リ議院之ヲ受取ルヘシ

第六十三條 請願書ハ各議院ニ於テ請願委員ニ付シ之ヲ審査セシム請願委員請願書ヲ以テ規程ニ合ハスト認ムルトキハ議長ハ紹介ノ職

責ヲ經テ之ヲ却下スヘシ

第六十四條 請願委員ハ請願文書表ヲ作り其ノ要領ヲ録シ每週一回議院ニ報告スヘシ

請願委員特別ノ報告ニ依ル要求又ハ議員三十八人以上ノ要求アルトキハ各議院ハ其ノ請願事件ヲ會議ニ付スヘシ

第六十五條 各議院ニ於テ請願ノ採擇スヘキコトヲ議決シタルトキハ意見書ヲ附シ其ノ請願書ヲ政府ニ送付シ事宜ニ依リ報告ヲ求ムルコトヲ得

第六十六條 法律ニ依リ法人ト認メラントル者ヲ除ク外總代ノ名義ヲ以テスル請願ハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第六十七條 各議院ハ憲法ヲ變更スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ス

第六十八條 請願書ハ總テ哀願ノ體式ヲ用ウヘシ若請願ノ名義ニ依ラス若ハ其ノ體式ニ違フモノハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第六十九條 請願書ニシテ皇室ニ對シ不敬ノ語ヲ用非政府又ハ議院ニ對シ侮辱ノ語ヲ用非ルモノハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第七十條 各議院ハ司法及行政裁判ニ干預スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ス

第七十一條 各議院ハ各別ニ請願ヲ受ケ互ニ相干預セズ

第十四章 議院ト人民及官廳地方議會トノ關係

第七十二條 各議院ハ人民ニ向テ告示ヲ發スルコトヲ得ス

第七十三條 各議院ハ審査ノ爲ニ人民ヲ召喚シ及議員ヲ派出スルコトヲ得ス

第七十四條 各議院ヨリ審査ノ爲ニ政府ニ向テ必要ナル報告又ハ文書ヲ求ムルトキハ政府ハ秘密ニ涉ルモノヲ除ク外其ノ求ニ應スヘシ

第七十五條 各議院ハ國務大臣及政府委員ノ外他ノ官廳及地方議會ニ向テ照會往復スルコトヲ得ス

第十五章 退職及議員資格ノ異議

第七十六條 衆議院ノ議員ニシテ貴族院議員ニ任セラレ又ハ法律ニ依リ議員タルコトヲ得サル職務ニ任セラレタルトキハ退職者トス

第七十七條 衆議院ノ議員ニシテ選舉法ニ記載シタル被選ノ資格ヲ失ヒタルトキハ退職者トス

第七十八條 衆議院ニ於テ議員ノ資格ニ付異議ヲ生シタルトキハ特ニ委員ヲ設ケ時日ヲ期シ之ヲ審査セシメ其ノ報告ヲ待テ之ヲ議決スヘシ

第七十九條 裁判所ニ於テ當選訴訟ノ裁判手續ヲ爲シタルモノハ衆議院ニ於テ同一事件ニ付審査スルコトヲ得ス

第八十條 議員其ノ資格ナキコトヲ證明セラル、ニ至ルマテハ議院ニ於テ位列及發言ノ權ヲ失ハス但シ自身ノ資格審査ニ關ル會議ニ對シテハ辯明スルコトヲ得ルモ其ノ表決ニ預カルコトヲ得ス

第十六章 請假辭職及補闕

第八十一條 各議院ノ議長ハ一週間ニ超エサル議員ノ請假ヲ許可スルコトヲ得其一週間ヲ超ユルモノハ議院ニ於テ之ヲ許可ス期限ヲキモノハ之ヲ許可スルコトヲ得ス

第八十二條 各議院ノ議員ハ正當ノ理由ヲ以テ議長ニ届出スシテ會議又ハ委員會ニ闕席スルコトヲ得ス

第八十三條 衆議院ハ議員ノ辭職ヲ許可スルコトヲ得

第八十四條 何等ノ事由ニ拘ラス衆議院議員ニ闕員ヲ生シタルトキハ議長ヨリ内務大臣ニ通牒シ補闕選舉ヲ求ムヘシ

第十七章 紀律及警察

第八十五條 各議院開會中其ノ紀律ヲ保持セムカ爲内部警察ノ權ハ此ノ法律及各議院ニ於テ定ムル所ノ規則ニ從ヒ議長之ヲ施行ス

第八十六條 各議院ニ於テ要スル所ノ警察官吏ハ政府之ヲ派出シ議長ノ指揮ヲ受ケシム

第八十七條 會議中議員此ノ法律若ハ議事規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ルトキハ議長ハ之ヲ警戒シ又ハ制止シ又ハ發言ヲ取消サシム命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシムルコトヲ得

第八十八條 議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第八十九條 傍聽人議場ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ之ヲ警察官廳ニ引渡サシムルコトヲ得

第九十條 議場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ國務大臣政府委員及議員ハ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得

第九十一條 各議院ニ於テ皇室ニ對シ不敬ノ言語論說ヲ爲スコトヲ得ス

第九十二條 各議院ニ於テ無禮ノ語ヲ用ヅルコトヲ得ス及他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第九十三條 議院又ハ委員會ニ於テ誹毀侮辱ヲ被リタル議員ハ之ヲ議院ニ訴ヘテ處分ヲ求ムヘシ私ニ相報復スルコトヲ得ス

第十八章 懲罰

第九十四條 各議院ハ其ノ議員ニ對シ懲罰ノ權ヲ有ス

第九十五條 各議院ニ於テ懲罰事犯ヲ審査スル爲ニ懲罰委員ヲ設ク懲罰事犯アルトキハ議長ハ先ツ之ヲ委員ニ付シ審査セシメ議院ノ議ヲ經テ之ヲ宣告ス

各委員會又ハ各部ニ於テ懲罰事犯アルトキハ委員長又ハ部長ハ之ヲ議長ニ報告シ處分ヲ求ムヘシ

第九十六條 懲罰ハ左ノ如シ

- 一、公開シタル議場ニ於テ譴責ス
- 二、公開シタル議場ニ於テ適當ノ謝辭ヲ表セシム
- 三、一定ノ時間出席ヲ停止ス
- 四、除名

衆議院ニ於テ除名ハ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ之ヲ決スヘシ

第九十七條 衆議院ハ除名ノ議員再選ニ當ル者ヲ拒ムコトヲ得ス

第九十八條

得

議員ハ二十人以上ノ賛成ヲ以テ懲罰ノ動議ヲ爲スコトヲ

二六

懲罰ノ動議ハ事犯アリシ後三日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第九十九條

議員正當ノ理由ナクシテ勅諭ニ指定シタル期日後一週間
内ニ召集ニ應セサルニ由リ又ハ正當ノ理由ナクシテ會議又ハ委員會
ニ出席スルニ由リ若ハ請暇ノ期限ヲ過キタルニ由リ議長ヨリ特ニ招
狀ヲ發シ其ノ招狀ヲ受ケタル後一週間内ニ仍故ナク出席セサル者ハ
貴族院ニ於テハ其ノ出席ヲ停止シ上奏シテ勅裁ヲ請フヘク衆議院ニ
於テハ之ヲ除名スヘシ

衆議院議員選舉法

第一章 選舉區畫

第一條 衆議院ノ議員ハ各府縣ノ選舉區ニ於テ之ヲ選舉セシム其ノ選
舉區及各選舉區ニ於テ選舉スヘキ定員ハ此ノ法律ノ附録ヲ以テ之ヲ
定ム

第二條 府縣知事ハ其ノ府縣ノ選舉區ノ選舉ヲ監督ス

一 選舉區ノ選舉ハ郡長又ハ市長其ノ選舉長トナリ之ヲ管理ス

第三條 一 選舉區ニシテ數都市ニ涉ルトキハ府縣知事ハ其ノ郡長又ハ
市長ノ一人ヲ命ジ選舉長トシシムヘシ

第四條 一市ノ域内ニ於テ數選舉區アルトキハ府縣知事ハ區長ヲシテ
其ノ選舉長トシシムヘシ

第五條 選舉ニ關ル費用ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘシ

第二章 選舉人ノ資格

第六條 選舉人ハ左ノ資格ヲ備フルコトヲ要ス

第一 日本臣民ノ男子ニシテ年齢滿二十五歳以上ノ者

第二 選舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ府縣内ニ於テ本
籍ヲ定メ住居シ仍引續キ住居スル者

籍ヲ定メ住居シ仍引續キ住居スル者

第三

選舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ府縣内ニ於テ直接國稅十五圓以上ヲ納メ仍引讀キ納ムル者
但シ所得稅ニ付テハ人名簿調製ノ期日ヨリ前滿三年以上之ヲ納メ仍引讀キ納ムル者ニ限ル

第七條 家督ニ由リ財產ヲ相續シタル者ハ其ノ財產ニ付前財產主ノ納稅額ヲ以テ其ノ納稅資格ニ算入ス

第三章 被選人ノ資格

第八條 被選人タルコトヲ得ル者ハ日本臣民ノ男子滿三十歲以上ニシテ選舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ選舉府縣内ニ於テ直接國稅十五圓以上ヲ納メ仍引讀キ納ムル者タルヘシ
但シ所得稅ニ付テハ人名簿調製ノ期日ヨリ前滿三年以上之ヲ納メ引讀キ納ムル者ニ限ル

第九條 宮内官裁判官會計検査官收稅官及警察官ハ被選人タルコトヲ得ス

前項ノ外ノ官吏ハ其ノ職務ニ妨ケサル限ハ議員ト相兼ムルコトヲ得

第十條 府縣及郡ノ官吏ハ其管轄區域内ニ於テ被選人タルコトヲ得ス

第十一條 選舉ノ管理ニ關係スル市町村ノ吏員ハ其ノ選舉區ニ於テ被選人タルコトヲ得ス

第十二條 神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師ハ被選人タルコトヲ得ス

第十三條 府縣會ノ議員ニシテ衆議院ノ議員ニ選舉セラレ當選ヲ承諾シタルトキハ其ノ前職ヲ辭スヘキモノトス

第四章 選舉人及被選人ニ通スル規定

第十四條 左ノ項ノ一ニ觸ル者ハ選舉人及被選人タルコトヲ得ス

- 一 瘋癲白癡ノ者
- 二 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者
- 三 公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ停止中ノ者
- 四 禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者
- 五 舊法ニ依リ一年以上ノ懲役若ハ國事犯禁獄ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者
- 六 賭博犯ニ由リ處刑ヲ受ケ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

七 選舉ニ關ル犯罪ニ由リ選舉權及被選權ノ停止中ノ者

第十五條 陸海軍軍人ハ現役中選舉權ヲ行フコトヲ得ス及被選人タルコトヲ得ス其ノ休職停職ニ在ル者亦同シ

第十六條 華族ノ當主ハ衆議院議員ノ選舉人及被選人タルコトヲ得ス
第十七條 刑事ノ訴ヲ受ク拘留又ハ保釋中ニ在ル者ハ其ノ裁判確定ニ
至ルマテ選舉權ヲ行フコトヲ得ス及被選人タルコトヲ得ス

第五章 選舉人名簿

第十八條 選舉長ハ毎年四月一日ヲ期トシ各町村長ヲシテ一ノ投票區
域内ニ於テ選舉資格ヲ有スル者ヲ調査シ人名簿二本ヲ調製シ同月二
十日マテニ其ノ一本ヲ差出サシムヘシ

選舉人名簿ハ選舉人ノ姓名官位職業身分住所生年月納ムル所ノ直接
國稅ノ總額並ニ納稅地ヲ記載スヘシ

第十九條 市ニ於テハ左ノ方法ニ依リ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

第一 一市又ハ市内ノ一區ヲ以テ一選舉區ト爲シタル場合ニ於テハ
選舉長其ノ人名簿ヲ調製スヘシ

第二 市内ニアル數區ヲ合シテ一選舉區ト爲シタル場合ニ於テハ各
區長ヲシテ其ノ區内ノ人名簿ヲ調製シ選舉長ニ差出サシムヘ
シ

第三 郡市ヲ合シテ一選舉區ト爲シタル場合ニ於テ郡長其ノ選舉長
トナリタルトキハ市長ヲシテ其ノ人名簿ヲ調製シ之ヲ差出サ
シムヘシ

市ニ於テ

第四 第三ノ場合ニ於テ市長其ノ選舉長トナリタルトキハ市長其ノ
市内ノ人名簿ヲ調製スヘシ

第二十條 選舉人其ノ住居スル選舉區域ノ外ニ於テ直接國稅ヲ納ムル
トキハ納稅地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ノ證狀ヲ得テ選舉人名簿調
製ノ期日マテニ其ノ投票ヲ管理スル町村長又ハ市長ニ差出スヘシ

第二十一條 選舉長ハ各町村長又ハ市長若ハ區長ヨリ差出シタル選舉
人名簿ヲ合シ一選舉區ヲ以テ一冊トシ選舉管理ノ郡役所又ハ市役所
若ハ區役所ニ備置キ其ノ副本ヲ府縣知事ニ送致スヘシ

第二十二條 選舉長ハ毎年五月五日ヨリ十五日間一選舉區選舉人名簿
ノ寫ヲ其ノ選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ縦覽セシ
ムヘシ

第二十三條 凡テ選舉資格アル者選舉人名簿ニ於テ人名ノ脱漏又ハ誤
載アルコトヲ發見シタルトキハ其理由書及證憑ヲ具ヘテ縦覽期限内
ニ選舉長ニ申立テ其ノ改正ヲ求ムルコトヲ得

縦覽期限ヲ經過シタル後前項ノ申立ヲ爲スモ其ノ効ナシ
第二十四條 選舉長ニ於テ脱漏ノ申立ヲ受クタルトキハ其ノ理由及證

憑テ審査シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ判定スヘシ若其ノ申立ヲ以テ正當ナリト判定シタルトキハ直ニ其ノ人名ヲ記載シ其ノ由ヲ當人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ選舉區内ニ告示スヘシ

第二十五條 選舉長ニ於テ誤載ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及證據ヲ審查シ必要ナル場合ニ於テハ申立人又ハ被告人ヲ召喚審問シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ判定スヘシ若誤載ナリト判定シタルトキハ直ニ之ヲ削除シ其ノ由ヲ被告人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ選舉區内ニ告示スヘシ

第二十六條 申立人又ハ被告人ニ於テ選舉長ノ判定ニ服セサルハ選舉長ヲ被告トシ判定ノ日ヨリ七日以内ニ始審裁判所ニ出訴スルヲ得第二十七條 始審裁判所ニ於テ前條ノ訴訟ヲ受取リタルトキハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ラス速ニ其ノ裁判ヲ爲スヘシ

第二十八條 前條ニ於ケル始審裁判所ノ裁判ハ控訴スルコトヲ許サズ但シ大審院ニ上告スルコトヲ得第二十九條 選舉人名簿ハ六月十五日ヲ以テ確定期限トシ次年ノ調製ノ日マテ之ヲ据置クヘシ但シ裁判言渡書ニ依リ改正スヘキモノハ選

舉長ニ於テ其ノ言渡書ヲ受取リタル時ヨリ二十四時内ニ之ヲ改正シ其ノ由ヲ申立人又ハ被告人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ選舉區内ニ告示スヘシ

第六章 選舉ノ期日及投票所

第三十條 選舉ノ投票ハ通常七月一日ニ之ヲ行フ但シ衆議院解散ヲ命ゼラレタルトキハ勅令ヲ以テ臨時選舉ノ期日ヲ定メ少クトモ三十日以前ニ公布スヘシ

第三十一條 投票所ハ町村役場又ハ町村長ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ管理ス

第三十二條 一町村ニ於テ選舉人少數ニシテ一ノ投票所ヲ設クルニ足ラサルトキハ町村ヲ合併スルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ郡長ハ府縣知事ノ認可ヲ經テ合併ノ町村及投票區並ニ投票所管理ノ町村長ヲ指定スヘシ

第三十三條 町村長ハ其ノ管理スル選舉區域内ニ於ケル選舉人ヨリ立會人二名以上五名以下ヲ定メ選擧ノ期日ヨリ三日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ選舉ノ當日投票所ニ參會セシムヘシ立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

第七章 投票

第三十四條 投票ハ午前七時ニ始メ午後六時ニ終ル

第三十五條 投票函ハ二重ノ蓋ヲ造リ二種ノ鑰ヲ設ク其一ハ町村長之

ヲ管守シ其ノ一ハ立會人之ヲ管守スヘシ

第三十六條 町村長ハ投票ノ初ニ當リ立會人ト共ニ參會シタル選舉人

ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ其ノ空虛ナルコトヲ示スヘシ

第三十七條 選舉人ハ選舉ノ當日本人自ラ投票所ニ至リ選舉人名簿ノ

對照ヲ經テ投票スヘシ

第三十八條 投票用紙ハ各府縣各一定ノ式ヲ用非選舉ノ當日投票所ニ

於テ町村長ヨリ之ヲ各選舉人ニ交付スヘシ

選舉人ハ投票所ニ於テ投票用紙ニ被選人ノ姓名ヲ記載シ次ニ自己ノ

姓名住所ヲ記載シテ捺印スヘシ

第三十九條 選舉人ニシテ文字ヲ書スルコト能ハサル由ヲ申立ツルト

キハ町村長ハ吏員ヲシテ代書セシメ之ヲ本人ニ讀ミ聞カセ捺印投票

セシメ其ノ由ヲ投票明細書ニ記載スヘシ

第四十條 二人以上ノ議員ヲ選舉スヘキ選舉區ニ於テハ連名投票ヲ用

ウヘシ

第四十一條 選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ當日投票所ニ至ル者ア

ルトキハ町村長ハ投票用紙ヲ交付シ投票セシメ其ノ由ヲ投票明細書

ニ記載スヘシ

第四十二條 投票終ルノ時期ニ至リタルトキハ町村長ハ其ノ由ヲ告ケ

投票函ヲ閉鎖スヘシ投票函閉鎖ノ後ハ總テ投票スルコトヲ許サス

第四十三條 町村長ハ投票明細書ヲ作り投票ニ關ル一切ノ事項ヲ記載

シ立會人ト共ニ署名スヘシ

第四十四條 町村長ハ一名又ハ數名ノ立會人ト共ニ投票ノ翌日投票函

及投票明細書ヲ併セテ選舉管埋ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ送

致スヘシ

第四十五條 一選舉區内ニアル島嶼ニシテ前條ノ期限内ニ投票函ヲ送

致スルコト能ハサル情況アルトキハ府縣知事ハ人名簿確定ノ日ヨリ

選舉ノ期日ヲ問ニ於テ適宜ニ其ノ投票ノ期日ヲ定メ選舉會ノ期

日ヲ定メ其ノ投票函ヲ送致セシムルコトヲ得

第八章 選舉會

第四十六條 選舉會ハ選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ

之ヲ開ク

第四十七條

選舉長ハ各投票ヨリ參會シタル立會人ノ中ヨリ抽籤ヲ以テ選舉委員三名以上七名以下ヲ定ムヘシ

第四十八條

選舉長ハ投票函送達ノ翌日選舉委員立會ノ上各投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ若投票ト投票人トノ總數ニ差異ヲ生シタルトキハ其ノ由ヲ選舉明細書ニ記載スヘシ

第四十九條

總數ノ計算ヲ終リタルトキハ選舉長ハ選舉委員ト共ニ投票ヲ點檢スヘシ

第五十條

各選舉區ノ選舉人ハ其ノ選舉會ニ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第五十一條

左ニ掲クル投票ハ無効トス

- 一 選舉人名簿ニ記載ナキ者ノ投票但シ裁判言渡書ヲ所持シタルニ依リ投票シタル者ハ此ノ限ニ在ラス
- 二 成規ノ用紙ヲ用非サルモノ
- 三 選舉人自己ノ姓名ヲ載記セサルモノ
- 四 資格ナキ被選人ノ姓名ヲ記載スルモノ但シ連名投票ニ列記スル人員中資格アル者ニ付テハ其ノ效アルモノトス
- 五 誤字又ハ汚染塗抹毀損ニ依リ記載スル所ノ選舉人又ハ被選人ノ姓名ヲ認知スヘカラサルモノ但シ通常ノ假名字ヲ用非又ハ誤字

ニ係ルモ明ニ其姓名ヲ認知スルコトヲ得ルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三十八條第二項ニ規定シタル外他ノ文字ヲ記載シタルモノ但シ被選人ノ指名ヲ誤ラサル爲ニ其ノ官位職業身分住所ヲ附記シ又ハ敬稱ヲ用非タルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五十二條 投票効力ノ有無ニ付疑義アルトキハ選舉委員ノ意見ヲ聞キ選舉長之ヲ決定ス此ノ決定ニ對シテハ選舉會場ニ於テ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五十三條 無効ノ投票ハ抹線ヲ加ヘ其ノ由ヲ選舉明細書ニ記載シ一箇年間保存シ期限ヲ經過シタル後之ヲ燒棄スヘシ

第五十四條 一投票ニシテ其ノ選舉スヘキ定員ヨリ多キ被選人ノ姓名ヲ記載シタルトキハ其ノ定員ニ超エタル人名ヲ末尾ヨリ除却スヘシ連名投票ニシテ其ノ選舉スヘキ定員ニ足ラサルトキハ現ニ記載シタル者ノミヲ計算スヘシ但シ一人ノ姓名ヲ複記シタル者ハ一人トシテ之ヲ計算スヘシ

第五十五條 投票ハ六十日間郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ保存シ期限ヲ經過シタル後之ヲ燒棄スヘシ

第五十六條 選舉ニ關リ訴訟又ハ告訴告發アルトキハ第五十三條第五

十五條ノ期限ヲ經過スルモ裁判確定ニ至ルマテ其ノ投票ヲ保存スヘシ

第五十七條 選舉長ハ選舉明細書ヲ作リ選舉點檢ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ選舉委員ト共ニ署名シ之ヲ保存スヘシ

第九章 當選人

第五十八條 投票總數ノ最多數ヲ得タル者ハ之ヲ當選人トス
投票同數ナルトキハ生年月ノ長者ヲ以テ當選人トス同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第五十九條 當選人定マリタルトキハ選舉長ハ直ニ其ノ姓名及投票ノ數ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十條 府縣知事前條ノ届出ヲ受ケタルトキハ各當選人ニ通知シ其ノ姓名ヲ管内ニ告示スヘシ

第六十一條 當選人當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヲ府縣知事ニ届出シ

第六十二條 一人ニシテ多數選舉區ノ當選人トナリタル者當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ何レノ選舉區ノ當選ヲ承諾スル旨ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十三條 當選人其ノ府縣内ニ在ル者ハ十日以内其ノ府縣外ニ在ル者ハ二十日以内ニ當選承諾ノ届出ヲ爲サ、ルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト見做スヘシ

第六十四條 當選人ニシテ其ノ當選ヲ辭シ又ハ期限内ニ其ノ當選ノ承諾ヲ届出リルトキハ府縣知事ハ選舉ノ期日ヲ定メ其ノ選舉長ニ命シ再ヒ選舉ヲ行ハシムヘシ但シ第五十八條第二項ノ場合ニ於テ抽籤ニ依リ當選ヲ得タル者其ノ當選ヲ辭シ又ハ其ノ承諾ヲ届出サルトキハ抽籤ニ依リ當選ヲ失ヒタル者ヲ以テ選舉人ト定ムヘシ

第六十五條 各選舉區ノ當選人確定シタルトキハ府縣知事ハ當選證書ヲ付與シ及管内ニ告示シ並ニ當選人ノ資格ヲ録シテ内務大臣ニ具申スヘシ

第十章 議員ノ任期及補闕選舉

第六十六條 議員ノ任期ハ四箇年トス但シ任期ヲ終リタル後仍選舉ニ應スルコトヲ得

第六十七條 議員ノ闕員アルニ由リ内務大臣ヨリ補闕選舉ヲ開クヘキ旨ヲ命セシメタルトキハ府縣知事ハ其ノ命ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ闕員ノ選舉區ニ限リ臨時選舉ヲ行ヒ補闕議員ヲ選舉セシムヘシ

第六十八條 補選議員ノ任期ハ前議員ノ任期ニ依ル

第十一章 投票所取締

第六十九條 投票管理ノ町村長ハ投票所ノ秩序ヲ保持シ必要ナル場合

ニ於テハ警察官吏ノ處分ニ付スルコトヲ得

第七十條 凡テ戎器又ハ兇器ヲ携帯スル者ハ投票所ニ入ルコトヲ許サ

第七十一條 選舉人ニ非サル者ハ投票所ニ入ルコトヲ許サス

七十二條 投票所ニ於テハ一切ノ演説討論及喧譟ニ涉リ又ハ他人ノ

投票ヲ勸誘スルコトヲ禁ス

七十三條 投票所ニ於テ秩序ヲ紊ル者アルトキハ町村長ハ之ヲ警戒

シ其ノ命ニ從ハサルトキハ之ヲ投票所ノ外ニ退出セシムヘシ

七十四條 投票所ノ外ニ退出セシメタル者ハ犯罪者ヲ除ク外其ノ投

票ヲ爲サシムル爲ニ再ヒ投票所ノ内ニ呼入ルコトヲ得

七十五條 投票所ニ參會シタル選舉ニシテ刑法又ハ此ノ法律ノ罰則

ヲ犯シタル者ハ投票スルコトヲ禁シ其ノ姓名事由ヲ投票明細書ニ記

載スヘシ

第七十六條 投票ニ關ル異議ノ申立ニ付町村長ノ決定ニ對シテハ投票

所ニ於テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第七十七條 選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ選舉會ノ

參觀ヲ求ムル者ハ總テ第六十九條ヨリ第七十三條ニ至ルマテノ例ニ

照シ選舉長之ヲ處分スヘシ

第十二章 當選訴訟

第七十八條 各選舉區ニ於テ當選ヲ失ヒタル者當選人ノ當選ヲ無効ト

スルノ理由アリト認ムルトキハ當選人ヲ被告トシ第六十五條ニ掲ケ

タル當選人ノ姓名告示ノ日ヨリ三十日以内ニ控訴院ニ出訴スルコト

ヲ得

其ノ期限ヲ經過シタル後出訴スルモ其ノ効ナシ

第七十九條 原告人ハ訴訟狀ト共ニ保證金トシテ金三百圓又ハ之ニ相

當スル公債證書ヲ控訴院書記局ニ預置クヘシ

第八十條 原告人敗訴ノ場合ニ於テ裁判官渡ノ日ヨリ七日以内ニ一切

ノ裁判費用ヲ納完セサルトキハ保證金ヨリ之ヲ控除シ仍足ラサルト

キハ之ヲ追徴スヘシ

第八十一條 同一ノ當選人ニ對シ二人以上ノ原告人訴訟ヲ爲シタルト

第八十二條 審判中衆議院解散ノ命アルトキハ控訴院ハ其ノ訴訟ヲ棄却スヘシ

第八十三條 原告人訴訟ヲ願下クルトキハ同時ニ其ノ由ヲ新聞紙又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ

第八十四條 控訴院ハ當選訴訟ヲ審判スルニ當リ本訴ニ關係スル刑法又ハ此ノ法律ノ犯罪者ニ對シ直ニ處刑ノ言渡ヲ爲スコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ檢察官ヲシテ立會ハシムヘシ
當選訴訟ニ關係セザル場合ニ於ケル此ノ法律ノ犯罪者ハ所轄刑事裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

第八十五條 控訴院ニ於テ當選訴訟ヲ判定シタルトキハ其ノ裁判言渡書ノ原本ヲ内務大臣ニ送付スヘシ若衆議院開會スルトキハ併セテ之ヲ議長ニ送付スヘシ

第八十六條 當選訴訟ニ付控訴院ノ裁判ニ對シテハ大審院ニ上告スルコトヲ得

第八十七條 訴訟ノ目的タル當選人ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ衆議院ニ列席スルノ權ヲ失ハス

第八十八條 當選訴訟ニ付本章ニ規定シタルモノ、外總テ普通ノ訴訟手續ニ依ル

第十三章 罰則

第八十九條 納稅額年齢住所及其ノ他選舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シ選舉人名簿ニ記載セラレタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十條 投票ヲ得又ハ他人ニ當票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品手形若ハ公私ノ職務ヲ選舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
其ノ授與又ハ約束ヲ受ケタル者亦同シ

第九十一條 直接又ハ間接ニ金錢物品手形若ハ公私ノ職務ヲ選舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ刑法第二百三十四條ノ例ヲ以テ論ス

第九十二條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票

ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ選舉人ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第九十三條 選舉人ニ暴行ヲ加ヘテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ三月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十四條 選舉人ヲ強逼シ又ハ投票所若ハ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若ハ劫奪スルノ目的ヲ以テ多衆ヲ嘯聚シタル者ハ六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
其ノ情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ十五日以上一月以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各本刑ニ一等ヲ加フ
第九十五條 選舉ノ際管理者又ハ立會人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ投票所若ハ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若ハ劫奪シタル者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各本刑ニ一等ヲ加フ
第九十六條 多衆ヲ嘯聚シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ重禁獄ニ處ス

其ノ情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各本刑ニ一等ヲ加フ

第九十七條 演說又ハ新聞紙若ハ其ノ他ノ文書ヲ以テ人ヲ教唆シ前條ノ罪ヲ犯サシメタル者ハ刑法第百五條ノ例ニ依ル其ノ教唆ノ効ナキ者モ仍本刑ニ二等又ハ三等ヲ減シ處斷ス

第九十八條 戎器又ハ兇器ヲ携帯シテ投票所若ハ選舉會場ニ入りタル者ハ三圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十九條 當選人ニ於テ第八十九條ヨリ第九十八條ニ至ルマテノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ當選ハ無効トス

第一百條 他人ノ姓名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲シタル者及第十四條ニ依リ選舉人タルコトヲ得サル者投票ヲ爲シタルトキハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百一條 前數條ノ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ再ヒ罰金ノ刑ニ處セラレタル者ハ三年以上七年以下ノ選舉權及被選舉權ヲ停止ス

第一百二條 立會人正當ノ事故ナクシテ此ノ法律ニ規定シタル義務ヲ缺クトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百三條

本章ニ規定シタル罰則ノ外刑法ニ正條アルモノハ各其條ニ依リ重キニ從テ處斷ス

第百四條

凡テ選舉ニ關ル犯罪ハ六箇月ヲ以テ期滿免除トス

第百五條

此ノ罰則ハ第十一章ノ各條ト共ニ投票所及選舉會場ニ貼示スヘシ

第十四章 補則

第百六條

市ニ於テハ一市ニ一ノ投票所ヲ設ケ此ノ法律ニ規定シタル投票及選舉ノ管理ハ市長兼テ之ヲ掌ルヘシ

第百七條

前條ノ場合ニ於テハ一選舉區ニ一ノ投票所ヲ設ケ此ノ法律ニ規定シタル投票及選舉ノ管理ハ區長兼テ之ヲ掌ルヘシ

第百八條

ニ於ケル選舉人中ヨリ立會人三名以上七名以下ヲ定メ遲クハ選舉ノ期日ヨリ三日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ選舉ノ當日選舉管理ノ市役所又ハ區役所ニ參會セシムヘシ
立會人ハ投票ニ立會ヒ併セテ投票ヲ點檢スヘシ
此ノ場合ニ於ケル選舉明細書ハ併セテ投票ノ事項ヲ記載スヘシ

第百九條

島司ヲ置ク地方ニ於テハ此ノ法律ニ規定シタル選舉長ノ職務ハ島司之ヲ掌ルヘシ

第百十條

町村制ヲ施行セサル町村ニ於テハ此法律ニ規定シタル町村長ノ職務ハ戶長之ヲ掌ルヘシ

第百十一條

選舉人名簿調製ノ初年ニ限リ所得稅法施行以來第六條第八條ニ規定シタル納稅額ヲ引續キ納完シタル者ハ其ノ納稅資格ノ期限ニ充ツルモノト見做スヘシ

第百十二條

北海道沖繩縣及小笠原島ニ於テハ將來一般ノ地方制度ヲ準行スルノ時ニ至ルマテ此ノ法律ヲ施行セス

眾議院議員選舉法附錄

東京府

議員總數十二人

區一第	區二第	區三第	區四第	區五第
赤坂區	芝區	京橋區	日本橋區	本所區
一人	一人	一人	一人	一人

四八

區六第	區七第	區八第	區九第	區十第	區十一第
淺草區	神田區	本郷區	小石川區	東多摩區	南葛飾區
一人	一人	一人	一人	一人	一人

京都府 議員總數七人

區二十第	區一第	區二第	區三第	區四第
桂原郡	上京區	下京區	愛宕郡	宇治郡
一人	一人	一人	一人	一人

大坂府 議員總數十人

區五第	區六第	區一第	區二第	區三第
北桑田郡	加與郡	西區	東區	南區
二人	一人	一人	一人	一人

四九

區三第	區二第	區一第	兵庫縣 議員總數十二人	區六第	區五第
氷多	有川莞武	神		足足淘大	津愛高
上紀	馬邊原庫	戶		柄柄綾住	久甲座
郡郡	郡郡郡郡	區		郡郡郡郡	郡郡郡
一	一	一		一	一
人	人	人		人	人

區七第	區六第	區五第	區四第
澁大丹志丹錦安古八石	高若河讚交茨	能豐島島	住東西
川縣北紀南部	宿市上川	安江內真野田	勢島下上
郡郡郡郡郡郡郡郡	郡郡郡郡郡郡	郡郡郡郡	郡郡郡
一	一	一	二
人	人	人	人

區八第	區七第	區六第	區五第	區四第
安佐赤揖揖	神神飾飾	加多加	印加	美明八
粟用穗西東	西東西東	西可東	南古	靈石部
郡郡郡郡郡	郡郡郡郡	郡郡郡	郡郡	郡郡郡
二	一	一	一	一
人	人	人	人	人

區四第	區三第	區二第	區一第	神奈川縣	區九第	區八第
鎌三	北西南	都獨久	橫	議員總數七人	日南	泉大埤
倉浦	多多多	築樹	濱		根	鳥
郡郡	摩摩摩	郡郡郡	區		郡郡	郡郡區
一	二	一	一		一	一
人	人	人	人		人	人

五

五〇

區八第	區七第	區六第	區五第	區四第	區三第
西中	東中南北	刈	三古	南蒲原	中蒲原
頸城郡	頸魚沼郡	羽郡	島志郡	蒲原郡	蒲原郡
二人	二人	一人	二人	一人	一人

區四第	區三第	區二第	區一第	區九第	埼玉縣
男榛大北	中北南	比橫高入	新北	羽加雜	議員總數八人
金澤郡	葛飾郡	企見麗間	座立郡	茂茂太	
二人	二人	二人	一人	一人	

五三

區二第	區一第	長崎縣	區十第	區九第
北東	西長	議員總數七人	三津	朝養二七出氣美城
高彼	彼崎		原名	來父方美石多合崎
來郡	杵郡		郡郡	郡郡郡郡郡郡郡
一人	二人		一人	二人

區二第	區一第	新潟縣	區六第	區五第	區四第	區三第
北東	西新	議員總數十三人	下上	南	石壹北	南高來
船浦原郡	浦原郡		縣縣	松浦郡	田時郡	郡郡
二人	一人		一人	一人	一人	一人

五三

區三第	區二第	區一第	茨城縣	區八第	區七第	區六第
眞西	那久多	行鹿東	長朝平	天周望	長上夷	
壁茨	珂慈賀	方嶋	狹夷	房羽准	柄植隔	
郡郡	郡郡郡	郡郡郡	議員總數八人	郡郡郡	郡郡郡	
一	二	二	八	一	一	
人	人	人		人	人	

區二第	區一第	栃木縣	區六第	區五第	區四第
寒下上	芳河		北河信	新筑	猿西岡
川都都	賀內	議員總數五人	相內太	治波	島葛田
郡郡郡	郡郡		馬郡郡	郡郡	餘郡郡
二	一		一	一	一
人	人		人	人	人

五五

區四第	區三第	區二第	區一第	群馬縣	區五第
吾片西	南多綠	邑山新	北利南	秩那賀	兒
妻岡	甘胡野	樂田田	勢根多	父珂美	玉
郡郡郡	郡郡郡	郡郡郡	郡郡郡	議員總數五人	郡郡郡
一	一	一	一	五	一
人	人	人	人		人

區五第	區四第	區三第	區二第	區一第	千葉縣	區五第
武山	匝海	香	南下印	市千		確北甘
射邊	瑩上	取	相植馬	原葉	議員總數九人	冰樂
郡郡	郡郡	郡	郡郡郡	郡郡		郡郡
一	一	一	二	一		一
人	人	人	人	人		人

五五

愛知縣					議員總數十二人	區六第
區五第	區四第	區三第	區二第	區一第		伊名山阿
中	葉丹	西東	愛	名		賀張田拜
嶋	栗羽	春日井	知	古		郡郡郡郡
郡	郡	郡	郡	屋		
一	一	一	一	區		一
人	人	人	人	一		人

奈良縣					議員總數四人	區四第	區三第
區二第		區一第				那鹽	梁足安
忍葛	高十字	式式	平廣山添添			須谷	田利蘇
海下	上市	市陀下	上	群瀬邊下上		郡郡	郡郡郡
郡	郡	郡	郡	郡		一	一
二			一			人	人
人			人				

區一十第	區十第	區九第	區八第	區七第	區六第
八	寶南	東西	幡碧	知	海海
名	飯	加加	豆海	多	西東
美	樂	茂茂	郡	郡	郡
郡	郡	郡	郡	郡	郡
一	一	一	一	一	一
人	人	人	人	人	人

三重縣					議員總數七人	區三第
區五第	區四第	區三第	區二第	區一第		吉宇
南英	答度	飯飯	朝員	桑	河奄鈴三	野智
半半	虞志	會氣	野高	明辨	名曲藝鹿重	郡郡
郡	郡	郡	郡	郡	郡	一
二	一	一	一	一	一	人
人	人	人	人	人	人	

靜岡縣

區一第	區二第	區三第	區四第	區五第	議員總數
有安	富原	志太	榛原	周知	八人
倍渡	士原	太津	原野	知田	
郡	郡	郡	郡	郡	
一人	一人	一人	一人	一人	

山梨

區一第	區二第	區三第	區四第	區五第	區六第	區七第	議員總數
北西	東山	北東	南都	東都	駿田	那賀	三人
山梨	山梨	山梨	山梨	山梨	那賀	那賀	
郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	
一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	

滋賀縣

區一第	區二第	區三第	區四第	區五第	議員總數
高滋	甲賀	犬上	西淺	厚方	五人
賀島	賀洲	上知	井井	見縣	
郡	郡	郡	郡	郡	
一人	一人	二人	一人	一人	

區二第	區三第	區四第	區五第	區六第	議員總數
不破	多下	池本	武郡	加兒	五人
八破	石藝	田野	儀上	茂兒	
郡	郡	郡	郡	郡	
一人	一人	一人	一人	一人	

長野縣

議員總數八人

區七第 吉益大 城田野 郡郡郡

一人

區一第 更上水 級內郡

一人

區二第 下上水 高井內 郡郡郡

一人

區三第 植小 科縣 郡郡

一人

區四第 北南東西 安安筑筑 曇曇摩摩 郡郡郡郡

二人

區五第 北南 佐佐 久久 郡郡

一人

福島縣

議員總數七人

區四第 登粟 米原 郡郡

一人

區五第 本牡桃 吉鹿生 郡郡郡

一人

區一第 伊信 達夫 郡郡

一人

區二第 安安 積達 郡郡

一人

區三第 石西東 川白白 瀨村 郡郡郡

二人

巖手縣

議員總數五人

區四第 大北南 耶會會 沼麻津 郡郡郡

二人

區五第 宇行標 多方葉 郡郡郡

一人

區一第 北南 紫巖巖 波手手 郡郡郡

一人

區二第 北南中 九九閉 戶伊伊 郡郡郡

一人

宮城縣

議員總數五人

區六第 諏上 訪伊那 郡郡

一人

區七第 下伊那 郡

一人

區一第 宮名仙 城取臺 郡郡區

一人

區二第 亘伊刈 理具田 郡郡郡

一人

區三第 遠玉志 田造田 郡郡郡

一人

福井縣			區四第	區三第	區二第
區三第	區二第	區一第	雄平仙	由河	鹿北山
丹今南	阪吉	大足	勝鹿北	利邊	角秋本
生立條	井田	野羽	郡郡郡	郡郡	郡郡郡
郡郡郡	郡郡	郡郡	二	一	一
二	一	一	人	人	人
議員總數四人					

石川縣				區四第	區三第	區二第	區一第	區四第	
宮山縣	珠鳳	鹿羽河	江能	石金	川澤	賀飯數方	郡郡郡	郡郡郡	
洲至	島昨北	沼美	川澤	川澤	川澤	川澤	川澤	川澤	
郡郡	郡郡郡	郡郡	郡	區	區	郡	郡	郡	
一	二	六	二	二	一	一	一	一	
八	人	人	人	人	人	人	人	人	
議員總數五人				議員總數六人					

六三

青森縣					區三第
區二第	區一第	區五第	區四第	區三第	東和
南北	三下上	東西	氣膽江	南西	和和
津津	北北	磐磐	仙澤刺	閉閉	伊伊
輕輕	郡郡	井井	郡郡郡	伊伊	賀賀
郡郡	郡郡	郡郡	郡郡	郡郡	郡郡
一	二	一	一	一	
人	人	人	人	人	
議員總數四人					

山形縣				區三第	區二第	區一第	區四第	秋田縣
區一第	區四第	區三第	區二第	區一第	西中	西東	北最	南秋
南秋	北最	東田	西置	西東	津津	村村	村山	田郡
郡	上	田川	賜賜	賜賜	輕輕	山山	山	郡
郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡
一	一	二	一	二	一	二	一	一
人	人	人	人	人	人	人	人	人
議員總數五人				議員總數六人				

六二

區二第	區一第	岡山縣	區六第	區五第	區四第
和磐赤津	兒邑上御岡		知海穩周	鹿美那	邑安邇
氣梨阪高島久道野山		議員總數八人	夫士地吉	足濃賀	智濃摩
郡郡郡郡郡郡郡			郡郡郡郡	郡郡郡	郡郡郡
一	二		一	一	一
人	人		人	人	人

區七第	區六第	區五第	區四第	區三第
久久英吉勝勝	東東西西大真	阿哲川上後小淺	下賀窪	都
米米	北南北西	庭島賀多上房月田口道陽屋字		
南北田野南北	條條條條			
條條				
郡郡郡郡郡	郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡	郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡	郡郡郡郡郡	郡郡郡郡郡
一	一	一	一	一
人	人	人	人	人

六五

區一第	區四第	區三第	區二第	區一第
智八八巖法邑	彌	射	下新川	婦上新川
頭東上井美美	波	水		
郡郡郡郡郡	郡	郡	郡	郡
一	一	一	一	二
人	人	人	人	人

區三第	區二第	區一第	島根縣	區三第	區二第
神楯出	飯大仁能	意秋島		日會汗	八久河氣高
門縫雲	石原多義	宇鹿根		野見入	橋米村多草
郡郡郡	郡郡郡郡	郡郡郡	議員總數六人	郡郡郡	郡郡郡郡郡
一	一	一		一	一
人	人	人		人	人

六四

區三第	區二第	區一第	和歌山縣	區五第	區四第	區三第
東西日	那伊	有海名和	議	玖	大熊都	豐赤
牟牟高	賀都	田部草	員	珂	島毛濃	間
郡郡郡	郡郡	郡郡郡	總	郡	郡郡郡	關
二	一	二	數	一	二	一
人	人	人	五	人	人	人
			人			

區六第	區五第	區四第	區三第	區二第	區一第	廣島縣
豐	加	三三高	山高沼	佐	安廣	議
田	茂	谿次田	縣宮田	伯	藝島	員
郡	郡	郡郡郡	郡郡郡	郡	郡區	總
一	一	一	一	一	二	數
人	人	人	人	人	人	十
						八

區一第	區五第	區四第	區三第	區二第	區一第	德島縣
小山香	三美	板	麻阿名	海那	勝名	議
豆田川	好馬	野	植波西	部賀	浦東	員
郡郡郡	郡郡	郡	郡郡郡	郡郡	郡郡	總
一	一	一	一	一	一	數
人	人	人	人	人	人	五
						人

區二第	區一第	山口縣	區九第	區八第	區七第
大見阿	佐厚美吉	議	惠三奴甲神品	安沼深	世御
津島武	波狹彌敷	員	蘇上可奴石治田	那隈津	羅調
郡郡郡	郡郡郡	總	郡郡郡郡郡郡	郡郡郡	郡郡
一	二	數	一	一	一
人	人	七	人	人	人
		人			

福岡縣				
區二第	區一第	區三第	區二第	
夜下上席御那宗糟	早志怡福	安香	吾高幡	
須座座田笠珂像屋	良摩士岡	藝美	川岡多	
郡郡郡郡郡郡郡	郡郡郡區	郡郡	郡郡郡	
二	一	一	二	議員總數九人
人	人	人	人	

區八第	區七第	區六第	區五第	區四第	區三第
上築仲京	田企	三山	下上三竹生山御御	穗嘉鞍遠	
毛城津都	川救	池門	妻妻瀧野葉本原井波麻手賀		
郡郡郡郡	郡郡	郡郡	郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡	郡郡郡郡	郡郡
一	一	一	一	一	一
人	人	人	人	人	人

愛媛縣				
區一第	區五第	區四第	區三第	區二第
下伊久野風和温	三豐	那多	阿鵜	三寒大
浮像米間早氣泉	野田	珂度	野足	木川內
郡郡郡郡郡郡郡	郡郡	郡郡	郡郡	郡郡郡
二	一	一	一	一
人	人	人	人	人

高知縣					
區一第	區六第	區五第	區四第	區三第	區二第
長土	北南	東西	字新	上喜	周桑越
岡佐	宇宇	字字	摩居	浮多	布村智
郡郡	和和	和和	郡郡	穴郡	郡郡郡
一	一	一	一	一	一
人	人	人	人	人	人

大分縣

議員總數六人

區一第	區二第	區三第	區四第	區五第	區六第
大分郡	北海部郡 南海部郡	大野郡 直入郡	速見郡 玖珠郡 日田郡	西國郡 東國郡	宇佐郡 下毛郡
一人	一人	一人	一人	一人	一人

佐賀縣

議員總數四人

區一第	區二第	區三第	區一第	區二第
佐賀郡 小城市 基肄郡 養父郡 三根郡	東松浦郡 西松浦郡	藤津郡 杵島郡	熊本區 飽田郡 託麻郡 宇土郡	玉名郡
二人	一人	一人	二人	一人

宮崎縣

議員總數三人

區一第	區二第	區三第	區四第	區五第	區六第
宮崎郡 北那珂郡 南那珂郡 兒湯郡	鹿島郡 大隅郡	北那珂郡 八代郡 葦北郡 球磨郡	上益城郡 下益城郡	八代郡 北那珂郡 葦北郡 球磨郡	天草郡
一人	一人	二人	一人	一人	一人

鹿兒島縣

議員總數七人

區一第	區二第	區三第	區一第	區二第	區三第
鹿兒島郡 大隅郡	北那珂郡 八代郡 葦北郡 球磨郡	東諸縣郡 西諸縣郡	鹿兒島郡 大隅郡	給黎郡 宿黎郡 楯宿郡 穎娃郡 川邊郡	日置郡 阿多郡
一人	一人	一人	一人	一人	一人

區七第	區六第	區五第	區四第
大島郡	南大隅郡 南諸縣郡 肝大隅郡 東贈嶽郡	北伊佐郡 西贈嶽郡 桑原郡 始良郡 菱刈郡	高城郡 出水郡 南伊佐郡 薩摩郡 甌島郡
一人	一人	一人	一人

會計法

第一章 總則

第一條 政府ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

一會計年度所屬ノ歳入歳出ノ出納ニ關ル事務ハ翌年度十一月三十日マテニ悉皆完結スヘシ

第二條 租税及其ノ他一切ノ收納ヲ歳入トシ一切ノ經費ヲ歳出トシ歳入歳出ハ總豫算ニ編入スヘシ

第三條 各年度ニ於テ決定シタル經費ノ定額ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ經費ニ充ツルコトヲ得ス

第四條 各官廳ニ於テハ法律勅命ヲ以テ規定シタルモノノ外特別ノ資金ヲ有スルコトヲ得ス

第二章 豫算

第五條 歳入歳出ノ總豫算ハ前年ノ帝國議會集會ノ始ニ於テ之ヲ提出スヘシ

第六條 歳入歳出ノ總豫算ハ之ヲ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部中ニ於テ之ヲ款項ニ區分スヘシ

總豫算ニハ帝國議會參考ノ爲ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ

第一 各省ノ豫定經費要求書但シ各項中各目ノ明細ヲ記入スヘシ

第二 其ノ年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ歲入歲出現計書

第七條 豫算中ニ設クヘキ豫備費ハ左ノ二項ニ分ツ

第一豫備金

第二豫備金

第一豫備金ハ避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フモノトス

第二豫備金ハ豫算外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツルモノトス

第八條 豫備金ヲ以テ支辨シタルモノハ年度經過後帝國議會ニ提出シ

其ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第九條 每年度大藏省證券發行ノ最高額ハ帝國議會ノ協贊ヲ經テ之ヲ

定ム

第三章 收入

第十條 租稅及其ノ他ノ歲入ハ法律命令ノ規程ニ從ヒ之ヲ徵收スヘシ

法律命令ニ依リ當該官吏ノ資格アル者ニ非サンハ租稅ヲ徵收シ又ハ

其ノ他ノ歲入ヲ收納スルコトヲ得ス

第四章 支出

第十一條 每會計年度ニ於テ政府ノ經費ニ充ツル所ノ定額ハ其ノ年度

ノ歲入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第十二條 國務大臣ハ豫算ニ定メタル目的ノ外ニ定額ヲ使用シ又ハ各

項ノ金額ヲ彼此流用スルコトヲ得ス

國務大臣ハ其ノ所管ニ屬スル收入ヲ國庫ニ納ムヘシ直ニ之ヲ使用ス

ルコトヲ得ス

第十三條 國務大臣ハ其ノ所管定額ヲ使用スル爲ニ國庫ニ向ヒテ仕拂

命令ヲ發スヘシ

但シ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ他ノ官吏ニ委任シテ仕拂命令ヲ發セ

シムルコトヲ得

第十四條 國庫ハ法律命令ニ反スル仕拂命令ニ對シテ仕拂ヲ爲スコト

ヲ得ス

第十五條 國務大臣ハ政府ニ對シ正當ナル債主若ハ其ノ代理人ノ爲ニ

スルニ非サレハ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ス

左ノ諸項ノ經費ニ限リ國務大臣ハ主任ノ官吏ニ委任シ又ハ政府ノ命

シタル銀行ニ委任シテ現金支拂ヲ爲シシムル爲ニ現金前渡ノ仕拂命

令ヲ發スルコトヲ得

- 第一 國債ノ元利拂
- 第二 軍隊軍艦及官船ニ屬スル經費
- 第三 在外各廳ノ經費
- 第四 前項ノ外總テ外國ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費
- 第五 運輸通信ノ不便ナル内國ノ地方ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費
- 第六 廳中常用雜費ニシテ一箇年ノ總費額五百圓ニ滿タサルモノ
- 第七 場所ノ一定セサル事務所ノ經費
- 第八 各廳ニ於テ直接ニ從事スル工事ノ經費但シ一主任官ニ付三千圓マヲ限ル

第五章 決算

第十六條 會計検査院ノ検査ヲ經テ政府ヨリ帝國議會ニ提出スル總決算ハ總豫算ト同一ノ様式ヲ用非左ノ事項ノ計算ヲ明記スヘシ

- 歳入ノ部
- 歳入豫算額
- 調定濟歳入額
- 收入濟歳入額
- 收入未濟歳入額

歳出ノ部

- 歳出豫算額
- 豫算決定後増加歳出額
- 仕拂命令濟歳出額
- 翌年度繰越額

第十七條 前條ノ總決算ニハ會計検査院ノ検査報告ト俱ニ左ノ文書ヲ添付スヘシ

第一 各省決算報告書

第二 國債計算書

第三 特別會計計算書

第六章 期滿免除

第十八條 政府ノ負債ニシテ其ノ仕拂フヘキ年度經過後滿五箇年内ニ債主ヨリ支出ノ請求若ハ仕拂ノ請求ヲ爲サ、ルモノハ期滿免除トシテ政府ハ其ノ義務ヲ免ル、モノトス但シ特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル

第十九條 政府ニ納ムヘキ金額ニシテ其ノ納ムヘキ年度經過後滿五箇年内ニ上納ノ告知ヲ受クサルモノハ其ノ義務ヲ免ル、モノトス但シ

特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル

第七章 歲計剩餘定額繰越豫算外收入及定額戻入

第二十條 各年度ニ於テ歲計ニ剩餘アルトキハ其ノ翌年度ノ歲入ニ繰入ルヘシ

第二十一條 豫算ニ於テ特ニ明許シタルモノ及一年度内ニ終ルヘキ工事又ハ製造ニシテ避クヘカラサル事故ノ爲ニ事業ヲ遲延シ年度内ニ其ノ經費ノ支出ヲ終ラザリシモノハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第二十二條 數年ヲ期シテ竣功スヘキ工事製造及其ノ他ノ事業ニシテ繼續費トシテ總額ヲ定メタルモノハ毎年度ノ仕拂殘額ヲ竣功年度マテ遞次繰越使用スルコトヲ得

第二十三條 誤拂過渡トナリタル金額ノ返納出納ノ完結シタル年度ニ屬スル收入及其ノ他一切豫算外ノ收入ハ總テ現年度ノ歲入ニ組入ルヘシ但シ法律勅令ニ依リ前金渡概算渡繰替拂ヲ爲シタル場合ニ於テ返納金ハ各之ヲ仕拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入ル、コトヲ得

第八章 政府ノ工事及物件ノ賣買貸借

第二十四條

法律勅令ヲ以テ定メタル場合ノ外政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ハ總テ公告シテ競争ニ付スヘシ但シ左ノ場合ニ於テハ競争ニ付セス隨意ノ約定ニ依ルコトヲ得ヘシ

第一 一人又ハ一會社ニテ專有スル物品ヲ買入レ又ハ借入ル、ト

第二 政府ノ所爲ヲ秘密ニスヘキ場合ニ於テ命スル工事又ハ物品

ノ賣買貸借ヲ爲ストキ

第三 非常急遽ノ際工事又ハ物品ノ買入借入ヲ爲スニ競争ニ付スル暇ナキトキ

第四 特種ノ物質又ハ特別使用ノ目的アルニ由リ生産製造ノ場所又ハ生産者製造者ヨリ直接ニ物品ノ買入ヲ要スルトキ

第五 特別ノ技術家ニ命スルニ非サレハ製造シ得ヘカラサル製造品及機械ヲ買入ル、トキ

第六 土地家屋ノ買入又ハ借入ヲ爲スニ當リ其ノ位置又ハ構造等ニ限アル場合

第七 五百圓ヲ超ニサル工事又ハ物品ノ買入借入ノ契約ヲ爲スト

第八 見積價格二百圓ヲ超エサル動産ヲ賣拂フトキ

第九 軍艦ヲ買入ル、トキ

第十 軍馬ヲ買入ル、トキ

第十一 試験ノ爲ニ工作製造ヲ命シ又ハ物品ヲ買入ル、トキ

第十二 慈善ノ爲ニ設立セル教育所ノ貧民ヲ備役シ及其ノ生産又ハ製造物品ヲ直接ニ買入ル、トキ

第十三 囚徒ヲ備役シ又ハ囚徒ノ製造物品ヲ直接ニ買入ル、トキ及政府ノ設立ニ係ル農工業場ヨリ直接ニ其ノ生産又ハ製造物品ヲ買入ル、トキ

第十四 政府ノ設立シタル農工業場又ハ慈善教育ニ係ル各所ノ生産製造物品及囚徒ノ製造物品ヲ賣拂フトキ

第二十五條 軍艦兵器彈藥ヲ除ク外工事製造又ハ物件買入ノ爲ニ前金拂ヲ爲スコトヲ得ス

第九章 出納官吏

第二十六條 政府ニ屬スル現金若ハ物品ノ出納ヲ掌ル所ノ官吏ハ其ノ現金若ハ物品ニ付一切ノ責任ヲ負ヒ會計検査院ノ検査判決ヲ受クヘ

第二十七條 前條ノ官吏水火盜難又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ其ノ保管スル所ノ現金若ハ物品ヲ紛失毀損シタル場合ニ於テハ其ノ保管上避ク得ヘカテサリシ事實ヲ會計検査院ニ證明シ責任解除ノ判決ヲ受クルニ非ザレハ其ノ負擔ノ責ヲ免ル、コトヲ得ス

第二十八條 現金又ハ物品ノ出納ヲ掌ルニ付身元保證金ヲ納メシムルコトヲ要スルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二十九條 仕拂命令ノ職務ハ現金出納ノ職務ト相兼ヌルコトヲ得ス

第十章 雜則
第三十條 特別ノ須要ニ因リ本法ニ準據シ難キモノアルトキハ特別會計ヲ設置スルコトヲ得

特別會計ヲ設置スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
第三十一條 政府ハ國庫金ノ取扱ヲ日本銀行ニ命スルコトヲ得

第十一章 附則
第三十二條 本法ノ條項帝國議會ニ關涉セサルノハ明治二十三年四月一日ヨリ施行シ其ノ關涉スルモノハ帝國議會開會ノ時ヨリ施行ス

決算ニ係ル條項ハ帝國議會ノ議定ヲ經タル年度ノ歲計ヨリ施行ス
第三十三條 本法ノ條項ト牴觸スル法令ハ各其條項施行ノ日ヨリ廢止ス

會計法補則

第一條

明治二十三年度歲出豫算中左ノ費用ハ明治二十四年度ノ豫算ニ於テ憲法第六十七條ニ規定シタル大權ニ基クハ既定ノ歲出トス

一 文武官ノ俸給及文官退官賜金

二 陸海軍軍事費憲兵費屯田兵費

三 賞勳年金及褒賞費

四 外國條約及約束ニ依レル支出

五 各廳ノ廳費及經常修繕費

第二條 帝國議會開會前ニ發布セラレタル法令ニ基ク左ノ費用ハ法律ノ結果ニ由ルノ歲出トス

一 帝國議會經費

二 裁判所並會計検査院經費

三 恩給扶助料罷役恤金及死傷手當

四 徵兵費

五 徵稅費 證券印紙切手類製造買戻押印費鑑札製造費所得稅調查委員手當市町村ニ交付スル徵稅費滯納處分費差押物件買上代

六 囚徒費

七 遞信事業及航路標識費

八 内外國難破船費

九 沖繩縣及小笠原島地方費

十 備荒儲蓄

十一 北海道拂下土地買上代

十二 恩賞及救助費

第三條 明治二十四年度歲出豫算ニ於テ左ノ費用ハ憲法第七十六條第二項ニ規定シタル政府歲出上ノ義務トス

一 神社費

二 公債償還利子及拂手數料

三 既ニ定マレル効力アル命令ニ依リ毎年各地方ニ付與スヘキ公共工事費補助及警察費聯帶支辨金

四 沖繩縣諸祿

五 既ニ定マレル効力アル命令ニ依リ航運鐵道製造殖産ノ會社病院學校ニ付與スヘキ補助又ハ利子保證

六 雇外國人ノ俸給恩給及手當

七 法律上ノ賠償及訴訟費

八 諸拂戻金

九 國庫金取扱費

十 預金利息

十一 既約アル地所家屋借料

第四條 明治二十三年度以前ノ歲出豫算ニ於テ數年ヲ期シタル事業ニシテ明治二十四年度ニ至ルマテ未タ竣工ニ至ラサルモノハ繼續費ノ例ニ依ル

衆議院議員選舉法施行規則

第一條 選舉人ノ年齢ハ選舉期日(七月一日)ノ前滿二十五歲ニ達スルヲ以テ合格トス

第二條 選舉法第六條第二ニ掲クル住居ノ期限内ニ選舉人其ノ住居ヲ府縣外ニ移シ再ヒ其ノ本籍府縣ニ歸住シタルトキハ時日ノ長短ニ拘ラズ其ノ期限中斷シタルモノトス但シ旅行中ノ滞在ハ中斷スルノ限ニ在ラズ

第三條 選舉人及被選人ノ納稅資格ハ地租ニ付テハ選舉人名簿調製期日(四月一日)ノ前滿一年以上十五圓以上ヲ納ムヘキ土地ヲ所有シ之ヲ納メ仍引續キ所有シ及納ムル者ヲ以テ合格トシ所得稅ニ付テハ選

舉人名簿調製期日ノ前滿三年以上之ヲ納メ仍引續キ納ムル者ヲ以テ合格トス

賣買讓與ニ依リ土地ノ所有權移轉ノ場合ニ於テ其ノ所有ノ年限ヲ算スルハ登記ノ日ニ依ルヘシ

滿三年以上所得稅ヲ納メ及滿一年以上地租ヲ納ムル者其ノ地租及所得稅ヲ併シ十五圓以上ニ及フトキハ納稅資格ヲ有スルモノトス但シ所得稅ヲ納ムル者毎年ノ納額ニ差異アルトキハ其ノ最少額ヲ以テ地租ニ併算スヘシ

第四條 質入地ノ地租ハ其ノ地主ノ納稅資格ニ算入スヘシ

第五條 數人共有地ノ地租ハ之ヲ平分シ各箇ノ納稅資格ニ算入ス但シ土地臺帳又ハ附屬帳簿ニ所有權又ハ納稅負擔ノ割合ヲ記入シタルモノハ各其ノ割合ニ依ルヘシ

第六條 被選人ノ年齢ハ選舉期日ノ前滿三十歲ニ達スルヲ以テ合格トス

被選人家督ニ由リ財産ヲ相續シタル者ノ納稅資格ハ選舉法第七條ニ規定シタル選舉人ノ例ニ同シ

第七條 審視廳ノ官吏ハ選舉法第十條ノ例ニ依リ東京府内ニ於テ被選

凡タルコトヲ得ス

凡六

第八條 郡市ヲ合セ又ハ二郡以上ヲ以テ一選舉區ト爲シタル場合ニ於テハ選舉ノ管理ニ關係スル郡ノ官吏ハ選舉法第十一條ニ規定シタル市町村吏員ノ例ニ依リ其ノ選舉區内ニ於テ被選人タルコトヲ得ス

第九條 選舉法第十二條ニ掲ケタル神官トハ神社ニ奉祀スルヲ職トスル者、僧侶及教師トハ教規若ハ宗制ニ從ヒ其ノ分限ヲ有スル者其ノ他何等ノ宗教ヲ問ハス宣教ニ從事スル者ヲ謂フ

第十條 組合町村ニシテ一ノ町村役場ヲ置クトキハ其ノ組合町村ヲ以テ一投票區域トス

選舉法第十九條第一ノ場合ニ於テ一市又ハ市内ノ一區ヲ以テ一選舉區ト爲シタルトキハ其ノ選舉區ヲ以テ一投票區域トス

選舉法第十九條第二ノ場合ニ於テ市内ニ在ル數區ヲ合セテ一選舉區ト爲シタルトキハ其ノ選舉區ヲ以テ一投票區域トス

選舉法第十九條第三ノ場合ニ於テ郡市ヲ合セテ一選舉區ト爲シタルトキハ郡ハ町村ヲ以テ一投票區域トシ市ハ其市ヲ以テ一投票區域トス

第十一條 選舉人名簿ニハ選舉人ヲ其ノ姓ノ伊呂波順ニ記載シ番號ヲ

付スヘシ

第十二條 選舉人正當ノ事故ニ依リ選舉法第二十條ノ手續ヲ爲スコト能ハスシテ選舉人名簿ニ登載セラレサルトキハ其ノ第二十三條ノ例ニ依リ脱漏ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第十三條 選舉長ノ判定ニ對スル出訴若ハ始審裁判所ノ判決ニ對スル上告ノ爲ニ其ノ判定又ハ判決ノ執行ヲ停止セズ

第十四條 選舉人名簿確定ノ後選舉人其ノ投票區域外ニ轉住シタルトキハ前住地ノ投票所ニ於テ投票ヲ爲スヘシ

第十五條 投票ヲ始ムル時刻ニ至リ立會人參會セサルトキハ投票所管理者ハ參會シタル選舉人中ヨリ更ニ立會人ヲ指定スヘシ

第十六條 投票所管理者ハ投票所入場券ヲ製シ遅クモ投票期日ノ五日前ニ之ヲ各選舉人ニ配付スヘシ

入場券ノ配付ヲ受ケサル選舉人ハ之ヲ請求スルコトヲ得

此ノ規則第十四條ニ依リ投票ヲ爲サントスル者ハ前項ノ例ニ依リ入場券ヲ請求スルコトヲ得

入場券ニハ選舉人ノ住所姓名選舉人名簿ニ記載シタル番號及投票ノ場所日時ヲ記載スヘシ

第十七條 選舉人投票所ニ入ルトキハ入場券ヲ受付掛ニ差出スヘシ選舉人多數ナル投票所ニ於テハ必要ナルトキハ到着番號札ヲ受取ラシムヘシ

八九

第十八條 選舉人入場券ヲ紛失シタルトキハ其ノ由テ受付掛ニ申立テ投票所管理者ノ承認ヲ得テ入場スルコトヲ得

第十九條 投票所管理者ハ選舉人ヲ呼出シ其ノ住所姓名ヲ自稱セシメ選舉人名簿ニ對照シ投票用紙ヲ交付スヘシ若到着番號札ヲ受取ラシメタル場合ニ於テハ到着番號ノ順序ニ從ヒ番號札ト引換ニ投票用紙ヲ交付スヘシ

第二十條 選舉人誤テ投票用紙ヲ汚染シタルトキハ更ニ之ヲ請求スルコトヲ得

第二十一條 投票ハ投票所管理者及立會人ノ面前ニ於テ選舉人自ラ之ヲ投票函ニ投入シ順次投票所ヨリ退出スヘシ

第二十二條 投票終ルノ時刻ニ至リタルトキハ投票所管理者ハ其ノ由ヲ宣告シ一時入口ヲ閉鎖セシメ參會シタル選舉人中未投票セサル者アルトキハ直ニ投票セシメタル後投票函ヲ閉鎖スヘシ

第二十三條 選舉長ハ各投票所ノ投票函總テ到達シタル翌日選舉法第

四十八條ノ手續ヲ爲シ逐次投票ヲ開披點檢シテ選舉委員ニ付シ每票先ツ選舉人ノ姓名次ニ被選人ノ姓名ヲ朗讀セシメ書記二名以上ヲシテ被選人ノ得點ヲ點數簿ニ記入セシムヘシ

第二十四條 投票點數ノ記入ヲ終リタルトキハ選舉長ハ各被選人ノ得點總數ヲ朗讀スヘシ

第二十五條 點檢濟ノ投票ハ其ノ有効無効ヲ區別シテ封緘シ選舉長ハ選舉委員ト共ニ之ニ捺印スヘシ

連名投票ニシテ其ノ一部無効ナルモノハ無効投票ト共ニ保存スヘシ

第二十六條 天災若ハ其ノ他避クヘカラサル事故ニ依リ投票ヲ行フコトヲ得ヌ又ハ選舉會ヲ開クコトヲ得ザルトキハ投票所管理者又ハ選舉長ハ其ノ施行ヲ止メ府縣知事ニ其ノ由ヲ届出ヘシ此ノ場合ニ於テハ府縣知事ハ期日ヲ定メ更ニ投票ヲ行ハシメ又ハ選舉會ヲ開カシムヘシ但シ其ノ期日ハ遅クトモ五日以前ニ投票區域内又ハ選舉區内ニ告示セシムヘシ

第二十七條 選區法第五十八條第二項ノ場合ニ於テ生年月ノ差ニ依テ當選ヲ得タル者其ノ當選ヲ辭シ又ハ第六十三條ノ期限内ニ其ノ承諾ヲ届出サルトキハ生年月ノ差ニ依リ當選ヲ失ヒタル者ヲ以テ當選人

八九

第二十八條 選舉法第六十三條ニ掲ケタル届出ノ期限ハ第六十條ニ依リ當選人ノ姓名ヲ告示シタル日ヨリ起算スヘシ

第二十九條 選舉法第五十二條ノ選舉長ノ決定ニ對シ異議アル者又ハ第七十六條ノ投票所管理者ノ決定ニ對シ不服ナル者ハ始審裁判所ニ出訴スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ選舉法第二十六條ノ例ニ依ル

第三十條 選舉長及投票所管理者故障アルトキハ其ノ附屬ノ官吏又ハ吏員ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシムルコトヲ得

衆議院議員選舉法罰則補則

第一條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ選舉會場又ハ投票所ノ近傍若クハ選舉人往來ノ途中ニ於テ選舉人ニ酒食ヲ供シ又ハ選舉會場若クハ投票所ニ往復スル爲車馬ノ類ヲ給シ及其供給ヲ受ケタル者又ハ選舉人ノ爲ニ選舉會場若クハ投票所ニ往復スル車馬賃又ハ路費若クハ休泊料ノ類ヲ代辨シ又ハ代辨スルコトヲ約束シ及其代辨又ハ約束ヲ受ケタル者ハ衆議院議員選舉法第九十條ノ例ニ依リ處斷ス

第二條 第一條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉人ヲ脅逼シ拐引シ若クハ其往來ノ便ヲ妨ク若クハ詐僞ノ手段ヲ以テ其選舉權ノ施行ヲ妨害シタル者ハ衆議院議員選舉法第九十二條ノ例ニ依リ處斷ス

本條ニ記載シタル所業ヲ爲シテ第一條ニ記載セタル目的ヲ達シタル者ハ衆議院議員選舉法第九十三條ノ例ニ依リ處斷ス

第三條 被選人タルコトヲ得ル者ヲ指シテ被選人タルコトヲ得ス又ハ當選ヲ承諾スルノ意ナシトノ虚報ヲ流傳セシメタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四條 選舉會場又ハ投票所所在ノ郡市内ニ於テ選舉ノ氣勢ヲ張ル爲多衆集合シ若クハ隊伍ヲ組ミテ往來シ又ハ簀火松明ヲ焚キ若クハ鐘鼓法螺喇叭ノ類ヲ鳴ラシ旗幟其他ノ標章ヲ用井ル等ノ所業ヲ爲シ警察官ノ制止ヲ受クルモ仍其命ニ從ハサル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五條 第一條ニ記載シタル目的ヲ以テ張札ノ類ヲ公然揭示シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 當選人第一條乃至第四條ニ依リ刑ニ處セラレタルトキハ衆議院議員選舉法第九十九條ノ例ニ依ル

第七條 本法ニ關スル犯罪ハ衆議院議員選舉法第百四條ノ例ニ依ル

九二

衆議院議員選舉法及施行規則ニ於ル事務書式等準據
取扱方

衆議院議員選舉法及選舉法施行規則ニ就テハ其事務及書式等左ノ各條
ニ準據シ取扱フヘシ

第一條 衆議院議員選舉法第十八條ノ選舉人名簿ハ別紙第一號ノ式ニ
依リ調製スヘシ

第二條 投票所管理者ハ遅クトモ投票期日ノ五日前ニ投票所ヲ指定シ
之ヲ其投票區域内ニ公告スヘシ

第三條 投票所管理者ハ選舉法第三十三條ニ依リ立會人ヲ定メ之ヲ本
人ニ通知スルトキハ其指定シタル立會人ノ内若シ正當ノ事故ニ由リ
テ其職ヲ辭スル者アルモ仍ホ投票期日ノ三日前更ニ立會人ヲ指名ス
ルコトヲ得ヘキ餘日ヲ存シテ之ヲ通知スヘシ但臨時已ムヲ得サル事
故ニ由リ投票期日ノ一兩日前ニ至リ其職ヲ辭スル者アルトキハ選舉
法施行規則第十五條ニ依リ投票ノ當日投票所ニ參會シタル選舉人中
ヨリ之ヲ指名スヘシト雖投票所管理者ハ豫メ其當日指名セントスル

者ヲ定メ前以テ之ヲ其本人ニ通牒シ置キ投票ヲ始ムル前ニ參會セシ
メ臨時指名スルニ差支ナカラシムルヲ要ス

第四條 投票用紙、投票函、入場券、及到着番號札ハ別紙第二號第三號
第四號ノ式ニ依ルヘシ

第五條 投票所ハ寺院若クハ學校等ノ如キ可成門戸アル場所ヲ以テ投
票所ニ充ツヘシ

第六條 投票所ノ開閉ハ擊柝又ハ鐘鼓ヲ以テ之ヲ報スヘシ
投票所ハ午前六時三十分ニ其門戸ヲ開キ午後六時ニ之ヲ閉ツヘシ

第七條 投票所ハ別紙第五號甲乙ノ式ヲ標準トシ選舉人員ノ多少ニ依
テ適宜之ヲ斟酌シ受付所、選舉人扣所、投票用紙交付所、投票記載所、
投票ノ場所等ヲ區別シ之ヲ設クヘシ

第八條 午前七時ニ於テ投票所管理者ハ參會シタル選舉人ヲ投票用紙
交付所ノ入口ニ招集シ選舉法第三十六條ニ依リ立會人ト共ニ投票函
ノ空虛ナルコトヲ選舉人ニ示シ且選舉人ノ面前ニ於テ其第一蓋ノ錠
ヲ卸シ之ヲ投票所管理者及立會人列席ノ卓上ニ置キタル後到着番號
ノ順序ニ依リ適宜選舉人數名ツ、ヲ呼出シ投票用紙交付所ニ入ラシ
メ選舉法施行規則第十九條ノ手續ヲ爲シ投票用紙ヲ交付スヘシ

九三

第九條 選舉人ニ投票用紙ヲ交付シタルトキハ投票記載ノ爲ニ設ケタル卓上ニ於テ記載セシメ直ニ投票ヲ爲サシムヘシ

投票記載ノ爲ニ設ケタル卓上ニハ呼入シタル各選舉人遲滞ナク記載シ得ル丈ニ數箇ノ筆硯墨ヲ備ヘ置クヘシ

第十條 選舉人出入ノ門戶及投票所出入口等ハ警察官吏又ハ特ニ設ケタル取締人ニ於テ取締ヲ爲スヘシ

第十一條 投票函ヲ閉鎖スル時ハ直ニ其第二蓋ノ錠ヲ卸シ其第一蓋ノ鑰ハ立會人ニ於テ保管シ第二蓋ノ鑰ハ投票所管理者之ヲ保管スヘシ

第十二條 投票明細書ハ別紙第六號書式ニ依リ之ヲ製スヘシ

第十三條 選舉法施行規則第二十三條ニ依リ被選人ノ得點ヲ記入スヘキ點數簿ハ別紙第七號ノ式ニ依リ之ヲ調製シ其記入毎ニ之ヲ記入スル書記ノ一人其被選人ノ點數ヲ呼フヘシ

第十四條 選舉明細書ハ別紙第八號書式ニ依リ之ヲ製スヘシ 選舉明細書ハ副本ヲ製シ選舉人又ハ被選人ノ請求アリタルトキハ之ヲ閱覽セシムヘシ

第十五條 選舉法第六十五條ニ依リ府縣知事ヨリ當選人ニ付與スヘキ當選證書ハ別紙第九號ノ式ニ依ルヘシ

第十六條 投票所ハ何郡(市區)何町村投票所ト記シ選舉會場ハ衆議院議員第何區選舉會場ト記シ各其門戶ニ之ヲ掲クヘシ 書式ハ別ニ頒ツ(書式略ス)

衆議院議員選舉法第九條第十條ニ記載シタル官吏ニ關スルノ件

府縣會規則第十三條市制町村制第十五條衆議院議員選舉法第九條第十條ニ記載シタル官吏ハ在職者ノミニ限ルモノトス

非職者休職者ニシテ議員又ハ市町村ノ吏員タラントスルトキハ本屬長官ノ許可ヲ受ク可シ

府縣制施行ニ際シ衆議院議員選舉區域等ニ關スル件

第一條 郡制施行ニ付郡ノ廢置分合若ハ郡市ノ境界ヲ變更スルコトアルモ衆議院議員ノ選舉ハ仍ホ從前ノ區域ニ依ル

衆議院議員選舉法及貴族院令ニ於テ直接國稅ト稱スル種目

衆議院議員選舉法及貴族院令ニ於テ直接國稅ト稱スルモノ左ノ如シ

貴族院令

- 第一條 貴族院ハ左ノ議員ヲ以テ組織ス
 - 一 皇族
 - 二 公侯爵
 - 三 伯子男爵各其ノ同爵中ヨリ選舉セラレタル者
 - 四 國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル者ヨリ特ニ勅任セラレタル者
 - 五 各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者ノ中ヨリ一人ヲ互選シテ勅任セラレタル者
- 第二條 皇族ノ男子成年ニ達シタルトキハ議席ニ列ス
- 第三條 公侯爵ヲ有スル者滿二十五歳ニ達シタルトハ議員タルヘシ
- 第四條 伯子男爵ヲ有スル者ニシテ滿二十五歳ニ達シ各其ノ同爵ノ選ニ當リタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選舉ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 前項議員ノ數ハ伯子男爵各總數ノ五分ノ一ヲ超過スヘカラス

- 第五條 國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル滿三十歳以上ノ男子ニシテ勅任セラレタル者ハ終身議員タルヘシ
- 第六條 各府縣ニ於テ滿三十歳以上ノ男子ニシテ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者十五歳ノ中ヨリ一人ヲ互選シ其ノ選ニ當リ勅任セラレタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選舉ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第七條 國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル者及各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者ヨリ勅任セラレタル議員ハ有爵議員ノ數ニ超過スルコトヲ得ス
- 第八條 貴族院ハ天皇ノ諮詢ニ應ヘ華族ノ特權ニ關ル條規ヲ議決ス
- 第九條 貴族院ハ其ノ議員ノ資格及選舉ニ關ル爭訟ヲ判決ス其ノ判決ニ關ル規則ハ貴族院ニ於テ之ヲ議定シ上奏シテ裁可ヲ請フヘシ
- 第十條 議員ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ身代限ノ處分ヲ受ケタル者アルトキハ勅命ヲ以テ之ヲ除名スヘシ
- 貴族院ニ於テ懲罰ニ由リ除名スヘキ者ハ議長ヨリ上奏シテ勅裁ヲ請フヘシ
- 除名セラレタル議員ハ更ニ勅許アルニ非サレハ再ヒ議員トナルコト

光緒

ヲ得ス

第十一條 議長副議長ハ議員中ヨリ七箇年ノ任期ヲ以テ勅任セラルヘ

被選議員ニシテ議長又ハ副議長ノ任命ヲ受ケタルトキハ議員ノ任期
間其ノ職ニ就クヘシ

第十二條 此ノ勅令ニ定ムルモノ、外ハ總テ議院法ノ條規ニ依ル

第十三條 將來此ノ勅令ノ條項ヲ改正シ又ハ増補スルトキハ貴族院ノ
議決ヲ經ヘシ

附錄

皇室典範

第一章 皇位繼承

第一條 大日本國皇位ハ祖宗ノ皇統ニシテ男系ノ男子之ヲ繼承ス

第二條 皇位ハ皇長子ニ傳フ

第三條 皇長子在ラサルトキハ皇長孫ニ傳フ皇長子及其ノ子孫皆在ラ
サルトキハ皇次子及其ノ子孫ニ傳フ以下皆之ニ例ス

第四條 皇子孫ノ皇位ヲ繼承スルハ嫡出ヲ先ニス皇庶子孫ノ皇位ヲ繼
承スルハ皇嫡子孫在ラサルトキニ限ル

第五條 皇子孫皆在ラサルトキハ皇兄弟及其ノ子孫ニ傳フ

第六條 皇兄弟及其ノ子孫皆在ラサル時ハ皇伯叔父及其ノ子孫ニ傳フ

第七條 皇伯叔父及其ノ子孫皆在ラサルトキハ其ノ以上ニ於テ最近親
ノ皇族ニ傳フ

第八條 皇兄弟以上ハ同等内ニ於テ嫡ヲ先ニシ庶ヲ後ニシ長ヲ先ニシ
幼ヲ後ニス

第九條 皇嗣精神若クハ身體ノ不治ノ重患アリ又ハ重大ノ事故アルト
キハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シ前數條ニ依リ繼承ノ順序ヲ換フル
コトヲ得

第二章 踐祚即位

第十條 天皇崩スルトキハ皇嗣即チ踐祚シ祖宗ノ神器ヲ承ク

第十一條 即位ノ禮及大嘗祭ハ京都ニ於テ之ヲ行フ

第十二條 踐祚ノ後元號ヲ建テ一世ノ間ニ再ヒ改メサルコト明治元年
ノ定制ニ從フ

第三章 成年立后立太子

第十三條 天皇及皇太子皇太孫ハ滿十八年ヲ以テ成年トス

第十四條 前條ノ外ノ皇族ハ滿二十年ヲ以テ成年トス

第十五條 儲嗣タル皇子ヲ皇太子トス皇太子在ラサルトキハ儲嗣タル皇孫ヲ皇太孫トス

第十六條 皇后皇太子皇太孫ヲ立ツルトキハ詔書ヲ以テ之ヲ公布ス

第四章 敬稱

第十七條 天皇太皇太后皇太后皇后ノ敬稱ハ陛下トス

第十八條 皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃親王親王妃內親王王妃女

王ノ敬稱ハ殿下トス

第五章 攝政

第十九條 天皇未タ成年ニ達セサルトキハ攝政ヲ置ク

天皇久キニ亘ルノ故障ニ由リ大政ヲ親ヲスルコト能ハサルトキハ皇

族會議及樞密顧問ノ議ヲ經テ攝政ヲ置ク

第二十條 攝政ハ成年ニ達シタル皇太子又ハ皇太孫之ニ任ス

第二十一條 皇太子皇太孫アラサルカ又ハ未タ成年ニ達セサルトキハ

左ノ順序ニ依リ攝政ニ任ス

第一の親王及王

第二の皇后

第三の皇太后

第四 太皇太后

第五 內親王及女王

第二十二條 皇族男子ノ攝政ニ任スルハ皇位繼承ノ順序ニ從テ其ノ女子ニ於ケルモ亦之ニ準ス

第二十三條 皇族女子ノ攝政ニ任スルハ其ノ配偶アラサル者ニ限ル

第二十四條 最近親ノ皇族未タ成年ニ達セサルカ又ハ其ノ他ノ事故ニ

由リ他ノ皇族攝政ニ任シタルトキハ後來最近親ノ皇族成年ニ達シ又

ハ其ノ事故既ニ除クト雖皇太子及皇太孫ニ對スルノ外其任ヲ讓ルコ

トナシ

第二十五條 攝政又ハ攝政タルヘキ者精神若ハ身體ノ重患アリ又ハ重

大ノ事故アルトキハ皇族會議及樞密顧問ノ議ヲ經テ其順序ヲ換フル

コトヲ得

第六章 太傅

第二十六條 天皇未タ成年ニ達セサルハ太傅ヲ置キ保育ヲ掌ラシム

第二十七條 先帝遺命ヲ以テ太傅ヲ任セサリシトキハ攝政ヨリ皇族會

議及樞密顧問ニ諮詢シ之ヲ選任ス

第二十八條 太傅ハ攝政及其ノ子孫之ニ任スルコトヲ得ス

第二十九條 攝政ハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シタル後ニ非ザレハ太
傅ヲ退職セシムルルコトヲ得ス

第七章 皇族

第三十條 皇族ト稱フルハ太皇太后皇太后皇后皇太子皇太子妃皇太孫
皇太孫妃親王妃内親王王妃女王ヲ謂フ

第三十一條 皇子ヨリ皇立孫ニ至ルマテハ男子親王女子内親王女トシ
五世以下ハ男子王女ヲ女王トス

第三十二條 天皇支系ヨリ入テ大統ヲ承クルトキハ皇兄弟姉妹ノ王女
王タル者ニ特ニ親王内親王ノ號ヲ宣賜ス

第三十三條 皇族ノ誕生命名婚嫁薨去ハ宮内大臣之ヲ公告ス

第三十四條 皇統譜及前條ニ關ル記録ハ圖書寮ニ於テ尙藏ス

第三十五條 皇族ハ天皇之ヲ監督ス

第三十六條 攝政在任ノ時ハ前條ノ事ヲ攝行ス

第三十七條 皇族男女幼年コシテ父ナキ者ハ宮内ノ官寮ニ命シ保育ヲ
掌ラシム事宜ニ依リ天皇ハ其ノ父母ノ選舉セル後見人ヲ認可シ又ハ
之ヲ勅撰スヘシ

第三十八條 皇族ノ後見人ハ成年以上ノ皇族ニ限ル

第三十九條 皇族ノ婚嫁ハ同族又ハ勅旨ニ由リ特ニ認許セラタル華族
ニ限ル

第四十條 皇族ノ婚嫁ハ勅許ニ由ル

第四十一條 皇族ノ婚嫁ヲ許可スルノ勅書ハ宮内大臣之ニ副署ス

第四十二條 皇族ハ養子ヲ爲スコトヲ得ス

第四十三條 皇族國體ノ外ニ旅行セムトスルトキハ勅許ヲ請フヘシ

第四十四條 皇族女子ノ臣籍ニ嫁シタル者ハ皇族ノ列ニ在ラス但シ特
旨ニ依リ仍内親王女王ノ稱ヲ有セシムルコトアルヘシ

第八章 世傳御料
第四十五條 土地物件ノ世傳御料ト定メタルモノハ分割讓與スルコト
ヲ得ス

第四十六條 世傳御料ニ編入スル土地物件ハ樞密顧問ニ諮詢シ勅書ヲ
以テ之ヲ定メ宮内大臣之ヲ公告ス

第九章 皇室經費
第四十七條 皇室諸般ノ經費ハ特ニ常額ヲ定メ國庫ヨリ支出セシム

第四十八條 皇室經費ノ豫算決算検査及其ノ他ノ規則ハ皇室會計法ノ
定ムル所ニ依ル

第十章 皇族訴訟及懲戒

第四十九條 皇族相互ノ民事ノ訴訟ハ勅旨ニ依リ宮内省ニ於テ裁判員ヲ命シ裁判セシメ勅裁ヲ經テ之ヲ執行ス

第五十條 人民ヨリ皇族ニ對スル民事ノ訴訟ハ東京控訴院ニ於テ之ヲ裁判ス但シ皇族ハ代人ヲ以テ訴訟ニ當ラシメ自ラ訟廷ニ出ルヲ要セズ

第五十一條 皇族ハ勅許ヲ得ルニ非サレハ勾引シ又ハ裁判所ニ召喚スルコトヲ得ズ

第五十二條 皇族其品位ヲ辱ムルノ所行アリ又ハ皇室ニ對シ忠順ヲ缺クトキハ勅旨ヲ以テ之ヲ懲戒シ其ノ重者キハ皇族特權ノ一部又ハ全部ヲ停止シ若ハ剝奪スヘシ

第五十三條 皇族遺產ノ所行アルトキハ勅旨ヲ以テ治産ノ禁ヲ宣告シ其ノ管財者ヲ任スヘシ

第五十四條 前二條ハ皇族會議ニ諮詢シタル後之ヲ勅裁ス

第十一章 皇族會議

第五十五條 皇族會議ハ成年以上ノ皇族男子ヲ以テ組織シ内大臣樞密院議長宮内大臣司法大臣大審院長ヲ以テ參列セシム

第五十六條 天皇ハ皇族會議ニ親臨シ又ハ皇族中ノ一員ニ命シ議長ヲラシム

第十二章 補則

第五十七條 現在ノ皇族五世以下親王ノ號ヲ宣賜シタル者ハ舊ニ依ル

第五十八條 皇位繼承ノ順序ハ總テ實系ニ係ル現在皇養子猶子又ハ他ノ繼嗣タルノ故ヲ以テ之ヲ混スルコトナシ

第五十九條 親王内親王女王ノ品位ハ之ヲ廢ス

第六十條 親王ノ家格及其ノ他典範ニ抵觸スル例規ハ總テ之ヲ廢ス

第六十一條 皇族ノ財産歳費及諸規則ハ別ニ之ヲ定ムヘシ

第六十二條 將來此ノ典範ノ條項ヲ改正シ又ハ増補スヘキノ必要アルニ當テハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シテ之ヲ勅定スヘシ

法例

第一條 法律ハ公布アリタル日ヨリ滿二十日ノ後ハ之ヲ遵守ス可キモノトス

但法律ニ特別ノ規定アルモノハ此限ニ在ラズ

第二條 法律ハ既往ニ遡ル効力ヲ有セズ

第三條 人ノ身分及ヒ能力ハ其本國法ニ從フ

親屬ノ關係及ヒ其關係ヨリ生ズル權利義務ニ付テモ亦同シ

第四條 動産不動産ハ其所在地ノ法律ニ從フ

然レトモ相續及ヒ遺贈ニ付テハ被相續人及ヒ遺贈者ノ本國法ニ從フ

第五條 外國ニ於テ爲シタル合意ニ付テハ當事者ノ明示又ハ默示ノ意

思ニ從ヒテ何レノ國ノ法律ヲ適用ス可キヤヲ定ム

當事者ノ意思分明ナラサル場合ニ於テハ同國人ナルトキハ其本國法

ヲ適用シ又同國人ニ非サルトキハ事實上合意ニ最大ノ關係ヲ有スル

地ノ法律ヲ適用ス

第六條 外國人カ日本ニ於テ日本人ト合意ヲ爲ストキハ外國人ノ能力

ニ付テハ其本國法ト日本法トノ中ニテ合意ノ成立ニ最モ有益ナル法

律ヲ適用ス

第七條 不當ノ利得、不正ノ損害及ヒ法律上ノ管理ハ其原因ノ生ヅ

ル地ノ法律ニ從フ

第八條 本國法ヲ適用ス可キ諸般ノ場合ニ於テ何レノ國民分限ヲモ有

セサル者又ハ地方ニ依リ法律ヲ異ニスル國ノ人民ハ其住所ノ法律ニ

從フ若シ住所知レザルトキハ其居所ノ法律ニ從フ

日本人ト外國人トノ分限ヲ有スル者ハ日本法律ニ從ヒ又二箇以上ノ

外國國民分限ヲ有スル者ハ最後ニ之ヲ取得シタル國ノ法律ニ從フ

第九條 公正證書及ヒ私署證書ノ方式ハ之ヲ作ル國ノ法律ニ從フ但一

人又ハ同國人ナル數人ノ作ル私署證書ニ付テハ其本國法ニ從フコト

ヲ得

第十條 要式ノ合意又ハ行爲ト雖モ之ヲ爲ス國ノ方式ニ從フトキハ方

式上有効トス但故意ヲ以テ日本法律ヲ脱シタルトキハ此限ニ在ラス

第十一條 外國ニ於テ其國ノ方式ニ依リテ作リタル證書ハ不動産物權

ヲ移轉スル行爲ニ係ルトキハ其不動産所在地ノ地方裁判所長又他ノ

行爲ニ係ルトキハ當事者ノ住所又ハ居所ノ地方裁判所長其證書ノ適

法ナルコトヲ檢認シタル上ニ非サレハ日本ニ於テ其效用ヲ致サシム

ルコトヲ得ス

第十二條 第三者ノ利益ノ爲メニ設定スル公示ノ方式ハ不動産ニ係ル

トキハ其所在地ノ法律、他ノ場合ニ於テハ其原因ノ生シタル國ノ法

律ニ從フ

第十三條 訴訟手續ハ其訴訟ヲ爲ス國ノ法律ニ從フ

裁判及ヒ合意ノ執行方法ハ其執行ヲ爲ス國ノ法律ニ從フ

第十四條 刑法其他公法ノ事項ニ關シ及ヒ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗

ニ關スルトキハ行爲ノ地當事者ノ國民分限及ヒ財産ノ性質ノ如何ヲ問ハス日本法律ヲ適用ス

第十五條 公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ關スル法律ニ牴觸シ又ハ其適用ヲ免カレントスル合意又ハ行爲ハ不成立トス

第十六條 身分又ハ能力ヲ規定スル法律ヲ免カルル合意又ハ行爲ハ無効トス

第十七條 判事ハ法律ニ不明、不備又ハ欠缺アルヲ口實トシテ裁判ヲ爲スヲ拒絕スルコトヲ得ス

貴族院伯子男爵議員選舉規則

第一條 伯子男爵ヲ有スル成年以上ノ者ハ各其ノ同爵者ノ貴族院議員ヲ選舉ス

第二條 神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師ハ被選人タルコトヲ得ス

第三條 左ノ項ノ一ニ觸ル、者ハ選舉人及被選人タルコトヲ得ス
一 瘋癲白癡ノ者
二 身代限ノ處分ヲ受ク負債ノ義務ヲ免レサル者

第四條 刑事ノ訴ヲ受ケ拘留又ハ保釋中ニ在ル者ハ其ノ裁判確定ニ至

ルマテ選舉權ヲ行フコトヲ得ス及被選人タルコトヲ得ス

第五條 貴族院令第四條ニ依リ選ハルヘキ議員ノ數ハ選舉ヲ行フノ前勅命ヲ以テ之ヲ指定スヘシ

第六條 爵位局長官ハ選舉ノ期日ヨリ五十日前ニ選舉資格ヲ有スル伯子男爵ノ人名簿ヲ各別ニ調製シ選舉資格ヲ有スル同爵者ニ配付シ三十日前ニ之ヲ確定シテ各選舉管理者ニ交付スヘシ

確定期日ノ前ニ於テ新ニ資格ヲ得及回復シタル者アルトキハ之ヲ名簿ニ記入スヘシ

第七條 選舉ハ伯子男爵ノ選舉資格ヲ有スル者ヨリ各一人ノ選舉管理者ヲ互選シテ之ヲ管理セシム

選舉管理者ハ貴族院令第四條ニ依リ議員ノ更任アル毎ニ之ヲ改選スヘシ

選舉管理者ハ選舉及被選ノ權ヲ妨ケタルコトナシ

第八條 各選舉管理者ハ選舉人ノ中ヨリ各其ノ同爵ノ選舉立會人三人以上ヲ指定シテ選舉會場ニ參會セシムヘシ

第九條 選舉ハ七月十日東京ニ於テ之ヲ行フ

第十條 選舉人ハ自ラ選舉會場ニ至リ投票スヘシ

投票ハ被選人ノ爵姓名ヲ列記シ次ニ自己ノ爵姓名ヲ記載スヘシ

第十一條 選舉人東京府ノ外ニ居住シ又ハ疾病事故ニ因リ選舉會場ニ至ルコト能ハサルトキハ同爵中ノ他ノ選舉人ニ投票ヲ委託スルコト

得

前項ノ場合ニ於テハ投票ヲ封緘シ其ノ表面ニ記名捺印シ委託ノ證據ト共ニ委託ヲ受クル者ニ送付スヘシ

第十二條 投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

投票同數ナルトキハ生年月ノ長者ヲ以テ當選人トス同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十三條 前數條ニ掲ケタル者ノ外選舉ニ關ル一切ノ規程ハ選舉資格

ヲ有スル伯子男爵ノ協議ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十四條 當選人確定シタルトキハ選舉管理者ハ其ノ爵姓名ヲ上奏シ

併セテ貴族院議長ニ報告スヘシ

第十五條 選舉管理者ハ選舉明細書ヲ作り選舉ニ關ル一切ノ事項ヲ記

載シ立會人ト共ニ署名捺印シ其ノ副本ヲ貴族院ニ送致スヘシ

第十六條 議員ニ闕員ヲ生シタルトキハ議長ヨリ之ヲ上奏シ勅旨ヲ以

テ補闕選舉ヲ行フヘシコトヲ命ジ及其ノ期日ヲ指定スヘシ

補闕選舉ヲ行フノ手續ハ通常選舉ノ例ニ同シ

第十七條 補闕議員ノ任期ハ前議員ノ任期ニ依ル

第十八條 貴族院令第九條ニ依リ貴族院ニ出訴スルノ期限ハ貴族院開

會ノ後十日以内トス

第十九條 選舉ニ關ル費用ハ同爵者ノ支辨タルヘシ

貴族院多額納稅者議員互選規則

第一條 貴族院令第六條ニ依リ貴族院議員ヲ互選スル者ハ互選名簿調

製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ府縣内ニ於テ本籍ヲ定メ住居シ多額

ノ直接國稅ヲ納メ仍引續キ住居シ及納稅スル者タルヘシ

第二條 家督ニ由リ財産ヲ相續シタル者ハ其財産ニ付前財產主ノ納稅

額ヲ以テ其ノ納稅資格ニ算入ス

第三條 神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師ハ互選人タルコトヲ得ス

第四條 左ノ項ノ一ニ觸ル者ハ互選人タルコトヲ得ス

- 一 瘋癲白癡ノ者
- 二 公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ停止中ノ者
- 三 禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

四 舊法ニ依リ懲役ノ刑ニ處セラシメ満期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

五 賭博犯ニ由リ處刑ヲ受ケ満期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

六 衆議院議員ノ選舉ニ關ル犯罪ニ依リ選舉權及被選舉權ノ停止中ノ者

第五條 陸海軍軍人ハ現役中互選人タルコトヲ得ス其ノ休職停職ニ在ル者亦同シ

第六條 刑事ノ訴ヲ受ケ拘留又ハ保釋中ニ在ル者ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ互選人タルコトヲ得ス

第七條 互選人選舉ニ關リ輕罪以上ノ罪ヲ犯シタルトキハ互選名簿ヨリ除名セララルヘシ

第八條 府縣知事ハ選舉ヲ行フノ年四月一日ヲ期トシ其ノ府縣ニ於テ互選資格ヲ有スル者十五人ノ名簿ヲ調製スヘシ

互選名簿ハ互選人ノ姓名職業身分、住所、生年月、土地或ハ工業商業ニ付納ムル所ノ直接國稅ノ細別及總額並ニ納稅地ヲ記載スヘシ

第九條 納稅同額ノ者アルトキハ生年月ノ長者ヲ先ニシ同年月ノ者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十條 府縣知事ハ四月二十日マテニ互選名簿ヲ各互選人ニ配付シ併セテ之ヲ管内ニ告示スヘシ

第十一條 互選資格ヲ得ヘキ者ニシテ自ラ互選名簿ニ記載セラレサルコトヲ發見シタルトキハ告示ノ後十五日以内ニ其ノ理由書及證憑ヲ具ヘテ府縣知事ニ申立ツルコトヲ得

凡テ互選資格ヲ得ヘカラサル者ノ互選名簿ニ記載セラレタルコトヲ發見シタルトキハ前項ノ手續ニ依リ改正ヲ求ムルコトヲ得

期限ヲ經過シタル後申立ヲ爲スモ其ノ効ナシ

第十二條 府縣知事前條ノ申立ヲ受ケタルトキハ之ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ判定スヘシ判定ノ結果ニ依リ名簿ヲ改正シタルトキハ其ノ由ヲ關係人ニ通知シ併セテ管内ニ告示スヘシ

第十三條 互選名簿ハ六月一日ヲ以テ確定期限トス

第十四條 選舉ハ六月十日府縣廳ニ於テ之ヲ行ヒ府縣知事又ハ其ノ代理者之ヲ管理ス

第十五條 府縣知事ハ投票ノ時刻ヲ定メ遅クトモ選舉ノ期日ヨリ七日前ニ各互選人ニ通知書ヲ發スヘシ

第十六條 互選人ハ自ラ選舉會場ニ至リ投票スヘシ

投票ハ被選人ノ姓名ヲ記載シ次ニ自己ノ姓名ヲ記載スヘシ

第十七條 互選人疾病事故ニ因リ選舉會場ニ至ルコト能ハサルトキハ

醫師ノ診斷書又ハ事由書ヲ具ヘ投票ヲ封緘シ其ノ表面ニ記名捺印シ

テ之ヲ他ノ互選人ニ委託スルコトヲ得

第十八條 投票終ルノ後選舉管理者ハ互選人ノ面前ニ於テ投票ヲ點檢

シ其ノ結果ヲ告知スヘシ但シ當選人其ノ場ニ在ラサルトキハ文書ヲ

以テ速ニ其ノ由ヲ本人ニ通知スヘシ

第十九條 投票効力ノ有無ニ付疑義アルトキハ選舉管理者之ヲ決定ス

第二十條 投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

投票同數ナルトキハ生年月ノ長者ヲ以テ當選人トス同年月ナルトキ

ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二十一條 當選人ニシテ其ノ當選ヲ辭スルトキハ次ノ投票多數ヲ得

タル者ヲ以テ當選人トスヘシ

當選人當選ヲ辭スルコトヲ得ルハ選舉ノ日ヨリ十日以内ニ限ル

第二十二條 當選人確定シタルトキハ府縣知事ハ當選人ノ資格及選舉

ノ顛末ヲ録シテ内閣總理大臣ニ報告スヘシ

第二十三條 選舉管理者ハ選舉明細書ヲ作り選舉ニ關ル一切ノ事項ヲ

記載シ署名捺印シ其ノ副本ヲ貴族院ニ送致スヘシ

第二十四條 議員ニ闕員ヲ生シタルトキハ議長ヨリ之ヲ上奏シ勅旨ヲ

以テ補闕選舉ヲ行フヘキコトヲ其ノ府縣ニ命スヘシ

補闕選舉ヲ行フノ時期及手續ハ通常選舉ノ例ニ同シ

第二十五條 補闕議員ノ任期ハ前議員ノ任期ニ依ル

第二十六條 貴族院令第九條ニ依リ貴族院ニ出訴スルノ期限ハ開會ノ

後十日以内トス

貴族院令並伯子男爵及多額納稅者議員選舉規則施

行ノ詔勅

朕嚮ニ公布セシムル所ノ貴族院令並ニ貴族院伯子男爵議員選舉規則及

貴族院多額納稅者議員互選規則ヲ本年ヨリ施行スルコトヲ命ス但シ未

ダ一般ノ地方制度ヲ準行セサル北海道沖繩縣及小笠原嶋ニ於テハ仍貴

族院多額納稅者議員互選規則施行ノ効力ヲ及ホサス

貴族院令第四條ニ依リ伯子男爵ハ本年ノ選舉期ニ於テ各左ノ員數ヲ選

舉スヘシ

伯爵	十五人
子爵	七十人
男爵	二十人

貴族院議員資格及選舉爭訟判決規則

第一條 貴族院ハ每會期ノ始ニ於テ貴族院議員ノ資格及選舉ニ關ル爭訟ヲ審査スル爲ニ常任委員ヲ選舉スヘシ

第二條 伯子男爵議員ノ各選舉人又ハ多額納稅者議員ノ互選人貴族院令第九條ニ依リ出訴スル者ハ當選議員ヲ被告トスヘシ

第三條 原告人ハ訴狀及其ノ副本一通ヲ作り之ヲ議長ニ差出スヘシ議長訴狀ヲ受取リタルトキハ之ヲ資格審査委員ニ付ス

第四條 訴狀ニハ請求ノ要領理由及立證ヲ具ヘ原告人自ラ署名スヘシ

第五條 資格審査委員ハ訴狀ノ副本ヲ被告人ニ送達シ期日ヲ定メ被告人ヲシテ答辯書及其ノ副本一通ヲ差出サシメ其ノ副本ハ之ヲ原告人ニ送達スヘシ委員ハ必要ト認ムルトキハ原告被告ヲシテ更ニ辯駁書及再答辯書ヲ差出サシムルコトヲ得

第六條 原告被告ハ郵便ヲ以テ文書ヲ差出スコトヲ得郵便到達ノ日數ハ期限ニ算入セス

第七條 資格審査委員ハ議長ヲ經由シテ議員ノ選舉ニ關ル證憑文書ヲ政府ニ要求スルコトヲ得

第八條 審査ノ結果ニ因リ刑法ニ觸ルモノノ事件ヲ發見シタルトキハ議長ヨリ之ヲ司法大臣ニ通告スヘシ但シ之カ爲ニ審査及判決ヲ中止セス

第九條 被告人期日內ニ答辯書ヲ差出サハルトキハ資格審査委員ハ直チニ審査ノ結果ヲ報告スルコトヲ得

天災事變ニ因リ期日內ニ答辯書ヲ差出スコト能ハザリシコトヲ證明スル者アルトキハ議長更ニ期日ヲ定メ之ヲ差出サシムルコトヲ得

第十條 資格審査委員其ノ審査報告ヲ議長ニ提出シタルトキハ議長之ヲ各議員ニ配付シタル後院議ニ付スヘシ

第十一條 議院ニ於テ判決シタルトキハ議長ハ書記官長ヲシテ其ノ議事録ニ依リ議決ノ謄本ヲ作ラシメ之ヲ原告被告ニ送達スヘシ議院ノ判決ハ理由ヲ付セス

第十二條 貴族院ニ於テ議員ノ當選又ハ資格ヲ不法ト判決シタルトキハ議長ハ其ノ位列ヲ停止シテ上奏スヘシ

第十三條 被告議員ハ前條ノ判決ヲ受クルマテ議院ニ於テ位列及發言

ノ權ヲ失ハズ但シ自己ニ關ル爭議ニ付テハ自己又ハ他ノ議員ニ託シ
辯明スルコトヲ得ルモ其ノ表決ニ預カルコトヲ得ズ

被告議員ハ自己ニ關ル爭議ニ付テハ委員會ニ參スルコトヲ得ズ

第十四條 補闕議員ノ選舉開院中ニ在ルトキハ伯子男爵ニ在テハ當選
確定ノ後多額納稅者ニ在テハ勅任セラレタル後十日ヲ以テ出訴ノ期
限トス

前項ノ期限ニ滿スシテ議院開會セラレ出訴スルコト能ハサルトキハ
仍次會期ノ開會後十日以内ニ出訴スルコトヲ得

第十五條 議員他ノ議員ノ資格ニ對シ異議ヲ申立ツル者アルトキハ第
三條第四條第五條第七條第九條第十條第十一條第十二條第十三條ノ
例ニ依リ審査及判決スヘシ但シ此ノ場合ニ於テハ貴族院伯子男爵議
員選舉規則第十八條及貴族院多額納稅者議員互選規則第二十六條ニ
掲ケタル期限ノ限ニ在ラス

貴族院多額納稅者議員互選規則取扱方

第一條 貴族院令第六條ニ滿三十歳トアルハ其選舉期日(六月十日)前
滿三十歳ニ達スル者ヲ指ス

第二條 互選規則第一條ニ其府縣内ニ於テ本籍ヲ定メ住居トアルハ衆

議院議員選舉法施行規則第二條ノ例ニ異ナラス

第三條 互選規則第一條ニ多額ノ直接國稅トアルハ地租及土地又ハ工
業商業ノ利益ヨリ生スル所得納稅額而已ヲ合算シテ名簿調製ノ期日
(四月一日)前滿一年以上多額ノ直接國稅ヲ納メ仍引續キ納ムルモノ
ヲ云

第四條 賣買讓與ニ依リ土地所有權移轉ノ場合ニ於テ其所有ノ年限及
質入地ノ地租及數人共有ノ土地ヨリ納ムル地租ノ計算方及互選規則

第三條ニ神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師トアルハ凡テ衆議院議員選舉法
施行規則第三條第二項及同則第四條第五條第九條ノ例ニ異ナラス

第五條 貴族院令第六條ニ多額ノ直接國稅ヲ納ムル者トアル中ハ華族
(公侯爵ヲ除)ノ當主ヲモ包含ス

第六條 貴族院令第六條ニ云フ其選ニ當リ勅任セラレタル者ハ其任期
中納稅額ノ減スルコトアルモ同令第十條ノ場合ニアラザレハ勿論ナ
リトス

第七條 互選ニ關スル費用ハ府縣廳費ノ支辨ニ屬ス

貴族院事務局官制

第一條 貴族院事務局ノ職員ハ左ノ如シ

書記官長

書記官

十八

試補

二十八

屬

二十八

第二條 書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ局中一切ノ事務ヲ監督ス

局中ノ分課及職員ノ配置ハ書記官長之ヲ定ム

第三條 書記官ハ書記官長ノ指揮監督ヲ承テ議事記録筆記印刷庶務會

計等ニ關スル事務ヲ分掌ス

第四條 書記官長故障アルトキハ上席書記官其ノ職務ヲ代理ス

第五條 屬ハ判任トス書記官長ノ定ムル所ニ依リ各其ノ事務ニ從フ

衆議院事務局官制

第一條 衆議院事務局ノ職員ハ左ノ如シ

書記官長

書記官

十八

試補

二十八

屬

二十八

第二條 書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ局中一切ノ事務ヲ監督ス

局中ノ分課及職員ノ配置ハ書記官長ヲ定ム

第三條 書記官ハ書記官長ノ指揮監督ヲ承テ議事記録筆記印刷庶務會

計等ニ關スル事務ヲ分掌ス

第四條 書記官長故障アルトキハ上席書記官其ノ職務ヲ代理ス

第五條 屬ハ判任トス書記官長ノ定ムル所ニ依リ各其ノ事務ニ從フ

議會並議員保護

第一條 法律ヲ以テ組織シタル議會ニ對シ公然誹毀侮辱シタル者ハ二

月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス但

議會ノ告訴ヲ持テ其罪ヲ論ス

第二條 前條議會ノ議員ニ對シ其公務上ノ言論行為ニ付公然誹毀侮辱

シタル者又ハ議員ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮

ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三條 議員其公務ヲ行フニ當リ暴行脅迫ヲ以テ其言論行為ヲ妨害シ

タル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰

金ヲ附加ス

第四條 議員ノ職ヲ辭セシムル目的又ハ其公務上ノ言論行為ヲ妨害

セントスル目的ヲ以テ議員ヲ脅迫シ又ハ恐喝シタル者ハ十一日以上

二月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第五條 第二條第三條ノ罪ヲ犯シ因テ議員ヲ毆傷シタル者ハ刑法毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

貴族院衆議院成立規則

第一條 議員ハ召集ノ勅諭ニ指定シタル期日ノ午前九時貴族院ニ集會スヘシ

第二條 集會シタル議員ハ名刺ヲ事務局ニ通スヘシ

第三條 集會シタル議員總議員三分ノ一以上ニ充チタルトハ議長ハ議長ニ著クヘシ

第四條 議員ノ席次ハ皇族ヲ首席トシ其ノ席次ハ宮中ノ列次ニ依ル爵位ヲ有スル議員ヲ次席トシ其ノ席次ハ爵位次第二依ル其ノ他ノ議員ノ席次ハ年齢ニ依リ同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 議長ハ書記官ヲシテ抽籤セシメ總議員ヲ九部ニ配分シ各部ニ號數ヲ附ス

均分スルコト能ハサルトキハ第一部ヨリ以下毎部一員ヲ加フヘシ議長副議長ハ部員ノ中ニ入ラス

第六條 部屬ハ毎會期ニ之ヲ定ム

臨時會ニ於テハ前會ノ部屬ヲ繼續スヘシ

第七條 各部ハ年長部員ヲ管理者トシ無名投票ヲ以テ部員中ヨリ部長一名ヲ互選シ其ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス

最多數ヲ得タル者同數者二人以上アルトキハ年長ヲ取リ同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第八條 部長ハ部ノ事務ヲ整理ス

第九條 各部ハ部員中ヨリ理事一名ヲ互選ス

理事ノ互選ハ部長互選ノ例ニ同シ

第十條 理事ハ部長ヲ輔ケ部長故障アルトキハ之ヲ代理スヘシ

第十一條 部屬定マリタルトキハ議長ハ議院成立ノ由テ政府及衆議院ニ通報スヘシ

衆議院成立規則

第一條 議員ハ召集ノ勅諭ニ指定シタル期日ノ午前九時衆議院ニ集會スヘシ

第二條 集會シタル議員ハ當選證書ト俱ニ名刺ヲ事務局ニ通スヘシ書記官ハ當選人名簿ニ各員ノ當選證書ヲ對照スヘシ

第三條 午前十時ニ至リ集會者總議員三分ノ一ニ充テタルトキハ書記官長ハ議員ヲシテ議長候補者ノ選舉ヲ行ハシムヘシ

第四條 議長候補者ノ選舉無名投票ヲ以テシ候補者三名ヲ連記スヘシ

第五條 議員ハ黙呼ニ應シ議長席ノ前ニ設ケタル投票函ニ投票ヲ投入シ其ノ名刺ヲ名刺函ニ投入スヘシ

現在議員投票ヲ終リタルトキハ書記官長ハ投票函ノ閉鎖ヲ宣告スヘシ閉鎖宣告ノ後ハ投票スルコトヲ許サズ

第六條 投票終リタルトキハ書記官長、書記官ト俱ニ議員ノ面前ニ於テ投票ノ數ヲ計算シ投票ノ數名刺ノ數ニ超過シタルトキハ更ニ投票ヲ行ハシムヘシ

第七條 投票ノ點檢終リタルトキハ書記官長各候補者ノ得點ヲ議員ニ報告シ投票ノ過半數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

第八條 投票ノ過半數ヲ得タル者ナキトキ又ハ過半數ヲ得タル者三人ニ滿テサルトキハ最多數ノ投票ヲ得タル者ニ就キ選舉スヘキ定員ノ倍數ヲ取リ決選投票ヲ行ヒ過半數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス同數者二人以上アルトキハ年長ヲ取リ同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 當選人ニシテ當選ヲ辭スル者アルハ更ニ其選舉ヲ行フヘシ

第十條 議長候補者ノ選舉終リタルトキハ副議長候補者ノ選舉ヲ行フヘシ副議長候補者ノ選舉ハ議長候補者選舉ノ例ニ同シ

第十一條 議長候補者ハ副議長候補者ニ選舉セラルコトヲ得

第十二條 選舉ニ付キ疑義ヲ生スルトキハ書記官長ハ集會シタル議員ニ諮ヒ之ヲ決スヘシ

第十三條 議長副議長ノ候補者定マロタルトキハ書記官長ハ内閣總理大臣ヲ經由シテ之ヲ奏上スヘシ

第十四條 議長副議長任命ノ翌日午前九時議員ハ議場ニ集會スヘシ書記官長ハ議長及副議長ヲ議院ニ紹介シ議長ヲ導キテ議長席ニ著カシムヘシ

第十五條 議長ハ議長席ニ著キタルノ後書記官長ヲシテ抽籤セシメ總議員ノ議席及部屬ヲ定ム

第十六條 議員ノ議席ハ每會期ニ之ヲ定メ各席ニ號數ヲ付ス

第十七條 議員ノ部屬ハ每會期ニ之ヲ定メ各部ニ號數ヲ付ス
總議員ヲ九部ニ配分シ均分スルコト能ハサルトキハ第一部ヨリ以下每部一員ヲ加フヘシ

議長副議長ハ部員ノ中ニ入ラス

第十八條 臨時會ニ於テハ前會ノ議席及部屬ヲ繼續スヘシ

第十九條 各部ハ年長部員ヲ以テ管理者トシ無名投票ヲ以テ部員中ヨリ部長一名ヲ互選シ其ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

最多數ヲ得タル者同數者二人以上アルトキハ年長ヲ取リ同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二十條 部長ハ部ノ事務ヲ整理ス

第二十一條 各部ハ部員中ヨリ理事一名ヲ互選ス

理事ノ互選ハ部長互選ノ例ニ同シ

第二十二條 理事ハ部長ヲ輔テ部長故障アルトキハ之ヲ代理スヘシ

第二十三條 議席及部屬定マリタルトキハ議長ハ議院成立ノ由テ政府及貴族院ニ通報スヘシ

第二十四條 議員一任期ノ第二會期以下ニ於テハ召集ノ期日午前十時ニ至リ議員總數三分ノ一ニ充テタルトキハ議席及部屬ヲ定メタル後議院成立ノ由テ政府及貴族院ニ通報スヘシ

帝國議會議長副議長議員歲費及旅費支給規則

第一條 帝國議會議長副議長及議員ノ歲費ハ每年七月ヨリ翌年六月ニ

至ル十二箇月ヲ以テ一歲トシ計算ス

第二條 議長副議長及議員ノ歲費ハ其ノ前六箇月分ヲ帝國議會通常會開會ノ後三十日以内ニ其ノ後六箇月分ヲ開會ノ後七日以内ニ支給ス

第三條 議長副議長ノ歲費ハ其ノ勅任セラレタル當月分ヨリ支給ス

議長副議長ニ勅任セラレタル議員ノ歲費ハ其ノ勅任セラレタル前月分ヲ支給ス

第四條 貴族院勅任議員ノ歲費ハ其ノ勅任セラレタル當月分ヨリ支給ス但シ多額納稅者ノ互選セラレタル者ハ其ノ互選セラレタル當月分ヨリ支給ス

第五條 議長副議長及議員退職辭職除名ノ場合ニ於テハ其ノ當月分マテヲ支給ス

第六條 衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ其ノ議長副議長及議員ノ歲費ハ解散ヲ命セラレタル當月分マテヲ支給ス

第七條 衆議院解散ヲ命セラレタル後選舉セラレタル議員及補缺議員ノ歲費ハ其ノ選舉セラレタル當月分ヨリ支給ス

第八條 衆議院ノ議員貴族院ノ議員トナリタルトキ其ノ他如何ナル場合ヲ問ハズ歲費ハ同一人ニ對シ重複支給セス

第九條 官吏ニシテ議員タル者官吏ヲ罷メタルトキハ其ノ當月分ヨリ議員ニシテ官吏ニ任セラレタル者仍議員タルトキハ其ノ當月分マテヲ支給ス

第十條 議長副議長及議員ノ旅費ハ別表定ムル所ニ從ヒ之ヲ支給ス官吏ニシテ議員タル者亦同シ
上京旅費ハ歳費ノ前半額ト歸郷旅費ハ旅費ノ後半額ト同時ニ之ヲ支給ス

第十一條 旅費ハ當選區ノ何地ニ在ルヲ問ハス其ノ住居地ヨリ直路ノ里程ヲ計算シテ之ヲ支給ス

第十二條 議院ヲ距ル里以内ノ地ニ住居スル者ハ何地ノ議員タルヲ問ハス旅費ヲ支給セス

第十三條 瀛車旅行ハ一日二百哩詰瀛船旅行ハ一日百海里詰陸路旅行ハ一日十二里詰ノ割合ヲ以テ直路ノ行程ニ應シ支給ス但シ一日ノ行程ニ滿タサル端數ハ切捨トス

第十四條 召集ニ應セサル議員ニ事故ノ如何ヲ問ハス旅費ヲ支給セス

旅費表

瀛車	一哩ニ付	瀛船	一海里ニ付	車馬	一里ニ付	日當
拾錢		拾錢		參十錢		二圓五十錢

民法財産編目錄

總則 財産及物ノ區別

第一部 物權

第一章 所有權

(自一六至二〇)

第二章 用益權、使用權及ヒ住居權 (自二〇至四〇)

第一節 用益權

第一款 用益權ノ設定

第二款 用益者ノ權利

第三款 用益者ノ義務

第四款 用益權ノ消滅

第二節 使用權及ヒ住居權

第三章 賃借權、永借權及ヒ地上權 (自四一至五九)

第一節 賃借權

第一款 賃借權ノ設定

第二款 賃借人ノ權利

第三款 賃借人ノ義務

第四款 賃借權ノ消滅

第二節 永借權及ヒ地上權

第一款 永借權

第二款 地上權

第四章 占有

(自五九至六九)

第一節 占有ノ種類及ヒ占有スルコトヲ得ヘキ物

第二節 占有ノ取得

第三節 占有ノ効力

第四節 占有ノ喪失

第五章 地役

(自六九至九三)

總則

第一節 法律ヲ以テ設定シタル地役

第一款 隣地ノ立入又ハ通行ノ權利

第二款 水ノ疏通、使用及ヒ引入

第三款 經界

第四款 圍障

第五款 互有

第六款 他人ノ所有地ニ對スル觀望及ヒ明取窓

第七款 或ル工作物ニ要スル距離

前諸款ニ共通ナル規則

第二節 人爲ヲ以テ設定シタル地役

第一款 地役ノ性質及ヒ種類

第二款 地役ノ設定

第三款 地役ノ効力

第四款 地役ノ消滅

第二部 人權及ヒ義務

總則

第一章 義務ノ原因

(自九四至一二五)

總則

第一節 合意

第一款 合意ノ種類

第二款 合意ノ成立及ヒ有効ノ條件

第三款 合意ノ効力

第一則 當事者間及ヒ其承繼人間ノ合意ノ効力

第二則 第三者ニ對スル合意ノ効力

第四款 合意ノ解釋

第二節 不當ノ利得

第三節 不正ノ損害即チ犯罪及ヒ准犯罪

第四節 法律ノ規定

第二章 義務ノ効力

(自一二五至一四九)

總則

第一節 直接履行ノ訴權

第二節 損害賠償ノ訴權

第三節 擔保

第四節 義務ノ諸種ノ體樣

第一款 成立ノ單純、有期又ハ條件附ナル義務

第二款 目的ノ單一、選擇又ハ任意ノ義務

第三款 債權者ノ單數又ハ複數ナル義務

第四款 性質又ハ履行ノ可分又ハ不可分ナル義務

第三章 義務ノ消滅

(自一四九至一八六)

第一節 辨濟

第一款 單純ノ辨濟

第二款 辨濟ノ充當

第三款 辨濟ノ提供及ヒ供託

第二款 賃借人ノ權利

第三款 賃借人ノ義務

第四款 賃借權ノ消滅

第二節 永借權及ヒ地上權

第一款 永借權

第二款 地上權

第四章 占有

(自五九至六九)

第一節 占有ノ種類及ヒ占有スルコトヲ得ヘキ物

第二節 占有ノ取得

第三節 占有ノ効力

第四節 占有ノ喪失

第五章 地役

(自六九至九三)

總則

第一節 法律ヲ以テ設定シタル地役

第一款 隣地ノ立入又ハ通行ノ權利

第二款 水ノ疏通、使用及ヒ引入

第三款 經界

第四款 圍障

第五款 互有

第六款 他人ノ所有地ニ對スル觀望及ヒ明取窓

第七款 或ル工作物ニ要スル距離

前諸款ニ共通ナル規則

第二節 人爲ヲ以テ設定シタル地役

第一款 地役ノ性質及ヒ種類

第二款 地役ノ設定

第三款 地役ノ効力

第四款 地役ノ消滅

第二部 人權及ヒ義務



總則
第一章 義務ノ原因

(自九四至一二五)

總則

第一節 合意

第一款 合意ノ種類

第二款 合意ノ成立及ヒ有効ノ條件

第三款 合意ノ効力

第一則 當事者間及ヒ其承繼人間ノ合意ノ効力

第二則 第三者ニ對スル合意ノ効力

第四款 合意ノ解釋

第二節 不當ノ利得

第三款 不正ノ損害即チ犯罪及ヒ准犯罪

第四節 法律ノ規定

第二章 義務ノ効力

(自一二五至一四九)

總則

第一節 直接履行ノ訴權

第二節 損害賠償ノ訴權

第三節 擔保

第四節 義務ノ諸種ノ體裁

第一款 成立ノ單純、有期又ハ條件附ナル義務

第二款 目的ノ單一、選擇又ハ任意ノ義務

第三款 債權者ノ單數又ハ複數ナル義務

第四款 性質又ハ履行ノ可分又ハ不可分ナル義務

第三章 義務ノ消滅 (自一四九至一八六)

第一節 辨濟

第一款 單純ノ辨濟

第二款 辨濟ノ充當

第三款 辨濟ノ提供及ヒ供託

第四款 代位ノ辨認

第二節 更改

第三節 合意上ノ免除

第四節 相殺

第五節 混同

第六節 履行ノ不能

第七節 銷除

第八節 廢罷

第九節 解除

第四章 自然義務

(自八六至八八)

民法

財產編

總則 財產及ヒ物ノ區別

第一條 財產ハ各人又ハ公私ノ法人ノ資産ヲ組成スル權利ナリ

此權利ニ二種アリ物權及ヒ人權是ナリ

第二條 物權ハ直チニ物ノ上ニ行ハレ且總テノ人ニ對抗スルコトヲ得

ハキモノニシテ主タル有リ從タル有リ
主タル物權ハ之ヲ左ニ掲ク

第一 完全又ハ虧缺ノ所有權

第二 用益權、使用權及ヒ住居權

第三 賃借權、永借權及ヒ地上權

第四 占有權

從タル物權ハ之ヲ左ニ掲ク

第一 地役權

第二 留置權

第三 動產質權

第四 不動產質權

第五 先取特權

第六 抵當權

右地役權ハ所有權ノ從タル物權ニシテ留置權以下ハ人權ノ擔保ヲ爲
ス從タル物權ナリ

第三條 人權即チ債權ハ定マリタル人ニ對シ法律ノ認ムル原因ニ由リ
テ其負擔スル作爲又ハ不作爲ノ義務ヲ盡サシムル爲メ行ハル、モノ

ニシテ亦主タル有リ從タル有リ

從タル人權ハ債權ノ擔保ヲ爲ス保證及ヒ連帶ノ如シ

第四條 著述者ノ著書ノ發行、技術者ノ技術物ノ製出又ハ發明者ノ發明ノ施用ニ付テノ權利ハ特別法ヲ以テ之ヲ規定ス

第五條 權利ハ物權ト人權トヲ間ハス目的物ノ種々ノ區別ニ從ヒテ其様ヲ變ス此區別ハ物ノ性質、人ノ意思又ハ法律ノ規定ヨリ生ス即チ下ニ掲クル如シ

第六條 物ニ有體ナル有リ無體ナル有リ有體物トハ人ノ感官ニ觸ルモノヲ謂フ即チ地所、建物、動物、器具ノ如シ
無體物トハ智能ノミヲ以テ理會スルモノヲ謂フ即チ左ノ如シ

第一 物權及ヒ人權

第二 著述者、技術者、及發明者ノ權利

第三 解散シタル會社又ハ清算中ナル共通ニ屬スル財産及ヒ債務ノ包括

第七條 物ハ其性質ニ因リ又ハ所有者ノ用方ニ因リ遷移スルコトヲ得ルト否トニ從ヒテ動産タリ不動産タリ此他法律ノ規定ニ因リテ動産タリ不動産タル物アリ

第八條 性質ニ因ル不動産ハ左ノ如シ

第一 耕地、宅地其他土地ノ部分

第二 池沼、溜井、溝渠、堀割、泉源

第三 土手、棧橋其他此類ノ工作物

第四 土地ニ定著シタル浴場、水車、風車又ハ水力、蒸氣ノ機械

第五 樹林、竹木其他ノ植物但第十二條ニ記載シタルモノハ此限ニ在ラス

第六 果實及ヒ收穫物ノ未タ土地ヨリ離レサルモノ但第十二條ニ記載シタルモノハ此限ニ在ラス

第七 鑛物、坑石、泥炭及ヒ肥料土ノ未タ土地ヨリ離レサルモノ

第八 建物及ヒ其外部ノ戸扉但第十二條ニ記載シタルモノハ此限ニ在ラス

第九 墻、籬、柵

第十 水ノ出入又ハ瓦斯、温氣ノ引入ノ爲メ土地又ハ建物ニ附著シタル筒管

第十一 土地又ハ建物ニ附著シタル電氣機器

此他總テ性質ニ因リテ移動ス可キモノト雖モ建物ニ必要ナル附屬物

第九條 動産ノ所有者カ其土地又ハ建物ノ利用、便益若クハ粧飾ノ爲メニ永遠又ハ不定ノ時間其土地又ハ建物ニ備附ケタル動産ハ性質ノ何タルヲ問ハス用方ニ因ル不動産タリ即チ左ノ如シ但反對ノ證據アルトキハ此限ニ在ラス

第一 土地ノ耕作、利用又ハ肥料ノ爲メニ備ヘタル獸畜

第二 耕作用ニ備ヘタル器具、種子、藁草及ヒ肥料

第三 養蠶場ニ備ヘタル蠶種

第四 樹木ノ支持ニ備ヘタル棚架及ヒ杭柱

第五 土地ニ生スル物品ノ化製ニ備ヘタル器具

第六 工業場ニ備ヘタル機械及ヒ器具

第七 不動産ノ常用ニ備ヘタル小舟但其水流カ公有ニ係リ又ハ他人ニ屬スルトキモ亦同シ

第八 園庭ニ裝置シタル石燈籠、水鉢及ヒ岩石

第九 建物ニ備ヘタル畳、建具其他ノ補足物及ヒ毀損スルニ非サレハ取離スコトヲ得サル匾額、玻璃鏡、彫刻物其他各種ノ粧飾物

第十 修繕中ノ建物ヨリ取離シテ再ヒ之ニ用コ可キ材料

第十條 法律ノ規定ニ因ル不動産ハ左ノ如シ

第一 上ニ登記シタル不動産ノ上ニ存スル物權

第二 不動産ノ上ニ存スル物權ヲ取得セントシ又ハ取回セントスル人權

第三 建築師ノ材料ヲ以テ建物ヲ築造セシムル債權

第四 動産債權ニシテ法律カ不動産ト爲シ又ハ各人カ法律ノ規定ニ依リテ不動産ト爲シタルモノ

第十一條 自力又ハ他力ニ因リテ遷移スルコトヲ得ル物ハ性質ニ因ル

動産タリ但第八條及ヒ第九條ニ記載シタルモノハ此限ニ在ラス

第十二條 假ニ土地ニ定著セシメタル物ハ用方ニ因ル動産タリ即チ左ノ如シ

第一 建築ノ足場及ヒ支柱

第二 建築ヲ爲スノ間其用ニ備ヘタル小屋

第三 植木師及ヒ園丁カ賣ル爲メニ培養シ又ハ保存シタル草木

第四 取毀ツ爲メニ讓渡シタル建物其他ノ工作物又ハ收去スル爲メニ讓渡シタル樹木及ヒ收穫物

第十三條 法律ノ規定ニ因ル動産ハ左ノ如シ

第一 上ニ指定シタル動産ノ上ニ存スル物權

第二 有體動產ヲ取得シ又ハ取回セントスル債權但不動産ヲ以テ其擔保ニ充ツルトキモ亦同シ

第三 所爲ヲ成就セシメ又ハ權利ノ行使ヲ止メシムル債權縱令其權利カ不動産タルトキモ亦同シ

第四 法人タル會社存立ノ間社員カ其會社ニ對シテ有スル權利縱令不動産カ會社ニ屬スルトキモ亦同シ

第五 著述者技術者及ヒ發明者ノ權利

第十四條 解散シタル會社又ハ清算中ナル共通ニ屬スル財産ノ一分ニ付テ有スル權利ノ動產タリ不動産タル性質ハ分割ニ於テ各利害關係人ノ受クル財産ノ性質ニ因リテ定マル

當事者ノ一方ノ選擇ニ任スル動產又ハ不動産ヲ目的トスル擇一又ハ任意債權ノ性質モ亦其辨濟ニ付選擇シタル物ノ性質ニ因リテ定マル

第十五條 物ハ他ニ附屬セスシテ完全ナル効用ヲ爲スト否トニ從ヒテ主タル有リ從タル有リ

用方ニ因ル不動産ハ性質ニ因ル不動産ノ從ナリ地役ハ要役地ノ從ナリ債權ノ擔保ハ債權ノ從ナリ

第十六條 物ハ左ノ如ク之ヲ視ルコトヲ得

第一 特定物即チ某家、某田、某獸ノ如キ殊別ナル物

第二 定量物即チ金幾圓、米幾石、布幾反ノ如キ數量尺度ヲ以テ算フル物

第三 聚合物即チ群畜、書庫ノ書籍、店舖ノ商品ノ如キ増減シ得ヘキ多少類似ナル物

第四 包括財産即チ相續ノ總動產若クハ總不動産又ハ相續ノ全部若クハ一分ノ如キ資産ノ全部又ハ一分ヲ組成スル物

第十七條 物ハ其性質ニ因リ一回ノ使用ニテ消費スルト否トニ從ヒテ消費物タリ不消費物タリ

第十八條 物ハ當事者ノ意思又ハ法律ノ規定ニ因リ同種ノ物ヲ以テ代フルコトヲ得ルト否トニ從ヒテ代替物タリ不代替物タリ

定量物及ヒ一回ノ使用ニテ消費スル物ハ概シテ之ヲ當事者ノ意思ニ因ル代替物ト看做ス

第十九條 物ハ其性質、當事者ノ意思又ハ法律ノ規定ニ因リ形體上又ハ智能上分割スルコトヲ得ルト否トニ從ヒテ可分物タリ不可分物タリ

或ル地役及或ル作爲又ハ不作爲ノ義務ハ性質ニ因ル不可分物ナリ

物ノ一分ノ供與ヲ以テ合意ノ目的タル便益ヲ與フルコト能ハサルト
キハ其物ハ當事者ノ意思ニ因ル不可分物ナリ

抵當及ヒ債權ノ物上擔保ハ法律ノ規定ニ因ル不可分物ナリ

第二十條 物ハ所有ニ屬スルモノ有リ所有ニ屬セサルモノ有リ

所有ニ屬スル物トハ公私ノ資産ノ部分ヲ爲スモノヲ謂フ

所有ニ屬セサル物トハ無主又ハ公共ノモノヲ謂フ

第二十一條 公ノ法人ニ屬スル物ニ公有及ヒ私有ノ二種アリ

第二十二條 公ノ法人ニ屬シ國用ニ供シタル物ハ公有ノ部分ヲ爲ス即
チ左ノ如シ

第一 國領ノ海及ヒ海濱但海濱ハ春分、秋分最高潮ノ到ル處ヲ以
テ限ト爲ス

第二 道路、舟若クハ筏ノ通ス可キ川又ハ堀割及ヒ其床地

第三 城砦、壘壁其他陸海防禦ノ工作物

第四 軍用ノ工廠、船艦、兵器、機械其他ノ物品

第五 官廳ノ建物

第二十三條 公ノ法人カ各人ト同一ノ名義ニテ所有スル物ニシテ金錢
ニ見積ルコトヲ得ル收入ヲ生ス可キモノハ其私有ノ部分ヲ爲ス即チ

國、府縣、市町村有ノ海瀉、樹林、牧場ノ如シ

所有者ナキ不動産及ヒ相續人ナクシテ死亡シタル者ノ遺産ハ當然國
ニ屬ス

第二十四條 無主物トハ何人ニモ屬セスト雖モ所有權ノ目的ト爲ルコ
トヲ得ルモノヲ謂フ即チ遺棄ノ物品、山野ノ鳥獸、河海ノ魚介ノ如シ

第二十五條 公共物トハ何人ノ所有ニモ屬スルコトヲ得スシテ總テノ
人ノ使用スルコトヲ得ルモノヲ謂フ即チ空氣、光線、流水、大洋ノ如シ

第二十六條 物ハ私ノ所有權又ハ債權ノ目的ト爲ルコトヲ得ルト否ト
ニ從ヒテ融通物タリ不融通物タリ

公ノ秩序ノ爲メ法律ニ於テ處分ヲ禁シタル物及ヒ公有ノ財産ハ不融
通物ナリ

第二十七條 物ハ讓渡スコトヲ得ルモノ有リ讓渡スコトヲ得サルモノ
有リ

所有權ヨリ支分シタル使用權又ハ住居權、要役地ヨリ分離セルモノ
ト做シタル地役及ヒ政府ノ與ヘタル開坑ノ特許其他ノ特權ハ概シテ

融通物ナリト雖モ讓渡スコトヲ得サルモノナリ

第二十八條 物ハ法律ニ定メタル條件ヲ具備スル占有ニ附著セル取得

ノ推定ヲ受クルト否トニ從ヒテ時効ニ罹ルコトヲ得ルモノ有リ時
ニ罹ルコトヲ得サルモノ有リ

第二十九條 物ハ其所有者ノ債權者カ強制賣却ヲ請求スルコトヲ得ル
ト否トニ從ヒテ差押フルコトヲ得ルモノ有リ差押フルコトヲ得サル
モノ有リ

不融通物、讓渡スコトヲ得サル物其他法律ノ規定又ハ人ノ處分ニテ
差押ヲ禁シタル物ハ差押フルコトヲ得サルモノナリ即チ無償ニテ設
定シタル終身年金權ノ如シ

第一部 物權

第一章 所有權

第三十條 所有權トハ自由ニ物ノ使用收益及處分ヲ爲ス權利ヲ謂フ
此權利ハ法律又ハ合意又ハ遺言ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ制限スル
コトヲ得ス

第三十一條 不動産ノ所有者ハ適法ニ認メ及ヒ宣言シタル公益ニ因由
シ且公用徵收法ニ從ヒテ定メタル償金ノ拂渡ヲ豫メ受クルニ非サ
ハ其所有權ノ讓渡ヲ強要セラル、コト無シ
動産ノ公用徵收ハ毎回定ムル特別法ニ依ルニ非サレハ之ヲ行フコト

ヲ得ス

國又ハ官廳ニ屬スル先買權及ヒ徵發令ヲ以テ定メタル物ノ徵發又ハ
凶災ノ時ニ行フ物ノ徵求ニ付テハ本條ノ例ヲ用ヒス

第三十二條 所有者ハ償金ヲ得ルニ於テハ公益工事ノ便利ノ爲メ所有
物ノ一時ノ占據ヲ強要セラル、コト有リ

第三十三條 物料ノ採掘、道路ノ劃線、樹木ノ採伐、水其他ノ物ノ收取
ニ付キ一般又ハ一地方ノ公益ノ爲メ設ケタル地役ハ行政法ヲ以テ之
ヲ規定ス

第三十四條 土地ノ所有者ハ其地上ニ一切ノ築造、栽植ヲ爲シ又ハ之
ヲ廢スルコトヲ得

又其地下ニ一切ノ開鑿及ヒ採掘ヲ爲スコトヲ得
右孰レノ場合ニ於テモ公益ノ爲メ行政法ヲ以テ定メタル規則及ヒ制
限ニ從フコトヲ要ス

此他相隣地ノ利益ノ爲メ所有權ノ行使ニ付シタル制限及ヒ條件ハ地
役ノ章ニ於テ之ヲ規定ス

第三十五條 礦物ノ所有權及ヒ其試掘若クハ開坑ハ特別法ヲ以テ之ヲ
規定ス

第三十六條 所有者其物ノ占有ヲ妨ケラレ又ハ奪ハレタルトキハ所有者ニ對シ本權訴訟權ヲ行フコトヲ得但動産及ヒ不動産ノ時効ニ關シ證據ニ記載シタルモノハ此限ニ在ラス

又所有者ハ第一百十九條乃至第二百十二條ニ定メタル規則ニ從ヒ占有ニ關スル訴訟權ヲ行フコトヲ得

第三十七條 數人一物ヲ共有スルトキハ持分ノ均不均ニ拘ハラズ各共有者其物ノ全部ヲ使用スルコトヲ得但其用方ニ從ヒ且他ノ共有者ノ使用ヲ妨ケサルコトヲ要ス

各共有者ノ持分ハ之ヲ相均シキモノト推定ス但反對ノ證據アルトキハ此限ニ在ラス
天然又ハ法定ノ果實及ヒ產出物ハ各共有者ノ權利ノ限度ニ應シ定期ニ於テ之ヲ分割ス

各共有者ハ其物ノ保存ニ必要ナル管理其他ノ行爲ヲ爲スコトヲ得各共有者ハ其持分ニ應シテ諸般ノ負擔ニ供ス

右規定ハ使用收益又ハ管理ヲ格別ニ定ムル合意ヲ妨ケス

第三十八條 處分權ニ付テハ各共有者ハ他ノ共有者ノ承諾アルニ非サレハ其物ノ形樣ヲ變スルコトヲ得ス又自己ノ持分外ニ物權ヲ付スル

コトヲ得ス

共有者ノ一人其持分ヲ讓渡シタルトキハ讓受人ハ他ノ共有者ニ對シ讓渡人ニ代ハリ其地位ヲ有ス

第三十九條 各共有者ハ如何ナル合意アルモ常ニ共有物ノ分割ヲ請求スルコトヲ得

然レトモ共有者ハ五ヶ年ヲ越エサル定期ノ時間分割セサルヲ約スルコトヲ得

此合意ハ何時ニテモ之ヲ更新スルコトヲ得但其時間ハ亦五ヶ年ヲ超ユルコトヲ得ス

右規定ハ數箇ノ所有地ニ共通ナル通路、井戸、籬壁、溝渠ノ互有ヨリ生スル共有權ニ之ヲ適用セス

第四十條 數人ニテ一家屋ヲ區分シ各其一部分ヲ所有スルトキハ相互ノ權利及ヒ義務ハ左ノ如ク之ヲ規定ス

各所有者ハ離隔セル所有物ノ如クニ自己ノ持分ヲ處分スルコトヲ得諸般ノ租稅及ヒ建物並ニ其附屬物ノ共用ノ部分ニ係ル大小修繕ハ各自ノ持分ノ價格ニ應シテ之ヲ負擔ス

各自ハ己レニ屬スル部分ニ係ル費用ヲ一人ニテ負擔ス

第四十一條 所有權ハ當事者ノ間ニ於ケルモ第三者ニ對スルモ本編及
ヒ財產取得編ニ記載シタル原因及ヒ方法ニ依リ之ヲ取得シ保存シ及
ヒ轉付ス

主タル物ノ處分ハ從タル物ノ處分ヲ帶フ但反對ノ證據アルトキハ此
限ニ在ラス

第四十二條 所有權ハ左ノ諸件ニ因リテ消滅ス

第一 任意又ハ強要ノ讓渡

第二 他人ノ物ニ自己ノ物ヲ添附

第三 法律ニ依リテ宣告シタル沒收

第四 取得ノ解除、銷除又ハ廢罷

第五 物ヲ處分スル能力アル所有者ノ任意ノ遺棄

第六 物ノ全部ノ毀滅

第四十三條 動産及ヒ不動産ノ所有權ノ取得及ヒ消滅ニ關スル時効ノ
性質及ヒ効力ニ付テハ證據編ノ規定ニ從フ

第二章 用益權、使用權及ヒ住居權

第一節 用益權

第四十四條 用益權トハ所有權ノ他人ニ屬スル物ニ付キ其用方ニ從テ

其元價本體ヲ變スルコト無ク有期ニテ使用及ヒ收益ヲ爲スノ權利ヲ
謂フ

第一款 用益權ノ設定

第四十五條 用益權ハ法律又ハ人意ニ因リテ設定スルモノトス

法律ニ因ル用益權ノ設定ハ別ニ定ムル法律ノ規定ニ從フ

人意ニ因ル用益權ノ設定ハ所有權ノ取得及ヒ移轉ニ關スル規則ニ從
フ

又用益權ハ有償又ハ無償ニテ讓渡シタル財産ノ上ニ之ヲ留存シテ設
定スルコトヲ得

時効ヲ以テ用益權ノ取得ヲ證スル條件ハ時効ヲ以テ完全ノ所有權ノ
取得ヲ證スル條件ニ同シ

第四十六條 用益權ハ動産ト不動産ト有體物ト無體物トヲ問ハス一切
ノ融通物ノ上ニ之ヲ設定スルコトヲ得

又用益權ハ他ノ用益權ノ上、終身年金權ノ上又ハ包括權原ニテ資産
ノ上ニ之ヲ設定スルコトヲ得

第四十七條 用益權ハ始時若クハ終時ヲ定メ又ハ期限ヲ定メスシテ之
ヲ設定セシムルコトヲ得

又用益權ハ其始時ハ終時ヲ未必條件ノ成就ニ繫ケテ之ヲ設定スル
コトヲ得

右孰レノ場合ニ於テモ其期間ハ用益者ノ終身ヲ超ユルコトヲ得ス

第四十八條 用益權ハ一人又ハ數人ノ終身ヲ期シテ之ヲ設定スルコト
ヲ得數人ノ終身ヲ期シテ設定シタルトキハ數人同時ニ又ハ順次ニ之
ヲ行フ

右孰レノ場合ニ於テモ用益權ハ其權利發開ノ時既ニ出生シ又ハ胎内
ニ在ル者ノ爲メニ非サレハ之ヲ設定スルコトヲ得ス

第二款 用益者ノ權利

第四十九條 用益者ハ其權利ノ發開シタルトキ若シ始時ノ定アラハ其
期限ノ到來シタルトキハ次款ニ定メタル不動産形狀書、動産目錄ヲ
作り及ヒ保證ヲ立ツル義務ヲ履行シタル後其用益權ノ存スル物ノ占
有ヲ要求スルコトヲ得

用益者ハ用益物ヲ其現狀ニテ受取ル可シ修繕又ハ恰好ヲ求ムルコト
ヲ得ス但權利發開ノ後設定者若クハ其相續人ノ過失ニ因リ又ハ發開
ノ前ト雖モ其惡意ニ因リテ用益物ヲ毀損シタルトキハ此限ニ在ラス
第五十條 用益者カ收益ヲ始ムルコトヲ得ルヨリ以後ニ虛有者ノ收取

シタル果實ハ用益者ニ屬ス縱令用益者カ自ラ其收益ヲ逡延シタルモ
亦同シ但其果實ノ收取及ヒ保存ノ費用ヲ虛有者ニ償還スルコトヲ要
ス

用益者ハ收益ヲ始ムル時根枝ニ由リテ土地ニ附着スル果實ヲ其成熟
ニ至リ收取スル權利ヲ有ス但耕耘、種子、栽培ノ費用ヲ虛有者ニ償還
スルコトヲ要セス

第五十一條 用益者ハ其權利ノ繼續間用益物ヨリ生スル天然及ヒ法定
ノ一切ノ果實ニ付キ所有者ニ同シキ權利ヲ有ス

第五十二條 天然ノ果實ハ自然ニ生シタルト栽培ニ因リテ得タルト
問ハス土地ヨリ之ヲ離シタル時直チニ用益者ニ屬ス縱令事變又ハ盜
竊ニ因リテ離レタルモ亦同シ

然レトモ果實カ其成熟前ニ土地ヨリ離レ且用益權カ通常ノ收取季節
前ニ消滅シタルトキハ其利益ハ虛有者ニ歸ス

第五十三條 獸畜ノ子ハ其產出ノ時ヨリ用益者ニ屬ス乳汁、肥料及ヒ
剪毛季節ニ剪取シタル絨毛モ亦同シ

第五十四條 法定ノ果實ハ其拂渡時期ノ如何ヲ問ハス收益ヲ始ムル
ヲ得ル時ヨリ用益權ノ消滅スルマテ用益者日割ヲ以テ之ヲ取得ス

法定ノ果實ハ用益物ニ付キ第三者ヨリ金銭ヲ以テ拂フ可キ納額即チ土地、建物ノ借賃、借入金ノ利息、會社ノ配當金、年金權ノ年金、石坑ノ借料ノ類ナリ

第五十五條 用益物中ニ金銀其他日用品ノ如キ消費スルニ非サレハ使用シ及ヒ收益スルコトヲ得サル動産アルトキハ用益者ハ之ヲ消費シ又ハ讓渡スコトヲ得但用益權消滅ノ時同少量、同品質ノ物ヲ返還シ又ハ收益ヲ始ムル以前ニ評價ヲ爲シタルニ於テハ其代價ヲ返還スルコトヲ要ス

右規定ハ用益權ヲ設定シタル商業資産ヲ組成スル商品ト其他ノ代替物トニ之ヲ適用ス

第五十六條 住居用ノ器具其他使用ニ因リテ毀損ス可キ用益物ニ付テハ用益者ハ其用方ニ從ヒテ之ヲ使用シ且用益權消滅ノ時其現狀ニテ之ヲ返還スルコトヲ得但用益者ノ過失及ハ懈怠ニ因リテ重大ノ毀損ヲ致シタルトキハ此限ニ在ラス

又賃貸スルコトヲ得ヘキ性質ノ用益物ニ非サレハ用益者ハ自己ノ責任ヲ以テ之ヲ賃貸スルコトヲ得ス

第五十七條 終身年金權ノ用益者ハ年金權者ト同シク其年金ヲ收取ス

ルノ權利ヲ有ス但反對ノ條件アルトキハ此限ニ在ラス

既ニ設定シタル用益權ニ付キ更ニ用益權ヲ得タル者ハ原用益者ニ屬スル一切ノ權利ヲ行フ

第五十八條 種類及び員數ノミヲ以テ定メタル畜群ノ用益者ハ保存ヲ要セサル部分ヲ毎年處分スルコトヲ得但其子ヲ以テ全數ヲ保持スルコトヲ要ス

第五十九條 用益者ハ大小木ノ樹林及ヒ竹林ニ付テハ從來ノ所有者ノ慣習及ハ採伐方ニ從ヒ定期ノ採伐ヲ爲シテ收益ス

採伐方 未タ確ニ定マラサルトキハ用益者ハ近傍ノ重ナル所有者又ハ國府縣、市町村ニ屬スル樹林ノ慣習ニ從フ但採伐スル一ヶ月前ニ

虛有者豫告スルコトヲ要ス

第六十條 從來ノ所有者ノ定期採伐ヲ爲サバリシ保存木及ヒ大樹木ニ付テハ用益者ハ其樹木ノ定期產出物ノミヲ得ル權利ヲ有ス

然レトモ用益權ノ存スル建物ノ大修繕ヲ要スルトキハ用益者ハ枯レ又ハ倒レタル大樹木ヲ之ニ用ユルコトヲ得若シ生木ヲ要スルトキハ

虛有者立會ニテ其必要ヲ證セシ後之ヲ採伐スルヲ得

第六十一條 用益者ハ用益樹木ヲ支持スルニ必要ナル脚架、支柱又ハ

枕杙ニ用ニル竹木ヲ何時ニテモ其用益地ノ樹林及ヒ竹林ヨリ採取スルヲ得

第六十二條 用益者ハ用益樹木ヲ植續キ又ハ植増ス爲メ其用益地ノ苗床ヨリ苗木ヲ採取スルヲ得

又用益者ハ其苗床ノ苗木ヲ定期ニ賣ルコトヲ得但從來此用方アルトキ又ハ其生殖力用益地ノ需用ニ餘ルトキニ限ル

右孰レノ場合ニ於テモ用益者ハ苗芽又ハ種子ヲ以テ苗床ヲ保持スルヲ要ス

第六十三條 用益地ニ既ニ採掘ヲ始メ且特別法ニ從フヲ要セザル石類石灰類其他ノ物ノ石坑アルトキハ用益者ハ從來ノ所有者ノ如ク其收益ヲ爲ス

右石坑ヲ未ダ採掘セス又ハ其採掘ヲ廢止シタルキハ用益者ハ其用益物中ノ建物、墻壁其他ノ部分ノ大小修繕ニ必要ナル材料ノミヲ採取スルヲ得但其土地ヲ損傷セス且第六十條ニ記載シタル如ク豫メ其必要ヲ證スルヲ要ス

又用益者ハ前二項ノ區別ニ從ヒ其用益地ノ泥炭及ヒ肥料土ニ付キ收益スルヲ得

第六十四條 用益者ハ用益不動産ニ於テ第三者ノ發見シタル埋藏物ニ付キ權利ヲ有セス

第六十五條 用益者ハ用益地ニ於テ狩獵及ヒ捕漁ヲ爲ス權利ヲ有ス

第六十六條 用益者ハ用益不動産ニ屬スル一切ノ地役權ヲ行フ若シ不使用ニ因リテ之ヲ消滅セシメタルトキハ虛有者ニ對シテ其責ニ任ス

第六十七條 用益者ハ虛有者及ヒ第三者ニ對シ直接ニ其收益權ニ關スル占有及ヒ本權ノ物上訴權ヲ行フコトヲ得

又用益者ハ用益不動産ノ働方又ハ受方ノ地役ニ付キ自己ノ權利ノ範圍内ニ於テ占有ニ係ルト本權ニ係ルトヲ問ハス要請又ハ拒却ノ訴權ヲ行フヲ得

右孰レノ場合ニ於テモ第九十八條ノ規定ヲ適用ス

第六十八條 用益者ハ有償又ハ無償ニテ其用益權ヲ讓渡シ賃貸シ又ハ用益ニ付スルコトヲ得且用益物カ抵當ト爲ル可キモノナルトキハ其權利ヲ抵當ト爲スコトヲ得

如何ナル場合ニ於テモ用益者ノ付與シタル權利ハ其用益權ト同シキ期間制限及ヒ條件ニ從フ但賃貸借ノ期間及ヒ其更新ニ付テハ第九十九條乃至第一百二十二條ノ規定ヲ適用ス

第六十九條

用益者ハ用益權消滅ノ時猶ホ土地ニ附著シテ其收取セザ
リシ果實及ヒ產出物ノ爲メ償金ヲ求ムル權利ヲ有セス
又用益物ニ改良ヲ加ヘテ價格ヲ増シタルトキト雖モ其改良ノ爲メ虛
有者ニ對シテ償金ヲ求ムルコトヲ得ス

第七十條

用益者ハ自己ノ設ケタル建物、樹木、粧飾物其他ノ附加物ヲ收去スル
コトヲ得但其用益物ヲ舊狀ニ復スルコトヲ要ス
用益權消滅ノ時用益者又ハ其相續人カ前條ニ從ヒテ收去ス
ルコトヲ得ヘキ建物及ヒ樹木等ヲ賣ラントスルトキハ虛有者ハ鑑定
人ノ評價シタル現時ノ代價ヲ以テ先買スルコトヲ得

用益者ハ虛有者ニ右先買權ヲ行フヤ否ヤヲ述フ可キノ催告ヲ爲シ其
後十日内ニ虛有者カ先買ノ陳述ヲ爲サス又ハ之ヲ拒絕シタルトキニ
非サレハ其收去ニ着手スルコトヲ得ス

虛有者カ先買ノ陳述ヲ爲シタルト雖モ鑑定ノ後裁判所ノ處決ノ確定
シタル時ヨリ一ヶ月内ニ其代金ヲ辨濟セサルトキハ先買權ヲ失フ但
損害アルトキハ賠償ノ責ニ任ス

用益者又ハ其相續人ハ代金ノ辨濟ヲ受クルマテ建物ヲ占有スルコト
ヲ得

第三款 用益者ノ義務

第七十一條

用益者ハ用益物ノ占有ヲ始ムル前ニ虛有者ト立會ヒ又ハ
合式ニ之ヲ召喚シ完全精確ニ動産ノ目錄、不動産ノ形狀書ヲ作ルコ
トヲ要ス

第七十二條

當事者カ雙方出會シ共ニ能力アルトキ又ハ有効ニ代理セ
ラレタルトキハ目錄及ヒ形狀書ハ私署ヲ以テ之ヲ作ルコトヲ得反對
ノ場合ニ於テハ公吏之ヲ作ル

第七十三條

目錄ニ記シタル代替物ノ評價ハ賣買ニ同シキ効力ヲ有ス
但反對ノ明言アルトキハ此限ニ在ラス不代替物ノ評價ハ賣買ニ同シ
キ効力ヲ有スルコトヲ目錄ニ明示スルニ非サレハ其効力ヲ有セス

第七十四條

用益權設定ノ時用益者ノ目錄又ハ形狀書ヲ作ル義務ヲ免
除シタルト雖モ虛有者ハ常ニ用益者ト立會ヒ又ハ合式ニ之ヲ召喚シ
自費ヲ以テ目錄又ハ形狀書ヲ作ルコトヲ得但此事ニ付キ虛有者ハ十一
日以上收益ヲ妨クルコトヲ得ス

第七十二條及ヒ第七十三條第一項ハ右ノ場合ニ之ヲ適用ス

第七十五條

用益者ハ目錄又ハ形狀書ヲ作ル義務ヲ履行セシメテ收益ヲ始メタルキハ完好ナル形狀ニテ不動産ヲ受取リタリトノ推定ヲ受ク但反對ノ證據アルトキハ此限ニ非ス

不動産ニ付テハ虛有者ハ通常ノ證據ハ勿論世評ヲ以テ其實體及ビ價格ヲ證スルコトヲ得

第七十六條

用益者ハ用益權消滅ノ時負擔ス可キ返還及ビ償金ノ爲メ保證人ヲ立テ又ハ他ノ相應ナル擔保ヲ供スルニ非サレハ收益ヲ始ムルコトヲ得ス

第七十七條

擔保ノ性質ニ付キ當事者ノ間ニ議協ハサルトキハ裁判所ハ顯然資力アル第三者ノ引受ヲ認許シ又ハ供託所若クハ當事者ノ認諾スル第三者ニ金錢若クハ有價物ヲ寄託スルヲ認許シ又ハ質若クハ抵當ヲ認許スルコトヲ得

第七十八條

擔保ス可キ金額ニ付テハ裁判所ハ用益權ノ直接ニ存スル金額未滿ニ其金額ヲ定ムルコトヲ得ス又不動産ノ評價カ賣買ニ同シキ効力ヲ有スルトキハ其評價ノ全額未滿ニ之ヲ定ムルコトヲ得ス又評價カ賣買ニ同シキ効力ヲ有セサルキハ其評價ノ半額未滿ニ之ヲ定ムルコトヲ得ス

然レモ右ノ未ノ場合ニ於テ若シ用益者カ評價セシ不動産ニ係ル權利ヲ用益權ノ繼續間ニ讓渡シ又ハ質貸シタルキハ虛有者ハ常ニ評價ノ全額ニ對シテ擔保ヲ要求スルコトヲ得

不動産ノ擔保金額ノ多寡ハ裁判所之ヲ定ム

第七十九條

擔保ノ設定證書ニハ前條ニ定メタル金額ニ對スル保證人又ハ用益者ノ一身ノ引受ヲ併記ス

第八十條

用益者カ不動産又ハ不動産ニ對シテ相應ナル擔保ヲ供スル能ハス且當事者ノ間ニ別段ノ合意ナキトキハ左ノ如ク處辨ス

日用品其他ノ代替物ハ之ヲ競賣シ其代金ハ虛有者、用益者連名ニテ用益權ノ直接ニ存スル金額ト共ニ供託所ニ供託シ又ハ之ヲ國債券ニ換ヘ用益者ハ其利息ヲ收取ス

此他ノ不動産ハ虛有者之ヲ占有ス

不動産ハ之ヲ第三者ニ質貸シ又ハ虛有者カ質借ノ名義ニテ之ヲ保存シ用益者ハ保持費用及ビ第八十九條ニ記載シタル負擔ヲ扣除シテ質賃ヲ收取ス

第八十一條

用益者カ擔保ノ一分ニ非サレハ供スル能ハサルトキハ引渡ヲ受ク可キ用益物ニ付キ其擔保ノ限度ニ應シテ選擇ヲ爲ス

第八十二條 用益者ノ保證人ヲ立ツル義務ハ設定ノ權原又ハ其後ノ合意ヲ以テ之ヲ免除スルコトヲ得但用益者ノ無資力ト爲リタルトキハ此免除ハ其効ヲ失フ若シ用益者カ既ニ收益ヲ始メタルトキハ其用益物ヲ虛有者ニ返還シ且前二條ニ從ヒテ處辨ス

第八十三條 贈與物ニ付キ贈與者カ自己ノ利益ノ爲メ留存シタル用益權ニ付テハ保證人ヲ立ツル義務ナシ

第八十四條 用益者カ收益ヲ始メタルトキハ善良ナル管理人ノ如ク用益物ノ保存ニ注意スルコトヲ要ス

用益者ハ其過失又ハ懈怠ヨリ生スル用益物ノ滅失又ハ毀損ノ責ニ任ズ但虛有者ノ權利ヲ保護スル爲メ用益者ニ對シテ第四百四條ニ許可シタル處置ヲ爲スコトヲ妨ケス

第八十五條 用益物ノ全部又ハ一分カ火災ニテ滅失シタルトキハ用益者ニ過失アリト推定ス但反對ノ證據アルトキハ此限ニ在ラス

第八十六條 用益者ハ動産及ヒ不動産ノ小修繕ヲ負擔シ其求償權ヲ有セス

大修繕ハ用益者ノ過失ニ因リ又ハ小修繕ヲ爲ササルニ因リテ必要ト爲リタルトキニ非サレハ用益者之ヲ負擔セス

屋根若クハ重モナル牆壁ノ修繕又ハ重モナル梁柱若クハ基礎ノ變更ヲ建物ノ大修繕トス

石垣、土手及ヒ牆壁ノ改造モ亦之ヲ大修繕ト看做ス

第八十七條 過失又ハ懈怠ノ場合ノ外用益者ハ虛有者ヲ立會ハシメ鑑定人ヲシテ大修繕ノ必要ヲ證セシメタル後虛有者其大修繕ヲ爲スコトヲ拒ミタルトキハ自ラ之ヲ爲スコトヲ得

用益權消滅ノ時虛有者ハ右修繕ヨリ生シタル現時ノ增價額ヲ用益者ニ辨償スル責ニ任ズ

若シ虛有者カ大修繕ヲ爲ストキハ用益者ヲ立會ハシメ鑑定人ヲシテ其必要及ヒ費用ヲ證セシメ用益者ハ毎年其費用ノ利息ヲ虛有者ニ辨償ス

第八十八條 前條ノ規定ハ建物カ朽敗ノ爲メ崩壞シ又ハ事變ニ因リテ破壊シタル場合ニモ之ヲ適用ス但第六百六條ニ定メタル如ク此等ノ事ニ因リテ用益權ノ消滅ヲ致ストキハ此限ニ在ラス

第八十九條 用益物ニ賦課セラル、毎年通常ノ租稅及ヒ公課ハ一般ニ係ルモノト一地方ニ係ルモノトヲ問ハズ用益者之ヲ負擔シ其求償權ヲ有セス

用益權ノ繼續間用益物ニ賦課セラル、コト有ル可キ非常ノ公課又ハ租税ニ付テハ虛有者ハ其元本ヲ拂ヒ用益者ハ此時間毎年ノ利息ヲ撥償ス

非常ノ公課又ハ租税ト看做スモノハ左ノ如シ

第一 強要ノ借入

第二 増税又ハ新税但其臨時又ハ非常ノ性質カ法令ニ明示アルト

キ又ハ明ニ事情ヨリ生スルトキニ限ル

第九十條

用益者又ハ虛有者カ通常又ハ非常ノ租税ヲ納メサルトキハ不動産ハ完全ノ所有權ニ於テ之ヲ差押ヘ且賣却シ其代金ヲ怠納租税充ツ若シ殘額アラハ其元本ハ虛有者ニ屬シ其收益ハ用益者ニ屬ス
第九十一條 虛有者カ用益權設定ノ前ニ火災ニ對シテ建物ヲ保險ニ付シタルトキハ用益者ハ毎年保險料ノ利息ヲ拂フノ責ニ任ス但火災ノ場合ニ於テ得タル償金ハ虛有者ニ屬シ其收益ハ用益者ニ屬ス
虛有者カ用益權ノ繼續間ニ完全ノ所有權ヲ保險ニ付シタルトキハ用益者ハ保險料ノ利息ヲ負擔セス其償金ニ關シテハ虛有者カ自己ノ拂ヒタル保險料ノ金額ヲ扣除シムル殘餘ニ付キ收益ス又虛有者カ其虛有權ノミヲ保險ニ付シタルトキハ用益者ハ償金ニ付權利ヲ有セス

海上ノ危険ニ對シ保險ニ付シタル船舶ニ付キ用益權ヲ設定シタルトキモ亦右ノ規定ヲ適用ス

第九十二條

用益者ハ自己及ヒ虛有者ノ利益ノ爲メ自費ヲ以テ保險ヲ約スルコトヲ得此場合ニ於テハ用益者ハ償金ノ額内ヨリ自己ノ拂ヒタル保險料ヲ扣除シ其殘額ニ付テ收益ス

又用益者ハ用益權ノ價格ノミニ付キ建物ヲ保險ニ付シタルトキハ人ニテ保險料ヲ負擔シ災害アリシトキハ其償金ヲ取得ス凍、雹其他天然ノ事變ニ對シ用益者カ收穫物又ハ產出物ヲ保險ニ付シタルトキモ亦同シ

第九十三條

遺言ニテ包括財産ノ用益權ヲ得タル者ハ其得益ノ割合ニ應シテ相續ノ債務ノ利息ヲ負擔ス

此他相續ノ負擔タル養料又ハ終身年金權ノ年金モ亦同上ノ割合ニ應シテ之ヲ負擔ス

第九十四條

特定財産ノ用益者ハ其用益財産カ抵當又ハ先取特權ヲ負擔スルトキト雖モ設定者ノ債務ノ辨濟ヲ分擔セス

用益者カ所持者トシテ訴追ヲ受ケタルトキハ債務者ニ對スル求償權ヲ消ス但用益權ノ設定者又ハ其相續人ニ對スル追奪擔保ノ訴權ヲ妨

第九十五條 虛有者カ元本ヲ負擔シ用益者カ其利息ヲ負擔ス可キ諸般ノ場合ニ於テハ左ノ方法ノ一ニ依リテ處辨ス

- 第一 虛有者カ元本ヲ拂ヒ用益者カ其毎年ノ利息ヲ拂フ
- 第二 用益者カ元本ヲ立替ヘ虚有者カ用益權消滅ノ時之ヲ用益者ニ償還ス
- 第三 要求ヲ受ク可キ金額ニ滿ツルマテ用益物ノ一分ヲ賣却ス

第九十六條 用益權ノ繼續間用益不動産ニ第三者カ虚有者ノ權利ヲ害ス可キ侵奪又ハ作業ヲ爲ストキハ用益者ハ其事實ヲ虚有者ニ告發スルコトヲ要ス若シ此告發ヲ爲サハルトキハ爲メニ生シタル總テノ損害及ヒ第三者ノ取得スル時効又ハ占有權ニ付キ其責ニ任ス

第九十七條 虚有者カ原告又ハ被告トシテ用益物ノ完全ノ所有權ニ係ル訴訟ヲ爲ストキハ用益者ヲ其訴訟ニ召喚スルコトヲ要ス
用益者ハ右訴訟費用ノ利息及ヒ收益ノミニ關スル訴訟費用ヲ負擔ス然レトモ用益權ノ設定證書ヲ以テ用益者ニ追奪擔保ヲ爲シタルトキハ用益者ハ總テノ訴訟費用ヲ負擔セス
如何ナル場合ニ於テモ用益者ハ虚有權ノミニ關スル訴訟費用ヲ分擔

セス

第九十八條 訴訟ニ參加ス可クシテ之ニ參加セシメラレザリシ虚有者又ハ用益者ハ其判決ノ害ヲ受クルコト無シ然レトモ事務管理ノ規則ニ從ヒテ其利ヲ受クルコトヲ得

第四款 用益權ノ消滅

第九十九條 用益權ハ第四十二條ニ記載シタル所有權消滅ノ原因ト同一ノ原因ニ由リテ消滅スルノ外尙ホ左ノ原因ニ由リテ消滅ス

- 第一 用益者ノ死亡
- 第二 用益權ヲ設定シタル期間ノ經過
- 第三 用益者ノ明示シタル用益權ノ拋棄
- 第四 三十ヶ年間繼續シタル不使用
- 第五 用益權ノ廢罷

第一百條 數人ノ終身ヲ期シテ同時ニ且不分ニテ用益權ヲ設定シタルトキハ死亡者ノ持分ハ生存者ヲ利ス其用益權ハ最後ノ死亡者ノ死亡ニ因ルニ非サレハ消滅セス

第一百一條 法人ノ爲メニ設定シタル用益權ハ三十ヶ年ノ期間ヲ以テ消滅ス但三十ヶ年ヨリ短キ期間ヲ以テ設定シタルトキハ此限ニ在ラス

第三百二條 用益者ハ用益權ノ拋棄ヲ以テ其拋棄ニ履行セザルニ義務
ヲ免カ、ルコトヲ得ス

又其拋棄ハ用益者ノ權ニ基キ物ノ上ニ權利ヲ取得シタル第三者ヲ害
スルコトヲ得ス

第三百三條 不使用ハ未成年者ニモ其他ノ人ニシテ之ニ對シ時効ノ經過
スルコトヲ得サル者ニモ之ヲ以テ對抗スルコトヲ得ス
免責時効ニ關スル此他ノ規則ハ不使用ニ之ヲ適用ス

第三百四條 用益者カ用益物ニ重大ノ毀損ヲ加フルトキ又ハ保持ノ欠缺
若クハ收益ノ濫妄ニ因リテ用益物ノ保存ヲ危フスルトキハ裁判所ハ
用益權消滅ノ他ノ原因ノ一ノ生スルマテ用益者ノ費用ヲ以テ用益物
ヲ保管ニ付シ又ハ此時間虛有者ヨリ毎年用益者ニ拂フ可キ金額若ク
ハ果實ノ部分ヲ定メ虛有者ノ爲メ用益權ノ廢罷ヲ宣告スルコトヲ得
裁判所ハ右ト同時ニ其年ノ果實及ヒ產出物ノ分割ヲ定ム
將來ニ於テ用益者ニ拂フ可キ金額又ハ果實ノ價額ハ用益者日割ヲ以
テ之ヲ取得ス

第三百五條 用益權ノ廢罷ハ其廢罷前ニ用益者ノ加ヘタル損害ノ賠償ヲ
妨ケス

六條 事變又ハ朽敗ニ因リテ用益權ノ存スル建物ノ全部カ毀滅シ
タルトキハ用益者ハ土地ニ付テモ材料ニ付テモ收益スルコトヲ得ス
但建物カ用益權ノ存スル土地ノ從タルトキハ此限ニ在ラス

第三百七條 用益物カ公用徵收ヲ受ケタルトキハ用益者ハ其償金ニ付キ
收益ス此場合ニ於テ用益者ハ其收益スル元本ニ對シテ相應ナル擔保
ヲ供スルコトヲ要ス但此場合ヲ豫見シテ特ニ其義務ヲ免除シタルト
キハ此限ニ在ラス

第九十條乃至第九十二條ニ規定シタル場合ニ於テモ亦同シ

第三百八條 池沼ノ用益權ハ水ノ乾涸シテ舊狀ニ復スル見込ナキトキハ
消滅ス

又土地ノ用益權ハ水ノ浸没シテ舊狀ニ復スル見込ナキトキハ消滅ス
第三百九條 第三百四條ニ掲ケタル場合ヲ除クノ外用益權消滅ノ時猶ホ土
地ニ附著スル果實及ヒ產出物ハ虛有者ニ屬ス其栽培又ハ作業ノ費用
ハ之ヲ償還スルコトヲ表セス但不動產賃借人カ果實ニ付キ既ニ得タ
ル權利ヲ妨ケス

第二節 使用權及ヒ住居權

第一百十條 使用權ハ使用者及ヒ其家族ノ需用ノ程度ニ限ルノ用益權ナ
三九

住居權ハ建物ノ使用權ナリ

使用權及ヒ住居權ハ用益權ト同一ノ方法ニ因リテ成立シ及ヒ同一ノ原因ニ由リテ消滅ス

第百十一條 使用權及ヒ住居權ノ程度ヲ定ムル爲メ使用者ノ家族ト看倣ス可キ者ハ使用者ト共ニ住居スル配偶者卑屬親尊屬親及ヒ使用者又ハ此等ノ親族ノ隨身雇人ナリ

第百十二條 設定ノ權原又ハ其後ノ合意ヲ以テ土地ノ使用權ヲ行フノ方法ヲ定メス又ハ住居權ヲ行フ可キ建物ヲ定メサルトキハ當事者立會ノ上裁判所其意見ヲ聽キテ之ヲ定ム

第百十三條 使用權及ヒ住居權ハ之ヲ讓渡シ又ハ賃貸スルコトヲ得ス
第百十四條 使用權又ハ住居權ヲ有スル者ハ用益者ト同シク動産ノ目錄及ヒ不動産ノ形狀書ヲ作り且保證人ヲ立ツル責ニ任ス
又用益者ト同一ノ注意ヲ爲シ及ヒ自己ノ過失ニ付テハ之ト同一ノ責ニ任ス

又其收益ノ割合ニ應シ用益者ト同シク修繕費用、租稅、公課及ヒ訴訟費用ヲ分擔ス

第三章 賃借權、永借權及ヒ地上權

第一節 賃借權

第百十五條 動産及ヒ不動産ノ賃貸借ハ賃借人ヨリ賃貸人ニ金錢其ノ他ノ有價物ヲ定期ニ拂フ約ニテ賃借人ニ或ル時間賃借物ノ使用及ヒ收益ヲ爲ス權利ヲ與フ但後ノ第二款及ヒ第三款ニ定メタル如ク合意ニ因リ又ハ法律ノ効力ニ因リテ當事者ノ負擔スル相互ノ義務ヲ妨ケス

第百十六條 國、府縣、市町村及ヒ公設所ニ屬スル財産ノ賃貸借ハ行政法ヲ以テ之ヲ規定ス

第一款 賃借權ノ設定

第百十七條 賃借權ハ賃貸借契約ヲ以テ之ヲ設定ス

賃借權ヲ遺贈シタル場合ニ於テハ相續人ハ遺言書ニ記載シタル項目及ヒ條件ニ從ヒテ受遺者ト賃貸借契約ヲ取結フコトヲ要ス
賃借權ヲ豫約シタル場合ニ於テモ諾約者ハ要約者ト賃貸借契約ヲ取結フコトヲ要ス

第百十八條 賃貸借契約ハ有償且雙務ノ契約ノ一般ノ規則ニ從フ但後ニ掲ケタル變例ヲ妨ケス

第四百十九條

法律上又ハ裁判上ノ管理人ハ其管理スル物ヲ賃貸スルコトヲ得然レトモ管理人カ期間ニ付キ特別ノ委任ヲ受ケスシテ賃貸スルトキハ左ノ期間ヲ越ユルコトヲ得ス

第一 獸畜其他ノ動物ニ付テハ一ケ年

第二 居室、店舗其他ノ建物ニ付テハ三ケ年

第三 耕地、池沼其他土地ノ部分ニ付テハ五ケ年

第四 牧場、樹林ニ付テハ十ケ年

第四百二十條 管理人ハ前條ニ記載シタル賃貸物ノ區別ニ從ヒ現期間ノ滿了ニ先ヅツ一ケ月、三ケ月、六ケ月又ハ一ケ年内ニ非サレハ同一ノ期間ヲ以テ賃貸借ヲ更新スルコトヲ得ス

然レトモ右ノ時期ニ先ヅチ爲シタル更新ハ新期間ノ始マリシ後尙ホ管理人ノ委任ノ止マサリントキハ無効ナラス

第四百二十一條 管理人ハ金銀外ノ有價物ヲ賃貸ト爲シテ賃貸スルコトヲ得ス

然レトモ耕地ニ付テハ其產出物ヲ賃貸ト爲シテ賃貸スルコトヲ得ス
第四百二十二條 前三條ノ規定ハ代理人ニ之ヲ適用ス但代理委任ノ書面ヲ以テ其權限ヲ伸縮シタルトキハ此限ニ在ラス

第四百二十三條 自己ノ財産ヲ管理スルコトヲ得ル婦及ヒ自治產ノ未成年者モ亦管理人ト同一ノ條件ニ從フニ非サレハ其財産ヲ賃貸スルコトヲ得ス

第四百二十四條 賃借人ハ前數條ニ反シタル賃貸借又ハ其更新ノ無効又ハ短縮ヲ請求スルコトヲ得ス

然レトモ所有者其權利ヲ自在ニスルコトヲ得ルニ至リタルトキハ賃借人ハ所有者ノ認諾スルヤ否ヤノ意思ヲ第四百十九條ニ區別シタル賃借物ノ性質ニ從ヒ五日、八日、十五日又ハ三十日ノ期間ニ述フルコトヲ常ニ要求スルコトヲ得

所有者カ其意思ヲ述フルコトヲ拒ムトキハ賃借人ハ起初又ハ更新ニ於テ定メタル如ク賃借期間ヲ維持セント述フルコトヲ得

第四百二十五條 所有者ノ爲シタル不動産ノ賃貸借カ三十ケ年ヲ超ユルトキハ其賃貸借ハ永賃借ト爲リ此種ノ賃貸借ノ爲メ後ノ第二節ニ定メタル規則ニ從フ

第二款 賃借人ノ權利

第四百二十六條 賃借人ハ賃借物ニ付キ用益者ト同一ノ利益ヲ收ムル權利ヲ有ス但其賃貸借設定ノ契約及ヒ法律ノ規定ヨリ生スル權利ノ増

減ハ此限ニ在ラス

第四百二十七條 賃借人ハ其收益ヲ始ムル爲メニ定メタル時期ニ於テ賃借物ノ占有ヲ賃借人ニ要求スルコトヲ得然レトモ其目錄又ハ形狀書ヲ作り及ヒ保證人ヲ立ツル責ニ任セズ但契約ニ因リテ其責ニ任スルトキハ此限ニ在ラス

第四百二十八條 賃借人ハ物ノ引渡前ニ其用方ニ從ヒテ一切ノ修繕ヲ整フルコトヲ賃借人ニ要求スルコトヲ得

此他賃借人ハ賃借借ノ期間大小修繕ヲ爲ス責ニ任ス但左ノ二項ニ掲タル修繕及ヒ賃借人又ハ其雇人ノ過失若クハ懈怠ニ因リテ必要ト爲リタル修繕ハ賃借人之ヲ負擔ス

賃借人ハ賃借借ノ期間疊、建具、塗彩及ヒ壁紙ノ保持ヲ負擔セズ又井戸、用水溜、汚物溜又ハ水道管ノ疏浚及ヒ普通ニ賃借人ノ爲ス可キ修繕ヲ負擔セズ

本條ノ規定ニ反對ノ慣習アルトキハ其慣習ニ從フコトヲ妨ケス

第四百二十九條 建物ニ必要ト爲リタル大修繕ハ賃借人ヨリ之ヲ要求セサルモ又此カ爲メ賃借人ニ多少ノ不便ヲ生セシム可キモ賃借人之ヲ爲スコトヲ得

然レトモ賃借人ハ右修繕ノ一ヶ月ヨリ長ク繼續スルトキハ借賃ノ減少ヲ要求スルコトヲ得又時間ノ如何ヲ問ハス右修繕ノ爲メ其賃借物中住居ス可キ全部又ハ商業若クハ工業ニ極メテ必要ナル部分ヲ失フ可キトキハ賃借人ハ賃借借ノ解除ヲ請求スルコトヲ得

第四百三十條 賃借人カ第三者ヨリ收益ノ權利ニ妨害又ハ爭論ヲ受ケ其原因賃借人ノ責ニ歸ス可ラサルトキ賃借人ヨリ合式ニ告知ヲ受ケタル賃借人ハ其訴訟ニ參加シテ賃借人ヲ擔保シ又ハ損害ヲ賠償スルコトヲ要ス

第四百三十一條 妨害カ戰爭、旱魃、洪水、暴風、火災ノ如キ不可抗力又ハ官ノ處分ヨリ生シ此カ爲メ毎年ノ收益ノ三分一以上損失ヲ致シタルトキハ賃借人ハ其割合ニ應シテ借賃ノ減少ヲ要求スルコトヲ得但地方ノ慣習之ニ異ナルトキハ其慣習ニ從フコトヲ妨ケス

又右ノ妨害カ引續キ三ヶ年ニ及フトキハ賃借人ハ賃借借ノ解除ヲ請求スルコトヲ得建物ノ一分ノ燒失其他ノ毀滅ノ場合ニ於テ所有者カ一ヶ年内ニ之ヲ再造セサルトキモ亦同シ

第四百三十二條 土地又ハ建物ヲ以テ主タル目的物ト爲シタル賃借借ニ於テ其現在ノ坪數カ契約ノ坪數ヨリ少ナク又ハ多キトキハ土地又ハ

建物ノ賣買ニ於ケルト同一ノ條件ニ從ヒテ借賃ノ増減又ハ契約ノ鎖
除ヲ爲スコトヲ得

四六

第三百三十三條 賃借人ハ賃貸人ノ明許ヲ要セスシテ賃借地ニ適宜ニ建
物ヲ築造シ又ハ樹木ヲ栽植スルコトヲ得但現在ノ建物又ハ樹木ニ何
等ノ變更ヲモ加フルコトヲ得ス

賃借人ハ蓄狀ニ復スルコトヲ得ヘキトキハ其築造シタル建物又ハ栽
植シタル樹木ヲ賃借ノ終ニ收去スルコトヲ得但第四百十四條ヲ以
テ賃貸人ニ與ヘタル權能ヲ妨ケス

第三百三十四條 賃借人ハ賃借ノ期間ヲ超エサルニ於テハ其賃借權ヲ
無償若クハ有償ニテ讓渡シ又ハ其賃借物ヲ轉貸スルコトヲ得但反對
ノ慣習又ハ合意アルトキハ此限ニ在ラス

賃借人ハ讓渡ノ場合ニ於テハ贈與者又ハ賣主ノ權利ヲ有シ轉貸ノ場
合ニ於テハ賃貸人ノ權利ヲ有ス

右孰レノ場合ニ於テモ賃借人ハ賃貸人ニ對シテ其義務ヲ免カル、コ
トヲ得ス但賃貸人カ轉借人ト更改ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス
果實又ハ產出物ノ一分ヲ以テ借賃ト爲シ金錢ヲ以テ之ニ代フルコト
ヲ許サ、ルトキハ賃借權ノ讓渡又ハ轉貸ハ賃貸人ノ承諾アルニ非サ

レハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第三百三十五條 不動産ノ賃借人ハ其權利ヲ抵當ト爲スコトヲ得但讓渡
又ハ轉貸ヲ爲スコトヲ得ヘキ場合ニ限ル

第三百三十六條 賃借人ハ其權利ヲ保存スル爲メ賃貸人及ヒ第三者ニ對
シテ第六十七條ニ記載シタル訴權ヲ行フコトヲ得

第三款 賃借人ノ義務

第三百三十七條 賃貸人其權利ヲ保存スル爲メ賃貸物ノ目錄又ハ形狀書
ヲ作ラント欲スルトキハ賃借人ハ何時ニテモ賃貸人カ已レト立會ヒ
テ之ヲ作ルヲ許諾スルコトヲ要ス但其書類ノ費用ヲ分擔ス

賃借人モ亦賃貸人ヲ召喚シ立會ノ上自費ニテ右目錄又ハ形狀書ヲ作
ルコトヲ得

形狀書ヲ作ラサリシトキハ賃借人ハ修繕完好ノ形狀ニテ賃借物ヲ受
取リタリトノ推定ヲ受ク但反對ノ證據アルトキハ此限ニ在ラス

目錄ナキトキハ動産ノ實體及ヒ形狀ノ證據ハ賃貸人ノ責ニ歸シ通常
ノ方法ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第三百三十八條 金錢ヲ以テ借賃ト爲シタルトキハ賃借人ハ合意シタル
時期ニ之ヲ拂ヒ合意ナキトキハ毎月末ニ之ヲ拂フコトヲ要ス但地方

四七

ノ慣習之ニ異ナルトキハ此限ニ在ラス
果實ヲ以テ借賃ト爲シタルトキハ收穫後ニ非サレハ之ヲ要求スルコトヲ得

第三百二十九條

賃借人借賃ヲ拂ハス其他賃貸借ノ特別ナル項目又ハ條件ヲ履行セサルトキハ賃貸人ハ賃借人ニ對シテ其履行ヲ強要シ又ハ損害アルトキハ其賠償ヲ得テ賃貸借ノ解除ヲ請求スルコトヲ得

第四百十條

賃借人ハ賃借物ニ直接ニ賦課セラル、通常及ヒ非常ノ租稅其他ノ公課ヲ負擔セス若シ租稅法ニ依リテ賃借人ヨリ徵收スルコト有ルトキハ其借賃ヨリ之ヲ扣除シ又ハ賃貸人ヨリ賃借人ニ之ヲ償還ス但反對ノ合意アルトキハ此限ニ在ラス

然レトモ賃借人ノ築造シタル建物ニ賦課セラレ又ハ賃借不動産ニ於テ賃借人ノ營業商業若クハ工業ニ賦課セラル、租稅其他ノ公課ハ賃借人ノ負擔ス

第三百四十一條 賃借人ハ明示ト默示トヲ問ハス合意ヲ以テ定メタル用方ニ從フニ非サレハ賃借物ヲ使用スルコトヲ得ス其合意ナキトキハ契約ノ時ノ用方又ハ賃借物ノ性質ニ相應シテ毀損セサル用方ニ從フニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第三百四十二條 賃借人ハ賃借物ノ看守及ヒ保存ニ付キ用益者ト同一ノ義務ヲ負擔ス

第三百者カ賃借物ニ侵奪又ハ作業ヲ爲ストキハ賃借人ハ第九十六條ニ記載シタル如ク用益者ト同一ノ責ニ任ス

第三百四十三條 賃貸借ノ終ニ於テ賃借人カ賃借物ヲ返還セサルトキハ賃貸人ハ其選擇ヲ以テ對人訴權又ハ物上訴權ニテ之ヲ訴追スルコトヲ得

第三百四十四條 賃貸人ハ賃貸借ノ終ニ於テ第三百二十三條ニ依リテ賃借人ノ收去スルヲ得ヘキ建物及ヒ樹木ヲ先買スルコトヲ得此場合ニ於テハ第七十條ノ規定ヲ適用ス

第四百款 賃借權ノ消滅

第四百十五條 賃借權ハ左ノ諸件ニ因リテ當然消滅ス

第一 賃借物ノ全部ノ滅失

第二 賃借物ノ全部ノ公用徵收

第三 賃貸人ニ對スル追奪又ハ賃貸物ニ存スル賃貸人ノ權利ノ取消但追奪及ヒ取消ハ賃貸借契約以前ノ原因ニ由リ裁判所ニ於テ之ヲ宣告セシトキニ限ル

第四 明示若シハ默示ニテ定メタル期間ノ滿了又ハ要約シタル解除條件ノ成就

第五 初ヨリ期間ヲ定メサルトキハ解約申入ノ告知ノ後法律上ノ期間ノ滿了

右ノ外貸借ハ條件ノ不履行其他法律ニ定メタル原因ノ爲メ當事者ノ一方ノ請求ニ因リ裁判所ニテ宣告シタル取消ニ因リテ終了ス

第四百十六條 意外又ハ不可抗ノ原因ニ由リテ賃借物ノ一分ノ滅失セシトキハ賃借人ハ第三百三十一條ニ記載シタル條件ニ從ヒテ賃借借ノ解除ヲ要求シ又ハ貸借借ヲ維持シテ借賃ノ減少ヲ要求スルコトヲ得

第四百十七條 期間ノ定メアル貸借ノ終リシ後賃借人仍ホ收益シ賃借人ノ知リテ故障ヲ爲サ、ルトキハ新貸借借暗ニ成立シ前貸借借ト同一ノ負擔及ヒ條件ニ從フ

然レモ前貸借借ヲ擔保シタル抵當ハ消滅シ保證人ハ義務ヲ免カル新貸借借ハ下ノ數條ニ記載シタル如ク解約申入ニ因リテ終了ス

第四百十八條 家具ノ附キタル建物ノ全部又ハ一分ノ貸借借ニシテ其期間ヲ明示セス其借賃チ一年、一月又ハ一日ヲ以テ定メタルモノハ一年、一月又ハ一日ノ間貸借借ヲ爲シタリト推定ス但前條ニ記載シタル默示ノ更新ヲ妨ケス

動産ノミテ以テ目的ト爲シタル賃借借ニ付テモ亦同シ

第四百十九條 家具ノ附カサル建物ノ賃借借ハ期間ヲ定メサルトキ又ハ之ヲ定メタルモ默示ノ更新アリタルトキハ何時ニテモ當事者ノ一方ノ解約申入ニ因リテ終了ス

解約申入ヨリ返却マテノ時間ハ左ノ如シ

第一 建物ノ全部ニ付テハ二ヶ月但賃借人ノ造作ヲ附シタルトキハ三ヶ月

第二 建物ノ一分ニ付テハ一ヶ月但賃借人ノ造作ヲ附シタルトキハ二ヶ月

第四百五十條 家具ノ附キタル建物ノ賃借借ニ付キ默示ノ更新アリタルトキハ解約申入ヨリ返却マテノ時間ハ左ノ如シ

第一 前貸借借ノ期間ヲ三ヶ月又ハ其以上ニ定メタルトキハ一ヶ月

第二 三ヶ月未満ノ賃借借ニ付テハ原期間ノ三分一

第三 田舎ノ賃貸借ニ付テハ二十四時

五二

右規定ハ黙示ノ更新後ノ動産ノ賃貸借ニ付テモ亦之ヲ適用ス
賃貸セシ建物ニ備ヘタル動産又ハ用方ニ因ル不動産ト看做ス可キ動
産ノ賃貸借ハ其建物ノ賃貸借ノ終了スルニ非サレハ終了セズ

第百五十一條 土地ノ賃貸借ニシテ期間ヲ定メサルモノ又ハ期間ヲ定
メタルモ黙示ノ更新アリタルモノハ耕地ニ付テハ主タル收穫季節ヨ
リ六ヶ月前又ハ不耕地其他牧場、樹林ニ付テハ返却セシム可キ時期
ヨリ一ヶ年前ニ解約申入ヲ爲スニ因リテ終了ス

第百五十二條 解約申入及ヒ返却ノ時期ニ關スル前數條ノ規定ハ其時
期ニ付キ地方ノ慣習ナキトキニ非サレハ之ヲ適用セズ

第百五十三條 如何ナル場合ニ於テモ賃借人ノ權利ノ存スル一切ノ收
穫物ヲ收去スル前ニ賃貸借ノ終了セシトキハ賃借人又ハ新賃借人ハ
前賃借人ノ之ヲ收去スルニ委ヌルコトヲ要ス

又賃借人ハ土地ノ收穫物ヲ收去シタル部分ニ於テ賃貸借ノ終了前ニ
急要ノ作業ヲ爲スコトヲ賃借人又ハ新賃借人ニ許スコトヲ要ス但賃
借人此カ爲メ妨害ヲ受ク可キトキハ此限ニ在ラス

第百五十四條 賃借人カ賃借物ヲ讓渡サントシ又ハ自己ノ爲メ若クハ

他ノ特別ナル原因ノ爲メ之ヲ取戻サントスルキハ期間ノ滿了前ト雖
モ賃貸借ヲ削除スルコトヲ得ル權能ヲ留保シタル場合又賃借人カ賃貸
借ノ無用ト爲ル可キ未定事故ヲ慮リテ同一ノ權能ヲ留保シタル場合
ニ於テハ前數條ニ定メタル時期ニ於テ各自豫メ申入ヲ爲スコトヲ要ス

第二節 永借權及ヒ地上權

第一款 永借權

第百五十五條 永賃借トハ期間三十ヶ年ヲ超ユル不動産ノ賃貸借ヲ謂

フ
永賃借ハ五十ヶ年ヲ超ユルコトヲ得ヌ此期間ヲ超ユル賃貸借ハ之ヲ五
十ヶ年ニ短縮ス

永賃借ハ常ニ之ヲ更新スルコトヲ得然レトモ其更新ノ時ヨリ五十ヶ
年ヲ超ユルコトヲ得ヌ

當事者カ永賃借契約ナルコトヲ明示シ其期間ヲ定メサルトキハ其賃
借ハ四十ヶ年ニシテ終了ス

本法實施以前ニ期間ヲ定メテ爲シタル不動産ノ賃貸借ハ五十ヶ年ヲ
超ユルモノト雖モ其全期間有効ナリ

本法實施以前ニ期間ヲ定メヌシテ爲シタル遊蕩地又ハ未耕地ノ賃貸

借及ヒ永小作ト稱スル賃貸借ノ終了ノ時期及ヒ條件ハ日後特別法ヲ以テ之ヲ規定ス

第百五十六條 永賃借ハ永賃借契約ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ設定スルコトヲ得ス其遺贈又ハ豫約ニ付テハ第百十七條ノ規定ニ從フ

第百五十七條 當事者相互ノ權利及ヒ義務ハ永賃借ノ設定契約ヲ以テ之ヲ定ム

特別ノ合意ナキトキハ下ノ規定ニ從フノ外通常賃貸借ノ規則ニ從フ

第百五十八條 永借人ハ永借地ノ形質ヲ變スルコトヲ得但永久ノ毀損ヲ生セシメサルコトヲ要ス

水借人ハ常ニ沼澤ヲ乾涸スルコトヲ得又永借地ノ作業ニ益ス可キトキハ其土地ヲ通過スル水流ヲ變轉スルコトヲ得

第百五十九條 永借人ハ原野ヲ開墾スルコトヲ得然レトモ所有者ノ承諾アルニ非サレハ定期採伐ニ供シタル小木林ノ樹木ヲ掘取ルコトヲ得ス又定期採伐ニ供セサル樹木ニシテ既ニ二十ヶ年ヲ過キ且其成長ノ年期カ賃借ノ期間ヲ超ユ可キモノヲ採伐スルコトヲ得ス

第百六十條 永借人ハ如何ナル場合ニ於テモ所有者ノ承諾アルニ非サレハ主タル建物ヲ取除クコトヲ得ス從タル建物ト雖モ其存立ノ時期

カ賃借ノ期間ヲ超ユ可キモノハ亦同シ

第百六十一條 前二條ニ從ヒ永借人カ建物又ハ樹木ヲ取除キタルトキハ其物料及ヒ材木ハ所有者ニ屬ス

第百六十二條 永借人ハ地底ニ鑛物在ルトキハ開坑ノ特許ヲ得タル者ヨリ所有者ニ拂ヘル償金ニ付キ何等ノ權利ヲモ有セス然レトモ此ノ特許ヲ得タル者ノ地上ニ加ヘタル損害ノ爲メ賠償ヲ受クル權利ヲ有ス

第百六十三條 永借地ニ既ニ採掘ヲ始メ且特別法ニ從フヲ要セサル石類、石灰類其他ノ物ノ石坑アルトキハ永借人ノ其收益ヲ繼續ス

右石坑ヲ未タ採掘セス又ハ其採掘ヲ廢止シタルトキハ永借人ハ永借地ノ改良ノ爲メ石其地ノ物料ヲ採取スルコトヲ得

第百六十四條 永賃人ハ永賃借契約ノ當時ノ現狀ニテ永賃物ヲ引渡スモノトス

永賃人ハ賃借ノ期間大小修繕ヲ負擔セス

第百六十五條 意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ賃借ノ期間ニ起リタル毀損ハ賃貸減少ノ理由ト爲ラス但第百六十九條ニ定メタル解除ノ權利ヲ妨グ

第五百六十六條 永貸人ニ對シ永借物ニ賦課セラル、通常又ハ非常ノ租
稅其他ノ公課ハ永借人之ヲ永貸人ニ辨濟ス

第五百六十七條 數人カ一箇ノ契約ヲ以テ一箇ノ不動産ヲ永借シタルト
キハ借賃ヲ拂フ義務ハ各永借人又ハ其相續人ニ在テハ連帶ニシテ且
不可分ナリ

第五百六十八條 永借人カ第六十六條ノ辨濟ヲ爲サス又ハ三ケ年間引
續キ借賃ノ拂入ヲ爲サ、ルトキハ永貸人ハ永貸借ノ解除ヲ請求スル
コトヲ得

又永借人カ他ノ債權者ノ訴追ニ因リテ破産又ハ無資力ノ宣告ヲ受ケ
タルトキハ永貸人ハ辨濟ノ如何ナル不足ニ拘ハラズ解除ヲ請求スル
コトヲ得但其債權者カ借賃ヲ延滞ナク拂入ル、コトヲ擔保スルトキ
ハ此限ニ在ラス

第五百六十九條 永借人ハ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ三ケ年間引續
キ全ク不動産ノ收益ヲ得ル能ハス又ハ其一分ノ毀損ニ因リテ將來ノ
收益カ借賃ノ年額ヲ超ニ可キ見込ナキトキハ永貸借ノ解除ヲ請求ス
ルコトヲ得

第五百七十條 永借人カ永借地ニ加ヘタル改良及ヒ栽植シタル樹木ハ永
貸借ノ満期又ハ其解除ニ當リ賠償ナクシテ之ヲ殘置クモノトス
建物ニ付テハ通常賃貸借ニ關スル第四百四十四條ノ規定ヲ適用ス

第二款 地上權

第五百七十一條 地上權トハ他人ノ所有ニ屬スル土地ノ上ニ於テ建物又
ハ竹木ヲ完全ノ所有權ヲ以テ占有スル權利ヲ謂フ

第五百七十二條 地上權設定ノ時其土地ニ建物又ハ樹木ノ既ニ存スルト
否トヲ問ハズ設定行爲ノ基本、方式及ヒ公示ハ不動産讓渡ノ一般ノ
規則ニ從フ

第五百七十三條 地上權者カ讓受ケタル建物又ハ樹木ノ存スル土地ノ面
積ニ應シテ土地ノ所有者ニ定期ノ納額ヲ拂フ可キトキハ其權利及ヒ
義務ハ其拂フ可キ納額ニ付テハ通常賃貸借ニ關スル規則ニ從ヒ其繼
續スル期間ニ付テハ第六十六條ノ規定ニ從フ

右納額ニ付テハ新ニ建物ヲ築造シ又ハ樹木ヲ栽植スル爲メ土地ヲ貸
借シタルトキモ亦同シ

第五百七十四條 既ニ存セル建物又ハ樹木ニ於ケル地上權ノ設定ニ際シ
從トシテ之ニ屬ス可キ周邊ノ地面ヲ明示セザルトキハ左ニ掲クル規
定ニ從フ

建物ニ付テハ地上權者ハ其建坪ノ全面積ニ同シキ地面ヲ得ルノ權利
ヲ有ス此配置ハ鑑定人ヲシテ土地及ヒ建物ノ周圍ノ形狀ト建物ノ各
部ノ用方トヲ斟酌セシメテ之ヲ爲ス
樹木ニ付テハ地上權者ハ其最長大ナル外部ノ枝ノ蔭蔽ス可キ地面ヲ
得ル權利ヲ有ス

百七十五條 地上權設定後ニ築造シタル建物又ハ栽植シタル樹木ニ
付テハ地上權者ハ此種ノ作業ノ爲メ法律ヲ以テ相隣者ノ爲メニ規定
シタル距離及ヒ條件ヲ遵守ス可シ縱令其隣人カ地上權ノ設定者ナル
モ亦同シ

又地上權者ハ働方又ハ受方ニテ其他ノ地役ノ規則ニ從フ

百七十六條 既ニ存セル建物又ハ地上權者ノ築造ス可キ建物ニ付キ
設定權原ヲ以テ地上權ノ繼續期間ヲ定メサルトキハ此建物存立ノ時
期間其權利ヲ設定シタルモノト推定ス但其大修繕ハ土地ノ所有者ノ
承諾アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス
既ニ存セル樹木又ハ地上權者ノ栽植ス可キ樹木ニ付テハ其地上權ハ
樹木ヲ採伐スル時期マテ又ハ其有用ナル最長大ニ至ル可キ時期マテ
之ヲ設定シタリト推定ス

此他地上權ハ通常賃借權ト同一ノ原因ニ由リテ消滅ス但所有者ノ爲
ス解約申入ハ此限ニ在ラス

地上權者ハ一ヶ年前ニ豫告ヲ爲シ又ハ未ダ拂期限ノ至ラサル納額ノ
一ヶ年分ヲ拂フトキハ常ニ解約申入ヲ爲スコトヲ得

百七十七條 建物又ハ樹木ノ契約前ヨリ存スルト否トナ問ハス地上
權者之ヲ賣ラントスルトキハ土地ノ所有者ニ先買權ヲ行フヤ否ヤヲ
述フ可キノ催告ヲ一ヶ月前ニ爲スコトヲ要ス

右先買權ニ付テハ此他尙ホ第七十條ノ規定ニ從フ

百七十八條 本法實施ノ時ニ存スル地上權ハ左ノ規定ニ從フ
期限ヲ立テ、設定シタル地上權ハ其期限ニ至リ當然消滅ス
期限ヲ立テスシテ設定シタル地上權ハ百七十六條ニ從ヒテ建物存
立ノ時期間繼續ス

右兩様ノ地上權ハ共ニ前條ニ規定シタル先買權ニ服ス

第四章 占有

第一節 占有ノ種類及ヒ占有スルコトヲ得ヘキ物

百七十九條 占有ニ法定自然及ヒ容假ノ三種アリ

百八十條 法定ノ占有トハ占有府カ自己ノ爲メニ肯スルノ意思ヲ以

テスル有體物ノ所持又ハ權利ノ行使ヲ謂フ

六〇

權利ハ物權ト人權トヲ問ハス法定ノ占有ヲ受クルコトヲ得其種々ノ効力ハ場合ニ從ヒ下ニ之ヲ定ム

第百八十一條 法定ノ占有カ占有ノ權利ヲ授付ス可キ性質アル權利行爲ニ基クトキハ讓渡人ニ授付ノ分限ナキヲ以テ其効力ヲ生スル能ハサルトキト雖モ其占有ハ正權原ノ占有ナリ

占有カ侵奪ニ因リテ成リタルトキハ其占有ハ無權原ノ占有ナリ

第百八十二條 正權原ノ占有ハ權原創設ノ當時ニ於テ占有者カ其權原ノ瑕疵ヲ知ラザリシトキハ之ヲ善意ノ占有トシ此ニ反スルトキハ惡意ノ占有トス

法律ノ錯誤ハ善意ニ付テノ利益ヲ受クル爲メニ之ヲ申立ツルコトヲ許サス但第百九十四條ノ規定ヲ妨ケス

善意タルコトハ權原ノ瑕疵ヲ覺知シタルトキハ止ム

第百八十三條 強暴又ハ隱密ノ占有ハ之ヲ瑕疵ノ占有トス

占有カ暴行又ハ脅迫ニ因リテ成リ又ハ保持セラレタルトキハ其占有ハ強暴ノ占有ナリ

占有カ公然且外見ノ所爲ニ因リテ當事者ニ容易ニ見ハレザルトキハ

其占有ハ隱密ノ占有ナリ

右占有カ平穩ト爲リ又公然ト爲リエルトキハ其瑕疵ハ消滅ス

第百八十四條 自然ノ占有トハ占有者カ自己ノ權利ヲ主張スル意ナク

シテ有體物ヲ所持スルヲ謂フ

公有物ニ付テハ各人ハ自然ノ占有ノ外占有ヲ爲スコトヲ得ス

第百八十五條 容假ノ占有トハ占有者カ他人ノ爲メニ其他人ノ名ヲ以テスル物ノ所持又ハ權利ノ行使ヲ謂フ

容假ノ占有者カ自己ノ爲メニ占有ヲ始メタルトキハ其占有ノ容假ハ止ミテ法定ト爲ル

然レトモ占有ノ權原ノ性質ヨリ生スル容假ハ左ニ掲クル場合ニ非ザレハ止マヌ

第一 占有ヲ爲サシメタル人ニ告知シタル裁判上又ハ裁判外ノ行爲カ其人ノ權利ニ對シ明確ノ異議ヲ含メルトキ

第二 占有ヲ爲サシメタル人又ハ第三者ニ出テタル權原ノ轉換ニシテ其占有ニ新原因ヲ付スルトキ

第百八十六條 占有者ハ常ニ自己ノ爲メニ占有スル者トノ推定ヲ受ク但占有ノ權原又ハ事情ニ因リテ容假ノ證據アルトキハ此限ニ在ラス

六一

第六二
第八十七條 正權原ノ證據アル占有ハ之ヲ善意ノ占有ナリト推定ス
但反對ノ證據アルトキハ此限ニ在ラス

第八十八條 強暴ノ證據アリタル占有ハ之ヲ平穩ノ占有ト推定ス
占有ノ公然ハ之ヲ推定セス必ス之ヲ證スルコトヲ要ス
前後二箇ノ時期ニ於テ證據アリタル占有ハ其中間繼續シタリトノ推
定ヲ受ク但其占有ノ中斷又ハ停止ノ證據アルトキハ此限ニ在ラス

第二節 占有ノ取得

第八十九條 法定ノ占有ハ或ル物ノ所有權又ハ或ル權利ヲ自己ノ有
ト爲ス意思ヲ以テ其物ヲ握取スル所爲ニ因リ又ハ其權利ヲ實行スル
ニ因リテ之ヲ取得ス

第九十條 物ノ所持又ハ權利ノ行使ハ之ヲ第三者ノ所爲ニ委ヌルコ
トヲ得但占有スルノ意思ハ占有ニ付キ利益ヲ得ント主張スル其人ニ
存スルコトヲ要ス

然レトモ無能力者及ヒ法人ハ其代人ノ意思及ヒ所爲ニ因リテ占有ノ
利益ヲ受クルコトヲ得

第九十一條 物ノ摺取ハ簡易ノ引渡又ハ占有ノ改定ヲ以テ之ニ代フ
ルコトヲ得

初メ容假ノ權原ヲ以テ占有シタル物ヲ其占有者ニ爾後自己ノ權利ヲ看
做スコトヲ得セシムル新權原ニ依リテ之ヲ保存セシメタルハ簡
易ノ引渡アリタリトス

初メ物ヲ自己ニ屬ストシテ占有シタル者カ爾後他人ノ名ヲ以テ其他
人ノ爲メ占有ヲ繼續スルコトヲ承諾シタルトキハ占有ノ改定アリタ
リトス

權利ノ行使ニ付テハ初メ他人ノ名ヲ以テ行使セル者カ爾後自己ノ爲
メニモ行使スルニモ亦當事者ノ意思ノミニテ足ル又初メ自己ノ爲メ
行使セル者カ爾後他人ノ爲メニ行使スルニ付テモ亦同シ

第九十二條 占有ハ前主ニ於テ存シタル占有ノ性質及ヒ瑕疵ヲ以テ
相續人其他包括權原ノ承繼人ニ移轉ス

物又ハ權利ノ特定權原ノ取得者ハ其利益ニ從ヒ或ハ自己ノ占有ノミ
ヲ申立テ或ハ自己ノ占有ニ讓渡人ノ占有ヲ併セテ申立ツルコトヲ得

第三節 占有ノ効力

第九十三條 法定ノ占有者ハ反對ノ證據アルニ非ザレハ其行使セル
權利ヲ適法ニ有スルモノトノ推定ヲ受ク其權利ニ關スル本權ノ訴ニ
付テハ常ニ被告タルモノトス

第九十四條 正權原且善意ノ占有者ハ天然ノ果實及ヒ產出物ニ付テハ自身又ハ代人ヲ以テ土地ヨリ離シタル時ニ於テ之ヲ取得シ法定ノ果實ニ付テハ用益者ニ關シ規定シタル如ク日割ヲ以テ之ヲ取得ス
占有者カ正權原ヲ有セスシテ事實又ハ法律ノ錯誤ニ因リテ惡意ナキトキハ其消費シタル果實ニ付キ利益ヲ得サリシ證據ノ擧クルニ於テハ之ヲ返還スル責ニ任セス

占有者カ其占有セシ物又ハ權利ノ自己ニ屬セサルコトヲ覺知シタルトキハ將來ニ向ヒテ果實返還ノ責ヲ生ヌ又訴訟ニ於テ確定ニ敗訴シタルトキハ其出訴ノ時ヨリ此責ヲ生ヌ

第九十五條 惡意ノ占有者ハ回復ノ請求ヲ受ケタル物又ハ權利ハ勿論現物ニテ仍ホ占有スル果實及ヒ產出物ヲ返還シ且其既ニ消費シ又ハ過失ニ因リテ損傷シ又ハ收取ヲ怠リタル果實及ヒ產出物ノ代價ヲ償還スル責ニ任ヌ
回復者ハ通常ノ負擔タル費用ヲ占有者ニ償還スルコトヲ要ス
強暴又ハ隱密ノ占有者ハ其權原ノ正當ナルコトヲ自ラ信セシトキト雖モ果實ニ關シテハ常ニ之ヲ惡意ノ占有者ト看做ス

第九十六條 占有者ハ善意ナルト惡意ナルトヲ問ハス物ノ保存ノ爲メ又ハ物ノ増價ノ爲メ費シタル金額ヲ回復者ヨリ償還セシムルコトヲ得
右軌レノ占有者モ其分限ノミニテハ奢靡ノ爲メ費シタル金額ノ償還ヲ求ムルコトヲ得ス

第九十七條 前二條ノ場合ニ於テ善意ノ占有者ハ回復者ノ言渡サレタル保存又ハ増價ノ爲メノ費用ノ全償ヲ得ルマテ物ノ上ニ留置權ヲ有ス
惡意ノ占有者ハ保存ノミニノ費用ニ付キ留置權ヲ有ス

第九十八條 物カ毀損ヲ受ケ又ハ價格ヲ減シ其責ヲ占有者ニ歸ス可キトキハ惡意ノ占有者ニ在テハ如何ナル場合ニ於テモ所有者ニ賠償ヲ爲シ善意ノ占有者ニ在テハ其毀損又ハ減價ニ因リ已レテ利シタル場合ニ於テ其利シタル限度ニ應シ賠償ヲ爲スコトヲ要ス

第九十九條 占有者ハ占有ヲ保持シ又ハ回收スル爲メ下ノ區別ニ從ヒテ占有ニ關スル訴權ヲ有ス
占有訴權ハ保持訴權、新工告發訴權、急害告發訴權及ヒ回收訴權ノ四種ナリ

第二百條 保持訴權ハ不動産ト包括動產ト特定動產トヲ問ハス其占有